

ノ情ニ捉ハレテ苟モ追撃ヲ躊躇スルガ如キコトアルベカラズ。

第三節 夜間戦闘

其一 中(小)隊ノ攻撃

【要旨】 夜暗ヲ利用シ敵ニ近接スル場合ニ於テハ特ニ諸種ノ手段ヲ盡シテ連繫ヲ確保シ、靜肅ニシテ且成ルベク迅速確實ニ所期ノ地點ニ到達シ得ルコト必要ナリ、縦ヒ臨時定ムル所ノ記號ヲ用フル場合ニ於テモ亦同様ニ動作シ得ザルベカラズ。

【要領】 (イ) 攻撃隊形 夜間敵ニ近接スル爲中隊ハ行動容易ナルコトヲ主眼トシテ其隊形ヲ選定スルモノトス、而シテ引續キ攻撃ヲ實行スル場合ニ於テハ攻撃隊形ニ移ルニ容易ナルコトヲモ顧慮スベシ、其何レノ場合ニモ前方及側方要スレバ後方ニ斥候ヲ出シテ警戒スルヲ要ス夜間ニ於ケル中隊ノ攻撃隊形選定ノ要ハ、指揮掌握確實ニシテ正面ニ對シ多クノ銃劍ヲ使用シ得、且成ルベク運動容易ニシテ要スレバ敵火ノ損害ヲ減少シ得ルコトヲモ顧慮スルヲ必要トス、之ガ爲中隊縱

隊、併立縱隊、分隊ノ側面縱隊ヲ併列セル小隊ヲ併列若ハ重疊シタル隊形、又ハ時トシテ此等ノ隊形ノ前方ニ近ク濃密ナル散兵ヲ進ムル等、狀況特ニ敵陣地ノ狀態、地形、明暗ノ度等ニ應ジ適宜之ヲ選擇スベシ時トシテ中隊ヲ第一線ト豫備隊トニ區分スルコトアリ此際中隊長ハ豫メ豫備隊ニ所要ノ命令ヲ與へ中隊ノ突撃ニ方リテハ其長ヲシテ適宜動作セシムルモノトス

(ロ) 行進方向ノ維持 夜間攻撃ヲ實行スル場合ニ於テハ特ニ敵陣地突入後ニ於ケル行進方向ノ認識ヲ確實ナラシムルコトニ顧慮スルヲ要ス

行進方向ノ維持ニ就テハ成ルベク天然又ハ人爲ノ地物ニ依リ其方向ヲ定メ或ハ晝間ニ於テ豫メ前方若ハ後方ニ行進方向ノ基準ヲ標示スベシ晝間之ヲ實施スルコト能ハザルトキハ選抜セル幹部ヲ先行セシメ綱、標兵、隱顯燈或ハ識別シ易キ物件等ヲ以テ行進方向ヲ指示セシムルヲ可トス又何レノ場合ニ於テモ磁石ヲ併用スルヲ有利トス、

(ハ) 攻撃實行 夜間ノ攻撃實行ハ特ニ周到ナル準備ヲ整ヘ中隊長以下確乎タル自信ヲ以テ之ヲ斷行スルヲ要ス、而シテ我が企圖ヲ秘匿セシムルニ依リ運動ヲ行ヒ突入ノ外號令ヲ用ヒザルヲ可トス、要スレバ彼我ノ識別ヲ容易ナラシムル爲標識ヲ爲シ合言葉ヲ定ムベシ

夜間ノ攻撃ニ方リテハ中隊長ハ中隊ノ先頭ニ位置シ記號ニヨリ中隊ヲ指揮誘導シ通常火戰ヲ交フルコトナク敵前至近ノ距離ニ近接シ不意ニ敵陣地ニ突入スルヲ可トス之ガ爲要スレバ豫メ裝填ヲ禁止スベシ

攻撃前進中敵ノ斥候又ハ監視兵等ニ遭遇セバ警戒ノ爲配置セラレタル斥候ハ之ヲ急襲シ、又中隊長ハ若干ノ斥候群ヲ豫メ手裡ニ存シ所要ニ應ジ之ヲ使用スル等適宜ノ處置ヲ爲シ、中隊ハ特ニ團結ト靜肅トヲ保チ之ニ關與スルコトナク極力企圖ヲ秘匿シ、突入前敵ニ發覺セラルルニ至レバ遲疑スルコトナク突撃ヲ斷行スベシ

突撃ハ喇叭ヲ吹奏スルコトナク之ヲ行フモノトス

但シ時トシテ喊聲ヲ發セシムルコトアリ

(ニ) 突入後ノ動作 示サレタル目標ヲ奪取セバ大隊長並隣接部隊トノ連絡ヲ確保シ、斥候ヲ以テ敵ト近接シ其ノ狀況ヲ搜索シ速ニ秩序ヲ恢復シ敵ノ逆襲ニ備ヘ且爾後ノ行動ヲ準備スベシ

其二 防禦

〔要旨〕 夜間ノ防禦ニ在リテハ必要ニ應シ最初ヨリ第一線ノ兵力ヲ増加シ支點毎ニ各々當面ノ敵ニ對シ防禦セシムルモノトス。

〔要領〕 (イ) 夜間配備ノ變更 中隊長ハ所要ニ應ジ晝間ニ於ケル支點ノ兵力ヲ増減シ、重要ナル方面ノ支點ニハ豫備隊ノ一部ヲ増加シ、又射擊區域ノ配當ヲ變更スル等ノ處置ヲ講ジ以テ夜間防禦ノ要求ヲ充足スルヲ要ス

(ロ) 火網構成 火網ハ至近距離ニ於テ熾盛ナル火力ヲ發揚シ得ル如ク定ムベキモノニシテ支點ノ守兵ハ專ラ當該支點ノ防禦ニ任ゼシメ支點相互ニ火力ヲ以テ支援セシメザルヲ本旨トス

而シテ地形上特ニ一部ノ火力ヲ隣接支點正面ニ指向セシムル場合ニ於テハ、特ニ相互ノ連繫ヲ密ニシ好機ニ投ジ有效ナル射撃ヲ行ヒ得ル如ク處置スルコト緊要ナリ

夜間射撃ノ爲ニハ友軍相互ニ危害ヲ及サザル如ク嚴密ニ規定スルヲ要ス

(ハ) 支點ノ防禦 支點ハ射撃威力ヲ發揚スルニ妨ナキ限り兵力ヲ集結シ指揮掌握ヲ確實ニシ、以テ自兵戰ヲ有効ニ實施シ得ルコトヲ考慮スルヲ要ス

此際敵ノ包圍的行動ヲ阻止センガ爲一部ヲ翼後ニ梯次ニ配置スルヲ有利トスルコト少カラズ而シテ援隊ハ機ヲ失セズ逆襲シ或ハ側背ニ來襲スベキ敵ニ備フル爲適宜之ヲ火線ノ後方ニ近接セシム

(ニ) 豫備隊ノ用途 豫備隊ハ主トシテ逆襲ニ使用スルモノトス
(ホ) 夜間ノ警戒 夜間ノ警戒ハ敵ト離隔シ警戒部隊尙存在シアル間ハ主トシテ監視部隊ニ依リ又敵兵近接シ警戒部隊撤退セル後ハ主トシ

テ監視部隊及各支點毎ニ陣地前ニ配置スル歩哨ニ依ルモノトス、警戒部隊未ダ撤退セザル場合ニ於テモ各支點ハ所要ニ應ジ歩哨ヲ配置シテ自己直接ノ警戒ヲ爲スコト必要ナリ

夜間敵ノ近接ヲ警戒シ且夜間射撃ノ威力ヲ増大スル爲、照明彈其他各種ノ照明裝置ヲ利用シ前地ヲ照明スルノ處置ヲ講ズルヲ要ス

(ヘ) 防禦戰鬪 中隊長ハ陣地前ニ斥候ヲ派遣シテ敵情ヲ搜索シ速ニ其企圖ヲ偵知スルヲ要ス、敵ノ攻撃ヲ豫察セバ狀況ニ依リ一部ヲ前方ニ派遣シ敵ノ行動ヲ攪亂スルヲ有利トスルコトアリ

敵兵至近ノ距離ニ達セバ支點ノ守兵ハ沈着シテ之ニ猛烈ナル射撃ヲ加ヘ或ハ手榴彈ヲ投ジ之ヲ撃退スベシ、而シテ敵兵尙咫尺ノ地ニ來ルヤ銃劍ヲ揮ヒ奮闘以テ之ヲ撃滅スベシ

敵兵若我陣地ニ突入セバ各部隊ハ極力其陣地ヲ固守シ此際尙援隊ヲ有スルトキハ、支點ノ長ハ之ヲ以テ我ガ陣地ニ侵入セル敵ニ向ヒ突進シ之ヲ撃滅スベシ

夜間防禦ニ於テハ一局部ニ於ケル敵ノ攻撃ニ眩惑セラレザルコト緊要ナリ

敵ノ攻撃ヲ受ケザル支點ハ要スレバ隣接部隊ノ對抗セル敵ヲ射撃シ、又ハ其側背ニ向ヒ一部ヲ以テ逆襲スル等中隊全般ノ戰鬥ヲ有利ナラシムル如ク行動スベシ

中隊長ハ敵兵我陣地前至近ノ距離ニ於テ混亂スルカ、又ハ敵兵我陣地ニ突入セバ豫備隊ヲ提ケ敢然逆襲ヲ實施シテ敵ヲ擊滅スベシ
敵ヲ擊退シタルトキハ速ニ秩序ヲ恢復シ再ビ防禦ノ諸準備ヲ整ヘ敵ノ爾後ノ行動ヲ偵知スルヲ要ス

第四章 指揮法

第一節 要旨

第一 指揮法教育ノ目的ハ部隊ノ各種指揮法ニ慣レシメ以テ規律、節制、協同及團結ノ必要ナル所以ヲ自得セシムルト共ニ指揮官ハ團體ノ核心ナルヲ以テ敬

慕尊信ヲ受クル人格ノカアル人ニアラザレバ衆心ヲ一致セシメテ之ヲ統率指揮シ得ザルコトヲ自覺セシムルニ在リ。

第二 指揮統御ノ要ハ指揮官ヲ中心トシテ其意圖ノ如ク部隊ノ活動ヲ促シ行動ヲ律シ、以テ其威力ヲ發揮セシムルニ在リ、從ヒテ指揮ノ成立ハ部隊組成各員ノ心和ヲ遂ゲアルコト必須條件ニシテ、其緊密ナルニ從ヒ益々眞價ヲ發揮シ得ルモノナリ。

第三 指揮發動ノ根源ハ實ニ指揮官ノ決心ナリ、故ニ指揮官タル者ハ能ク任務ニ稽ヘ狀況ヲ明察シ堅確ナル決心ニ依リ發動スルコト緊要ナリ。

第四 指揮ノ要訣ハ部隊ヲ確實ニ掌握シ明確ナル企圖ノ下ニ命令號令、能ク肯綮ニ中リ常ニ機ヲ捉ヘ狀況ニ適應スルニ在リ。

徒ラニ最善ノ方法ヲ案出セントシテ、慢然時ヲ移シ遂ニ機ヲ失スルガ如キハ不可ナリ。

爲サザルト遲疑スルトハ共ニ指揮官ノ最モ戒ムベキ所トス、蓋シ此兩者ノ部隊ヲ危殆ニ陥ラシムルコト其方法ヲ誤ルヨリモ更ニ甚シキモノアレバナリ。

第五 狀況ノ變化ニ起因シ指揮官ノ獨斷ヲ要スルコト多シ、此際敢テ從來ノ經緯ニ拘泥スルコトナク當時ノ狀況ニ應ジ新ナル決心ヲ爲シ斷乎トシテ處置スルヲ要ス、而シテ獨斷ハ上官ノ意圖ヲ明察シ大局ヲ判斷シテ始メテ適切ニ行ハルルモノトス斯ノ如キ獨斷ハ決シテ服從ノ精神ニ悖ルモノニ非ズ。

第二節 指揮官ノ心得

第一、指揮官トシテ修養練磨スベキ要件左ノ如シ。

- 1、指揮官ハ常ニ率先躬行難ニ當リ身ヲ以テ範ヲ垂ルルヲ要ス之ガ爲人ニ先ジテ勞シ人ニ後レテ樂シムノ雅量アルヲ要ス。
- 2、指揮官ハ常ニ主動ノ位置ニ立チ斷乎タル決意ヲ以テ部下ヲ率キ敢テ部隊ノ行動ニ追隨セザルヲ要ス。
- 3、指揮官ハ責任觀念旺盛ニシテ進取ノ氣概ニ富ムコト緊要ナリ、之ガ爲體力強健、志氣充溢シ實行ノ意志鞏固ナルヲ要ス。
- 4、衆心ヲ聚ムルニハ須ラク先ヅ指揮官自ラノ態度ヲ壯重ナラシムルコト肝要ナリ、往々沈着ヲ缺キタル態度ヲ以テ屢々無意味ニ位置ヲ移動シ又ハ命令、號

令ヲ下スニ方リ體ヲ動カス等異様ノ舉措ヲ爲スガ如キハ共ニ戒ムベキコトナリ。

5、小部隊ノ指揮運用ハ殊ニ輕快ナルヲ要ス蓋シ狀況ノ變化著シク時々咄差ニ處置セザルベカラザルコト多キヲ以テナリ。之ガ爲指揮官ハ豫メ全般ノ情勢ヲ考察シ先ヲ制シ機宜ヲ失セザルコト必要ナリ。

6、指揮官ハ宏量ニシテ且温情ニ充チアルヲ要ス、恩威並ビ行ハル、統御ハ境遇並性格ノ異ナル各員ヲシテ能ク、渾然融和、協同ノ目的ニ向ヒ精勵セシメ得ルモノナリ。

第二、指揮官ノ位置ハ部隊ノ大小、隊形、天候等ニ應ジ其命令、號令ノ徹底ニ遺憾ナキ如ク選定スルヲ要ス、戰鬥間ニ在リテハ特ニ敵情ヲ觀察シ、部下ヲ統一指揮シ得ルヲ主眼トシテ其位置及姿勢ヲ選ビ且上下左右トノ連絡ニ便ニシテ、隣接部隊ノ狀況ヲ視察シ得ルコトヲモ願慮スベシ。

第三、指揮官ノ意圖ハ號令若ハ命令ニ依リ告達ス、號令及命令ハ能ク部下ヲ驅リテ水火ヲモ敢テ辭セザラシムベキモノナルヲ以テ堅確ノ決意、嚴肅ノ態度ヲ

以テ下スベシ而シテ號令ハ明快ノ音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ニシテ下達迅速ナルヲ要ス、之ガ爲ニハ勉メテ號令詞ヲ用フルヲ便トス。
號令ヲ豫令及動令ニ分ツベキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク、動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其間ニ適當ノ時間ヲ存スベシ。
第四、命令ハ發令者ノ意志ト受令者ノ任務トヲ明確適切ニ指示スルコト肝要ナリ。

第五、指揮官ハ狀況ニ依リ號令及命令ニ代フルニ號音及記號ヲ以テスルコト多シ、戰場喧噪時、裝面時等ノ場合ニハ一ニ此法ニ依ラザルベカラザルニ至ルコトアリ。

記號ハ左ノ如ク行ヒ必要ニ應ジテ之ヲ反覆ス。

前進 || 片手ヲ高く舉グ

右方向ノ場合ニハ右手ヲ左方向ノ場合ニ於テハ反對ノ手ヲ用ヒ、手ニテ方向ヲ示ス。

停止 || 片手ヲ高く舉グ直ニ之ヲ下ロス

駈歩 || 前進ノ記號ヲ迅速ニ數回之ヲ連續ス

散開 || 兩手ヲ左右ニ肩ノ高サニ舉グ

射撃中止 || 片臂ヲ前方ニ伸バシ數回左右ニ振ル

彈藥補充 || 片手ヲ高く舉グ數回招ク

武器其他ヲ以テ行フ場合モ亦右ニ準ズ

其他狀況ニ依リ旗、火光、信號彈及音響等ニ依ル記號ヲ用フルヲ便トス

第三節 助教助手ノ動作

第一 助教、助手教育目的ハ各制式ノ實施ニ於テ陥リ易キ缺點ヲ發見シ之ガ點檢、矯正ノ眼識ヲ養ヒ將來人ヲ誘掖指導スルノ人格ヲ養フニ在リ。

第二 助教、助手ハ教育ノ目的ヲ理解シ其順序方法ニ關スル研究ヲ十分ニシ教官ノ意圖ノ如ク活動スルコト肝要ナリ。

第三 助教、助手ハ自ラ其態度、服裝ヲ正シク常ニ活潑、嚴正ナル動作ヲ示スベシ。

第四 助教、助手ハ冗長ナル説明ヲ避ケ、簡明平易ニ其目的精神ノ存スル所ヲ説キ要點ヲ會得セシムルコト必要ナリ。

指 揮 法

—(一五八)—

第四節 刀ノ取扱法

〔要領〕 刀ヲ佩フルニハ第一鑲ヲ鉤ニ懸ケ柄ヲ後ロニス。(第三十三圖)



第三十三圖

拔刀

(第三十四圖)ノ如シ

〔要領〕 刀ヲ拔クニハ姿勢ヲ崩スコトナク、左手ヲ以テ刀ノ柄ヲ前ニ向ケ其指ヲ内ニシ、第一鑲ノ所ヲ握リ右手ヲ以テ刀ノ柄ヲ握リ刀身ヲ鞞ヨリ拔キ右臂ヲ右前方ニ高ク伸バシ、恰モ茲ニ一節ヲ示ス如クシテ速ニ肩刀ヲ爲シ同時

ニ左手ヲ下ロス。

第三十四圖



第三十五圖其一ノ如シ

指 揮 法

—(一五九)—

指揮法

—(一六〇)—

圖五十三第
(一 共)



- 〔要領〕
- 附シ
- (1) 刀ノ柄ヲ右手ノ拇指ト食指トノ間ニ保チ他ノ二指ヲ刀ノ柄ノ外ニ
 - (2) 其手ヲ右臑骨ノ稍々下方ニ著ケ
 - (3) 刀身ヲ垂直ニ立テ刀背ヲ肩ニ托シ
 - (4) 少シク肘ヲ後方ニ出ス

抜刀ノ儘休憩 第三十五圖其二ノ如シ

圖五十三第
(二 共)



- 〔要領〕
- オサノトウ
納刀
- (1) 刀尖ヲ上ニシ右臂ヲ垂レ
 - (2) 或ハ之ヲ體ノ前ニ致シ左手ヲ以テ右手ヲ支ヘ刀身ヲ臂ニ托ス
 - (イ) 刀ヲ垂直ニ上ゲ其刀面ヲ顔ノ中央ニ對セシメ切刃^{ヒツ}ヲ口ノ高サニ齊シクシ肘ハ自然ニ體ニ接ス
 - (ロ) 同時ニ左手ヲ以テ第一環ノ所ヲ握リ鯉口ヲ前ニ向ケ刀身ヲ左臂ニ
- 指揮法
- (一六一)—

指揮法

—(一六二)—

沿ヒテ刀尖ヲ後ロニ下ゲツ、右拳ヲ高ク上ゲ頭ヲ稍々左ニ傾ケ眼ヲ
鯉口ニ注ギ刀尖ヲ韃ニ入レ全ク刀身ヲ納メ柄ヲ後ロニシテ速ニ兩手
ヲ下ゲ頭ヲ正面ニス。

拔刀ノ儘行進

〔要領〕 右手ノ甲ヲ右ニ

シ護拳ヲ握リ臂ヲ垂レ

刀背ヲ上膊ニ托シ韃ハ

鉤ニ懸ケタル儘左手ヲ

以テ之ヲ握リ兩臂ヲ自

然ニ振ル。

刀ノ禮

〔要領〕 刀ノ禮ハ肩刀ヨ

リ行フモノトス。

以下第三十六圖ノ如シ

(1) 刀ヲ垂直ニ上ゲ其及面ヲ顔ノ中央ニ對セシメ切羽ヲ口ノ高サニ齊



第三十六圖

シクシ肘自ハ然ニ體ニ接ス(之ヲ捧刀ト謂フ)

(2) 徐ロニ右臂ヲ全ク伸バシ刀ヲ斜ニ下ゲ爪ヲ上ニシテ拳ヲ右股ヨリ

少シク離シ頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼或ハ敬禮スベキ者ニ注目ス。

(3) 敬禮終レバ肩刀ニ復ス

第五章 敬禮及觀兵式

第一節 敬禮(各個)

最敬禮

天皇、皇后、皇太后、皇族ニ對シ奉リ行フ敬禮ナリ。

王公族ニ對シ奉リテハ右ニ準ズ。

其方法左ノ如シ

(1) 不動ノ姿勢ヲ取り脱帽シタル後先ヅ注目シ

(2) 次ニ體ノ上部ヲ前約四十五度ニ傾ケ

(3) 頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チ

(4) 帽ハ右手ニテ其庇ヲ摘ミ之ヲ右股ニ接シテ提ゲ

敬禮及觀兵式

—(一六三)—

(5) 帽ノ内部ヲ右股ニ對セシム。
拜禮

拜禮ノ方法ハ神靈ニ對シ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ行フモノトス。
室内ノ敬禮

〔要領〕

- (1) 室内ニ入ラントスルトキハ室外ニ於テ脱帽シ室ノ入口ニ於テ受禮者ニ面シ敬禮ヲ行フモノトス其室ヲ去ルトキモ亦同ジ
- (2) 上體ノ上部ヲ前約十五度ニ傾ケ受禮者ノ眼又ハ敬禮スベキ者ニ注目スルノ外最敬禮ニ同ジ
- (3) 長上ヨリ物ヲ受ケ又ハ呈セントスルトキハ、本敬禮ヲ行ヒタル後適宜前進シ帽ヲ左脇ニ挟ミ右手(兩手ノ場合モアリ)ヲ以テ之ヲ受ケ又ハ呈シタル後舊位ニ復シ再ビ敬禮ヲ行ヒ退去スベシ。

〔注意〕

- 室外ニ於テモ本敬禮ノ様式ヲ用フルコトアリ。
- 〔要領〕 姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ゲ其指ヲ接シテ伸バシ
食指ト中指トヲ帽ノ庇ノ右側ニ當テ稍々外方ニ向ケ

舉手注目ノ敬禮

〔注意〕

- (3) 臂ハ肩ノ方向ニテ略々其高サニ齊シクシ
- (4) 頭ヲ向ケテ受禮者ノ眼又ハ敬禮スベキモノニ注目ス。
- (イ) 途上ニ於テ長上ニ行遇ヒタルトキハ舉手注目ノ敬禮ヲ行フ
- (ロ) 長上ノ後方ヨリ進ミテ之ヲ通り過ギントスルトキハ其旨ヲ告ゲテ通過スベシ
- (ハ) 汽車電車ニ乘リタルトキ長上ニ行遇ヒタルトキハ成ルベク席ヲ讓ルヲ禮トス
- (ニ) 車、馬等ニ乘レル長上ニ行遇ヒ又ハ其傍ヲ通過スルトキハ之ニ敬禮ヲ行フベシ
- (ホ) 長上ニ同行スルトキハ其行進ヲ妨ゲザル如ク其左側又ハ後方ニ就キ歩調ヲ合セテ行進スルヲ禮トス。

捧銃

〔趣旨〕

捧銃ノ操作ハ確實齊一ニ行フモノトス。

〔號令〕

捧銃
捧銃
捧銃

敬禮及觀兵式

〔要領〕 第三十七圖ノ如シ



- (1) 右手ヲ以テ銃ヲ上ゲ體ノ中央前ニ持チ來シ
- (2) 銃身ヲ後ロニシテ垂直ニス
- (3) 同時ニ左手ヲ以テ概ネ木被ノ下ニ接シテ銃ヲ握リ拇指ヲ銃床ニ沿ヒテ伸バシ
- (4) 前臂ヲ殆ンド水平ニシ
- (5) 兩臂ハ輕ク體ニ接ス。

立銃

〔號令〕

右て 銃

〔要領〕

右手ヲ以テ銃ヲ下ゲ腰ニ支ヘ同時ニ左手ヲ下ロシ靜ニ銃ヲ地ニ著ク。

頭右

〔號令〕

頭^{カシラ} 右(左)

「直れ」

〔要領〕

頭ヲ約四十五度右(左)ニ向ク

正面ニ復セシムルニハ「直れ」ノ號令ヲ下ス。

敬禮及觀兵式

第二節 部隊ノ敬禮

〔趣旨〕 部隊敬禮ノ目的ハ禮節ヲ尙ヒ衆心一致團結ノ中心ヲ敬フノ氣風ヲ作興シ訓練ノ精華ヲ發揚スルニ在リ。

停止間ノ敬禮

〔號令〕 「頭」 右(左)

「直れ」

- 〔要領〕
- (1) 指揮者ハ受禮者ガ隊ノ右(左)翼約八歩ノ所ニ來ルトキ「頭右(左)」ノ號令ヲ下スト共ニ受禮者ニ向ツテ敬禮ヲナス
 - (2) 各列員ハ「頭右(左)」ノ號令ニテ各々頭ヲ約四十五度右(左)ニ向ケ受禮者ニ對シ注目ス
 - (3) 受禮者ニ對シ注目中受禮者ノ移動スル場合ニハ注目シタルマ、頭ヲ其ノ方向ニ廻ハシ目迎目送ヲ爲スモノトス
 - (4) 列員中左翼ノ者等ニテ頭ヲ約四十五度右ニ向クルモ注目シ能ハザルモノハ頭ヲ向ケアル方向ニ受禮者ノ來ルトキヨリ注目スルモノトス

ス又目迎目送ノ場合ニ於テ頭ヲ約四十五度左ニ廻シタルトキ受禮者ガ視界ノ外ニ去リタル後ト雖モ「直れ」ノ號令アル迄ハ其儘ノ姿勢ヲ保ツモノトス

- (5) 受禮者部隊ノ左(右)翼ヲ約八歩過ギ去ルカ又ハ最初ヨリ一地ニアリテ勤カス其儘ニテ答禮終ラバ指揮者ハ敬禮ヲ止メ部隊ニ「直れ」ノ號令ヲ下ス
- (6) 各列員ハ「直れ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

行進間ノ敬禮

〔要領〕 徒手又ハ執銃部隊ノ行進間ニ於ケル敬禮ハ步調ヲ取り前項ニ準ジテ敬禮ヲ行ヒ受禮者ノ前ヲ通過シタル後之ヲ止ムルモノトス。

捧銃ノ敬禮

〔要領〕 執銃ニテ停止シアルトキ 天皇、皇后、皇太后、皇族ニ對シ奉リ敬禮スルニハ、コレニ正面シ隊列ヲ正シ著劍セシメタル後捧銃ノ敬禮ヲ爲ス。

捧銃ノ敬禮ハ捧銃ノ直後頭右(左)ヲ爲シ「立て銃」ノ「銃」ノ動令ニテ頭ヲ正面

敬禮及觀兵式

敬禮及觀兵式

ニ復スルモノトス。

其ノ他執銃セル部隊ノ敬禮ハ徒手ノモノニ準ス。
王公族、神靈ニ對シ奉リ行フ敬禮ハ右ニ準ス。

第三節 觀兵式

觀兵式ヲ分チテ閱兵式及分列式トス

1、閱兵式

場所ノ廣狹、人員ノ多寡等ニヨリ差アルモ通常中隊縱隊ニ整列シ全員著劍
(帶刀者ハ拔刀)ヲ爲シ觀閱者部隊ノ右翼二十歩ニ來ラバ「頭右」(天皇ニ對シ
奉リテハ捧銃)ノ敬禮ヲ爲シ目迎目送ヲ行ヒ左翼十五歩ヲ距リテ「直レ」ノ號
令ヲ下ス

2、分列式

分列ノ爲行進ヲ爲サシムルニハ著劍ヲ爲シタル後「分列に前へ 進メ」の號令
ヲ下ス
帶刀者ハ「肩刀」ノ儘行進シ中隊長敬禮線ニ入ル際「頭右」ノ號令ヲ下ス

右翼分隊長ノ外全員頭右ヲ爲シ受禮者ニ注目ス部隊ノ後尾第二標兵ノ線ヲ通
過スルニ至ラバ「直レ」ノ號令ヲ下ス
帶刀者ハ 天皇、軍旗ニ對シ奉リテハ刀ヲ以テ敬禮ヲ行フモ其ノ他ノ者ニ對
シテハ肩刀ノ儘右ノ敬禮ヲ行フ但總指揮者ハ常ニ刀ノ敬禮ヲ爲ス
又分列行進ヲ起サシムルニハ押伍列ヲ列中ニ入レタル後號令ヲ下ス
分列實施ノ要領第三十八圖ノ如シ

第三十八圖

分列式實施ノ要領

敬禮及觀兵式



—(171)—

3、皇族、王公族ニ對シ奉リテハ 天皇ニ對シ奉ル敬禮ニ準ズ

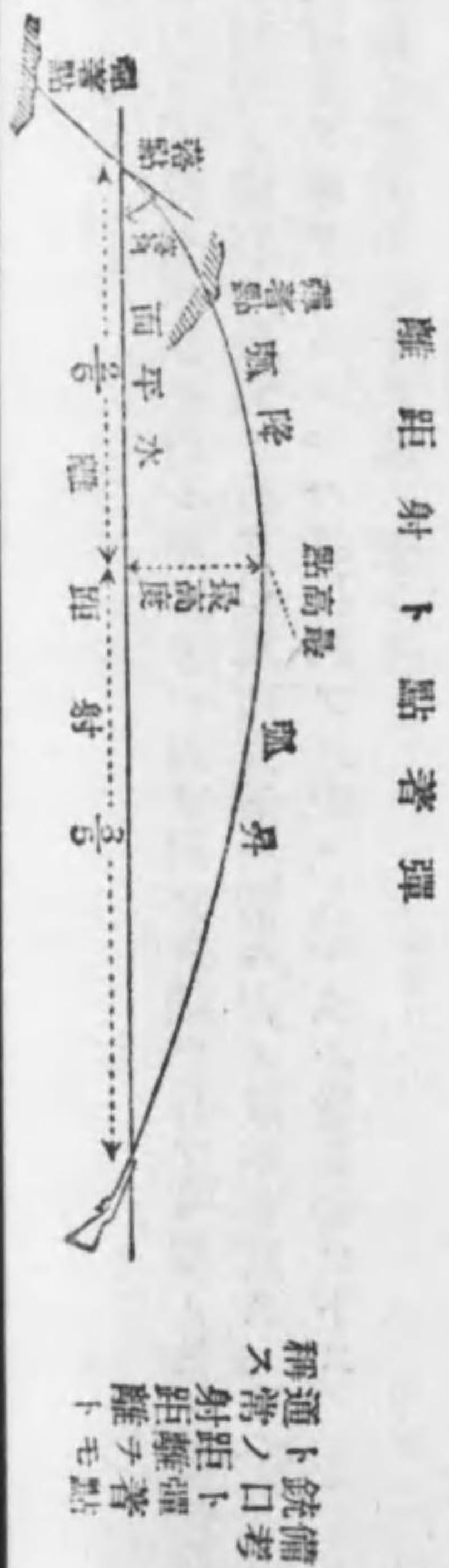
第六章 射 擊

第一節 射擊ニ關スル定説

其一 彈道及照準具

一、彈道 (第三十九圖)

1、定義 發射セラレタル彈丸重心ノ過グル線ヲ彈道ト謂フ



圖九十三第 彈丸ノ射距離

2、彈道ノ形狀 彈道ノ形狀ハ重力、空氣抗力、彈丸ノ速度及旋速並銃ノ傾度等ニ關係ス

即チ重力ハ飛行中ノ彈丸ヲ常ニ落下セシムルモノニシテ其落下尺度ハ經過時間ト共ニ増加ス、空氣抗力ハ絶エズ其飛行速度ヲ減ジ同距離ヲ經過スルニ漸次長時間ヲ費スニ至ル、之ガ爲曲線狀ヲ爲シ其彎曲ノ度ハ銃口ヲ遠ザカルニ從ヒ益々甚シク、其最高點ハ銃口ヨリ概ネ射距離ノ五分ノ三ノ所ニ在リ

3、昇弧、銃口ヨリ最高點ニ到ル彈道ノ部分ヲ昇弧ト謂フ

4、降弧、彈道ノ最高點ヨリ落點ニ至ル部分ヲ降弧ト謂フ

5、存速、彈道ノ某點ニ於ケル速度ヲ其點ノ存速ト謂フ

小銃及輕(重)機關銃ノ彈丸六百米ニ到ル經過時間ハ約一秒ニシテ千二百米ニ達スルニハ約三秒ヲ要ス

銃口ニ通ズル水平面ノ某點ヨリ彈道ニ到ル高サヲ其距離ニ於ケル彈道高ト謂ヒ最高點ノ高サヲ最高度ト謂フ

小銃輕(重)機關銃ハ彈道低伸シ其最高度ハ甚ダ小ニシテ千米ノ彈道ニ於テモ

6、定偏 最高度ハ約六米ナリ
 彈丸ノ先頭ヲ絶エズ前方ニ維持セシメ終始規正ノ彈彈ヲ描カシメム
 ガ爲銃身ニ腔綫ヲ施シ以テ其飛行間彈丸ヲシテ其長軸ノ周圍ニ旋動ヲ爲サシ
 ム斯クシテ彈丸ノ旋動ハ彈丸ヲシテ其腔綫旋回ノ方側ニ偏移セシムルモノニ
 シテ其射面(銃身軸ヲ含ム垂直面)ヨリ離隔スル量ヲ定偏ト謂フ而シテ其量
 ハ射距離ヲ増加スルニ從ヒ大トナルモノナリ
 小銃ノ定偏ハ右偏トス而シテ照準具ニハ豫メ之ニ對スル修正ヲ施シアルヲ以
 テ近距離射擊ニ於テハ顧慮スルヲ要セズ
 (定偏量第一表ノ如シ)

第一表

射距離	定偏量
1.100	
1.000	
900	
800	
700	
600	
500	
400	
300	

小銃、輕機關銃定偏量 (米)

考備 本表ハ實用上ノ概數ヲ示スモノナリ

二、照準具

1、照準具ノ必要 彈丸ヲ某距離ニ在ル目標ニ命中セシムルニハ射線(銃身軸
 ノ延線)ヲ彈丸ノ目標ニ達スル迄ノ時間ニ落下スル長サニ等シキ量ヲ目標ノ
 上方ニ向ハシメザルベカラズ(第四十圖)即チ銃身ニ各射距離ニ應ズル傾度ノ

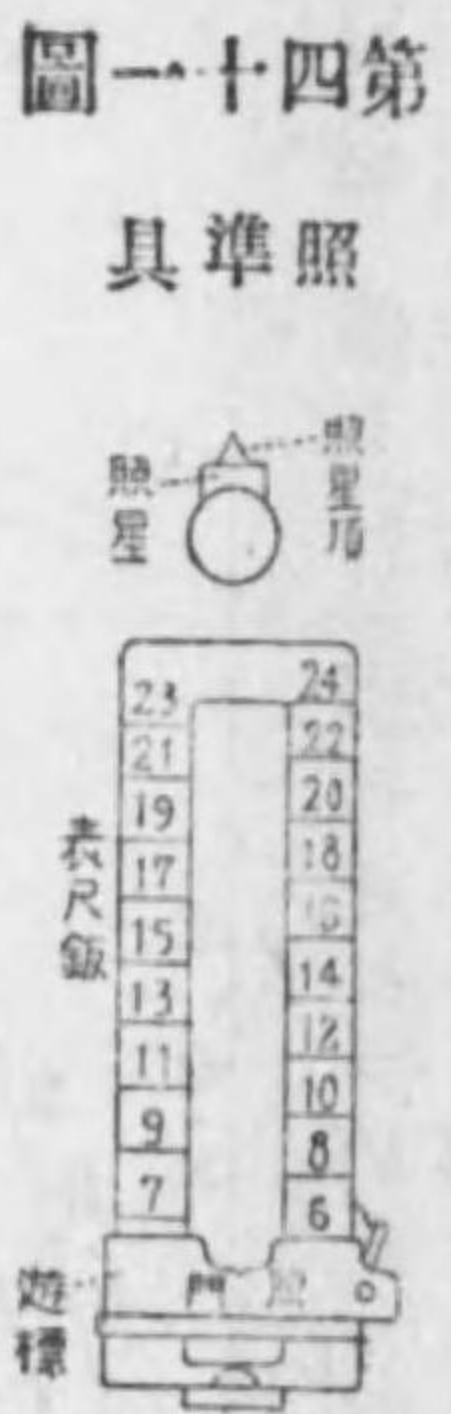
附與ヲ要ス
各射距離ニ應ズル傾度ヲ銃身ニ附與シ且照準ヲ行フ爲銃身上ニ照星及照尺ヲ
備フ之ヲ照準具ト謂フ



圖十四第

- 2、射準線 照門上縁ノ中央ヨリ照星頂ヲ通視スル直線ヲ謂フ
- 3、射準點 照準線ヲ向クル點ヲ謂フ
- 4、射準角 射線ト照準線ト爲ス角ヲ謂フ

5、射角 射線ト水平線ト爲ス照準線水平ナル時ハ照準角ト相等シ



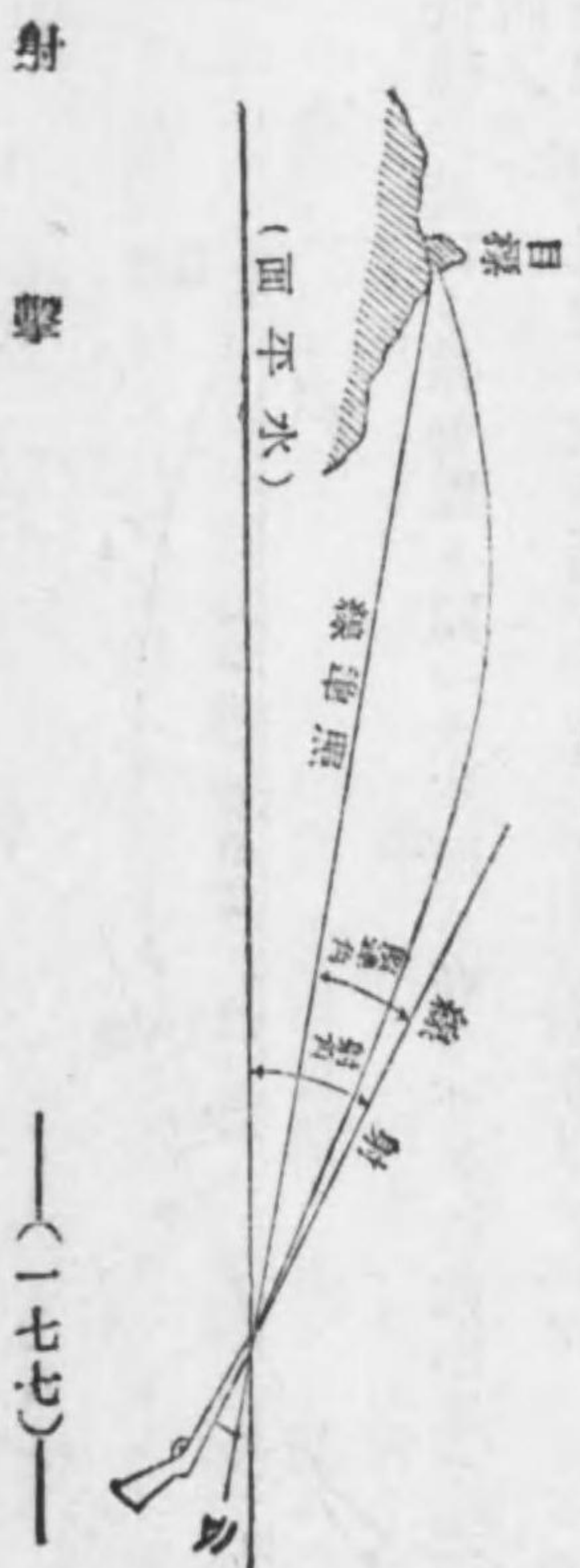
圖一十四第

具準照

圖二十四第

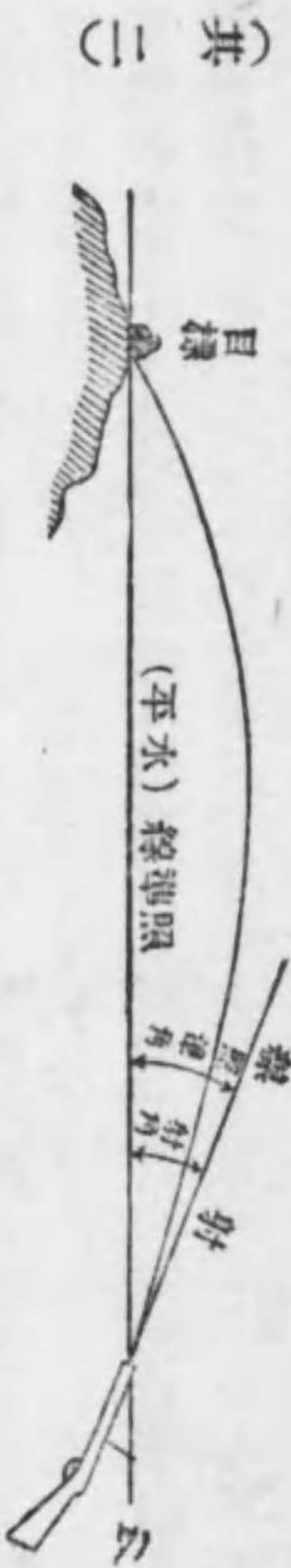
(一 共)

角準照及角射ト線準照



射擊

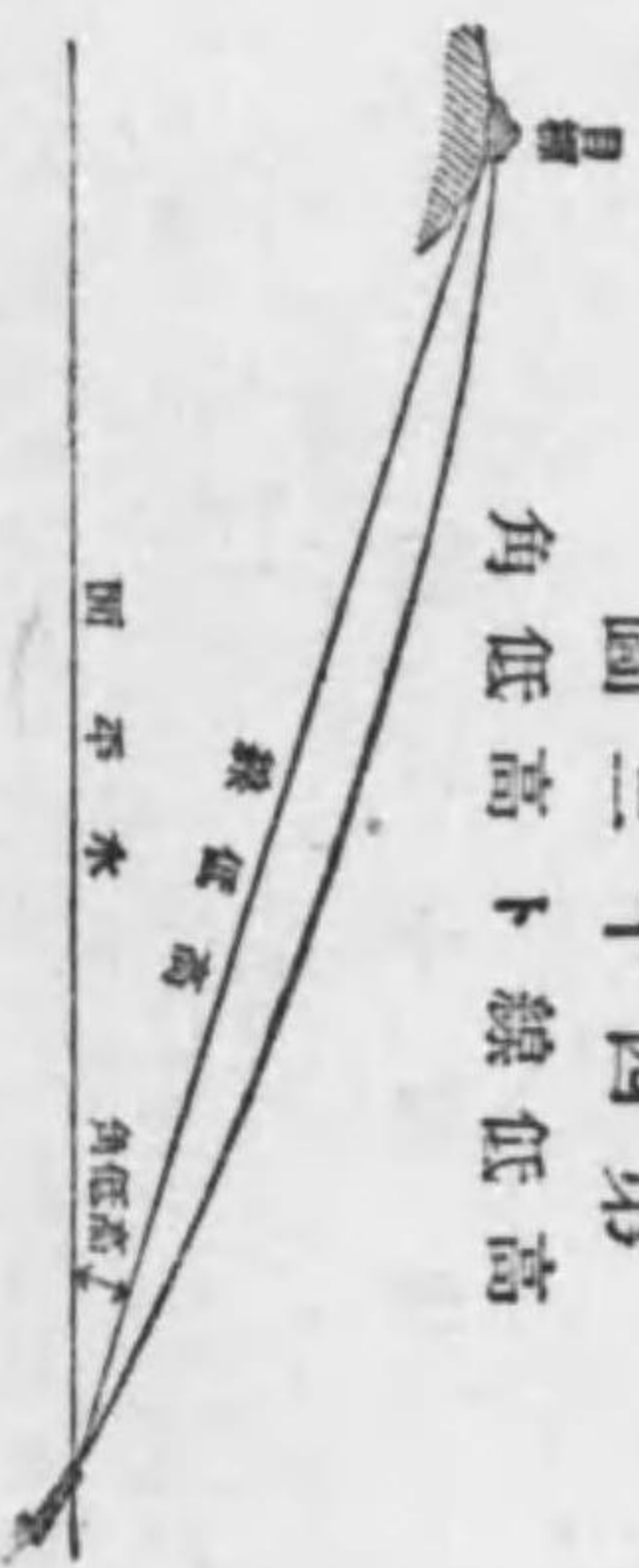
—(一七七)—



6、高低線 銃口ト彈著點ト同一水平面ニ在ラザル時此兩者ヲ連ヌル線ヲ高低線ト謂フ

7、高低角 高低線ト水平面トノ爲ス角ヲ高低角ト謂フ

圖三十四第



8、發射線 彈丸發射時銃口ニ於ケル彈道切線ヲ發射線ト謂フ

9、發射角 發射線ト水平面トノ爲ス角ヲ發射角ト謂フ(第四十四圖)發射角ハ射角ト僅少ノ差アルモノナリ

發射時ノ位置ノ發射準備

其二 射擊上天候氣象ノ感及

1、空氣ノ濃淡、氣壓及氣溫ノ高低等ハ飛行中ノ彈丸ニ對スル空氣抗力ニ差異ヲ生ジ射距離ヲ増減ス。

註 現用銃ノ照尺度ハ氣壓七百六十耗

氣溫攝氏十五度天候靜穩ナル時ヲ

基準トシテ決定シタルモノナリ。

空氣ハ土地ノ高キニ從ヒ氣溫ノ上昇スル

ニ伴ヒ稀薄トナルモノニシテ、標高三百

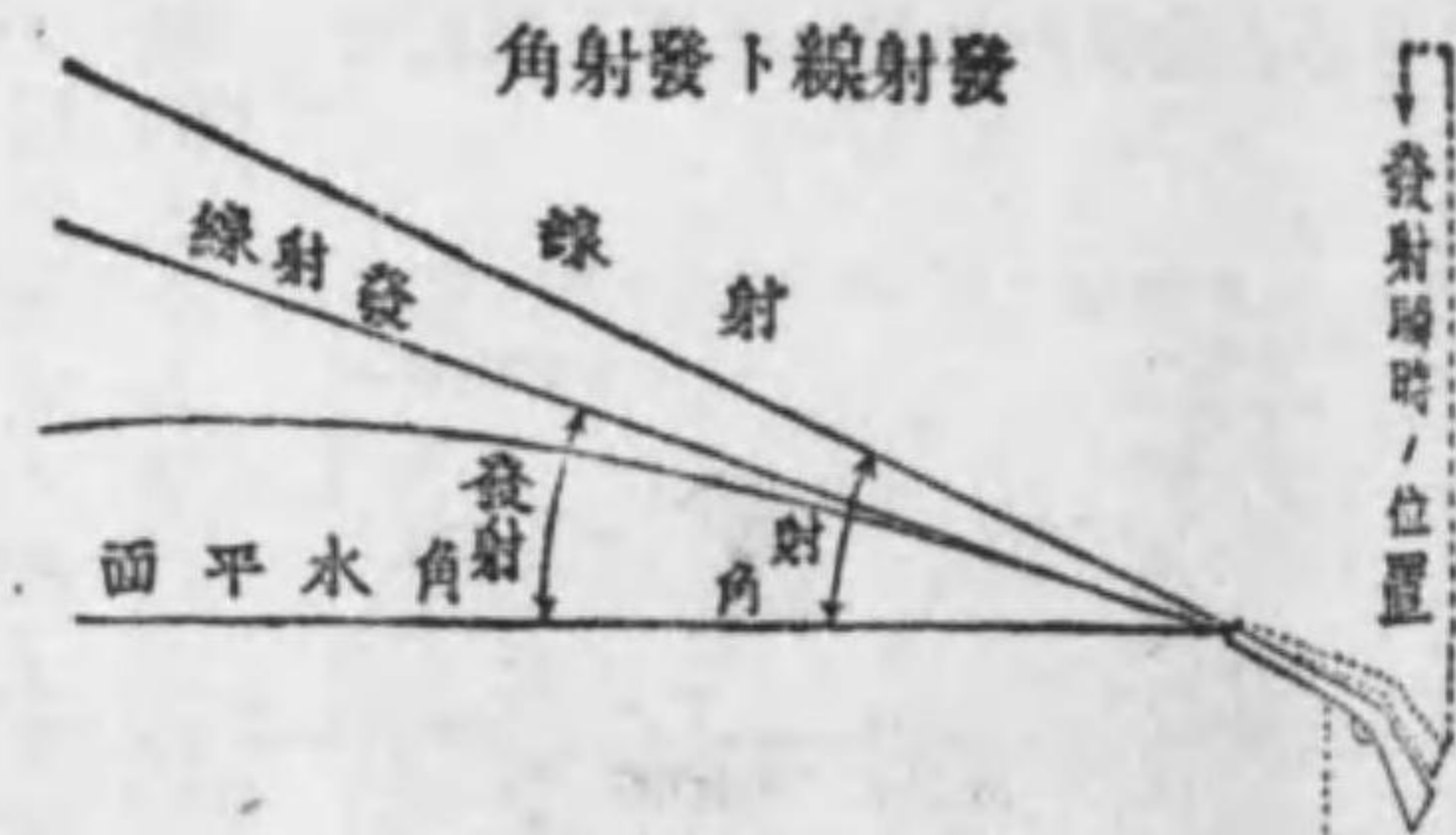
米ノ高地ハ氣壓三十耗ノ減少ヲ來シ射距

離ニ及ボス影響ハ氣溫約十度ノ上昇ニ等

シ、基準氣溫ニ比シ十度ノ差ハ射距離五

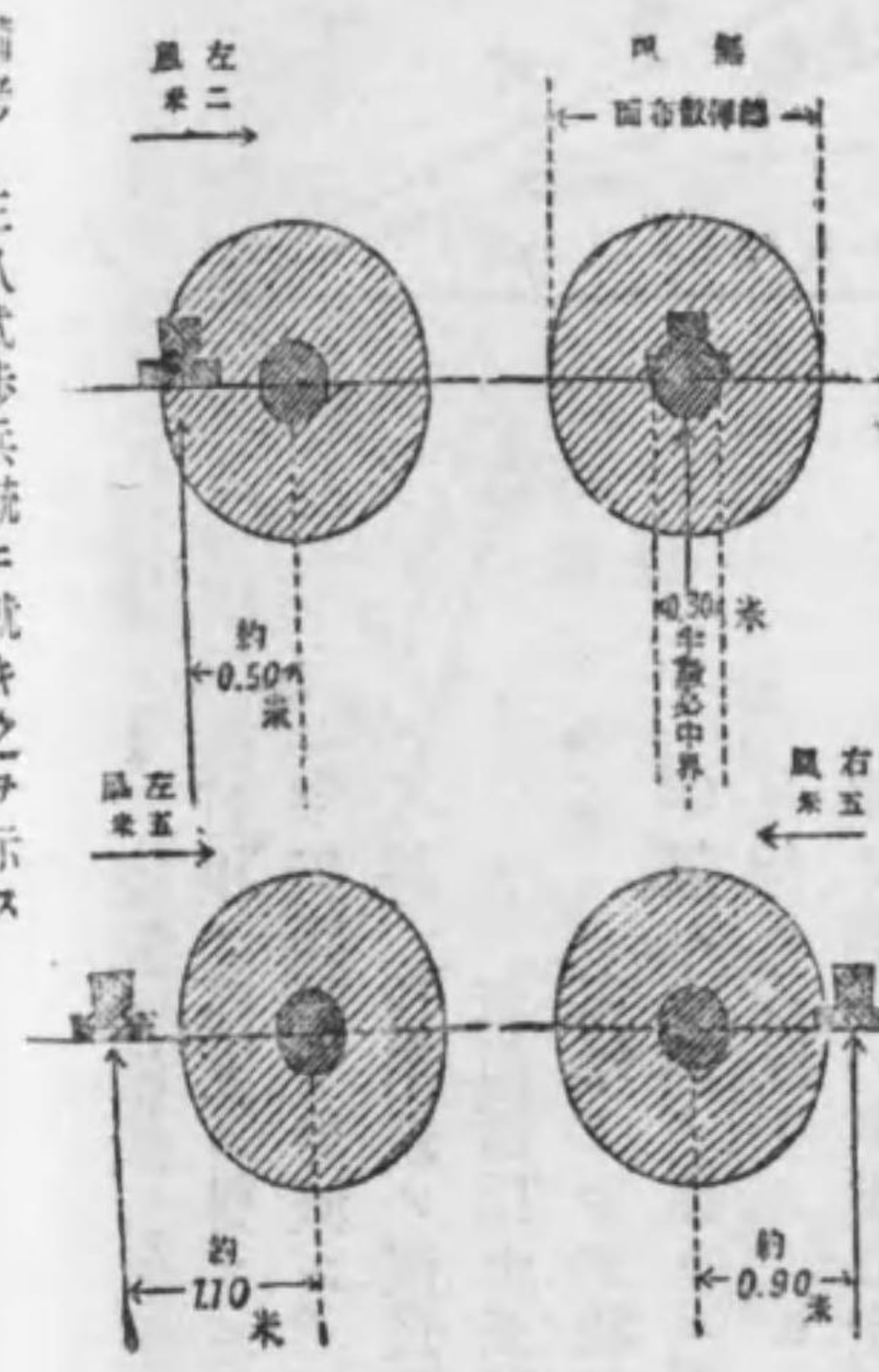
百米ニ於テ、其彈著點ハ遠近ニ約十五米、上下ニ約十糎ヲ轉移スルニ過ギザルヲ以テ近距離ニ於テハ通常照尺ヲ修正スルヲ要セザルモノトス。

圖四十四第 角射發下線射發



2、風ノ影響 縦風（後、前方ヨリ來ル風）ハ射距離ヲ増減シ横風（側方ヨリ吹ク風）ハ彈丸ヲ側方ニ偏セシム其量ハ射距離及風速ノ増加ニ伴ヒ益々大トナルヲ以テ適宜ノ修正ヲ要ス、縦風ハ其影響少キモ横風ノ彈丸ニ及ボス影響ハ比較的大ナルヲ以テ修正ヲ行フヲ要スルモノトス（第四十五圖）

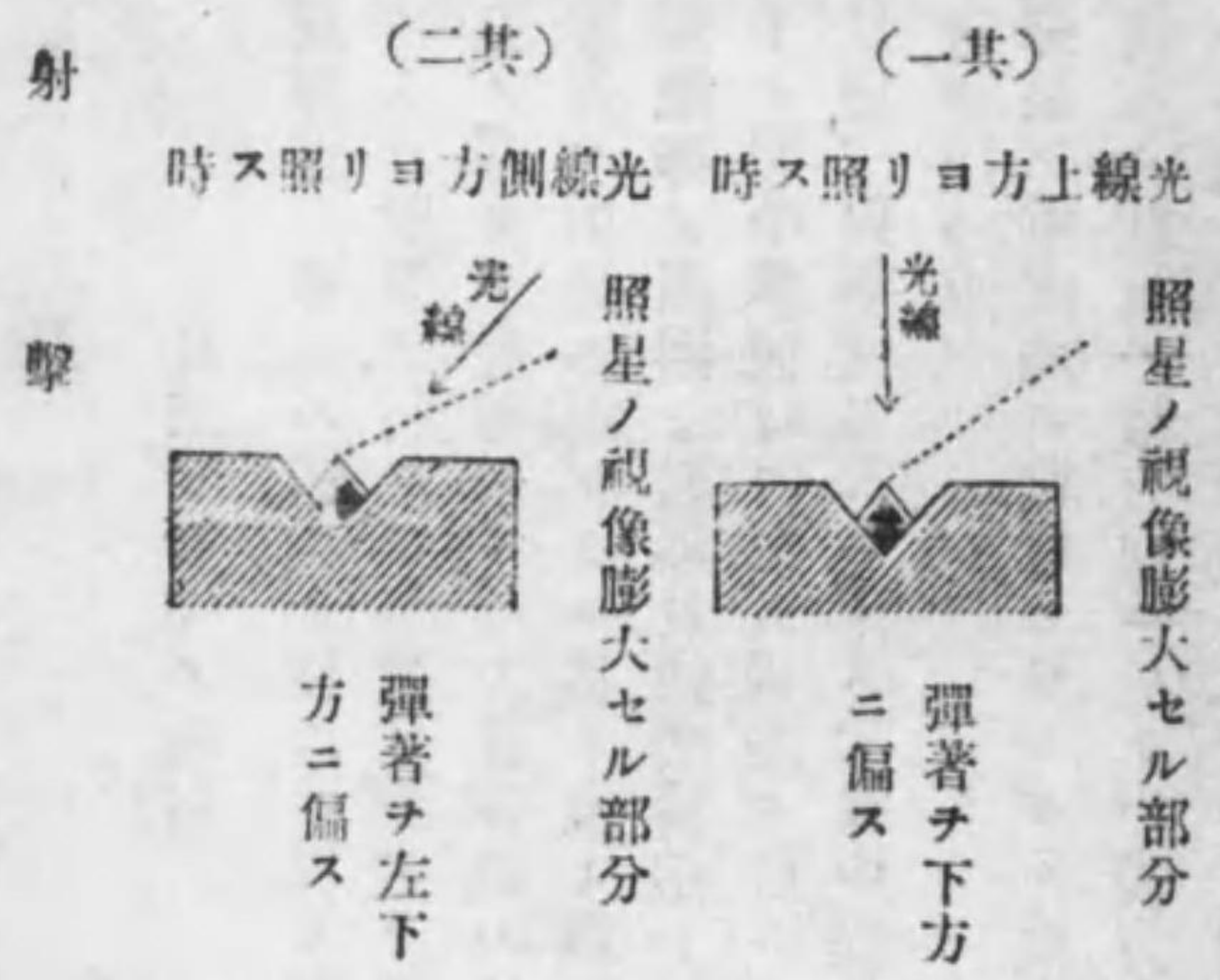
圖五十四第 射距離五百米於ケル風ノ影響



備考 三八式歩兵銃ニ就キ之ヲ示ス

3、光線ノ影響 光線上方ヨリ照星ヲ照ス時ハ射手ノ眼ニ映ズル視像大ト爲ルヲ以テ自然照星ヲ低ク照門内ニ表ハシ射距離ヲ減ズ。

圖六十四第



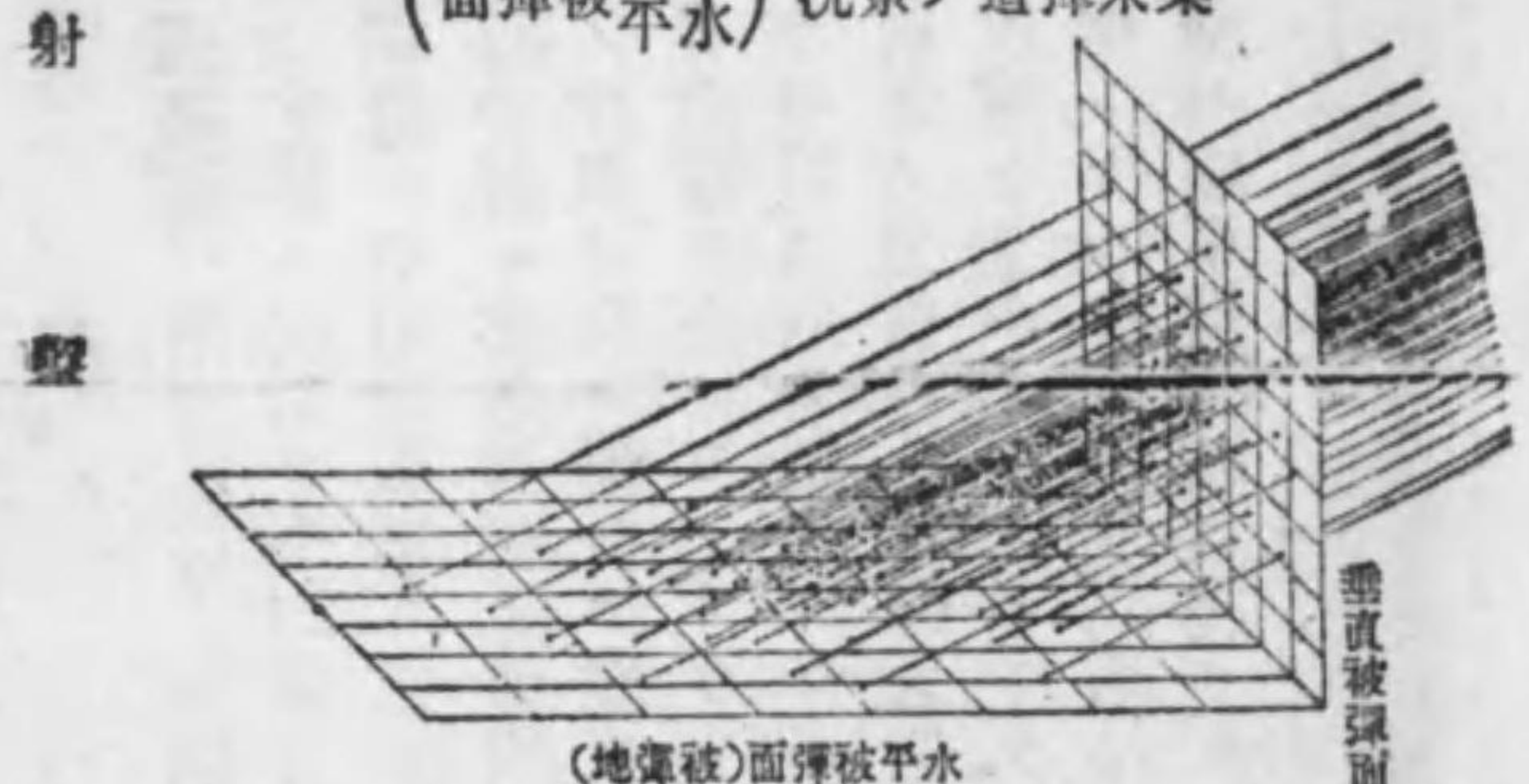
又光線側方ヨリ照ス時ハ照準ハ照星ノ照ル方ノ視像他方ニ比シ膨大スルヲ以テ其膨大セル部分ヲ以テ自ラ照星頂ヲ一側ニ偏シテ照門内ニ現ハシ彈丸ヲ暗黒ナル方ニ偏セシム（第四十六圖）故ニ光線射照ノ方ニ所要ノ修正ヲ要ス曇天、曉暮、森林内等總テ照星ヲ視ルコト明瞭ヲ缺ク時及不明瞭ナル目標ヲ射撃スル場合ニハ自然照星ヲ高ク現シ從テ射距離ヲ増大ス。

其三、射彈ノ散布

- 1、集束彈道 彈丸ハ諸種ノ原因ニ因リ縦ヒ同一ノ銃ヲ用ヒ銃身ノ位置方向ヲ同一ニシテ射撃ヲ行フモ每發其彈道ヲ同ジクセズ其範圍内ニ散布スベシ而シテ多數ノ彈丸ヲ發射スル時ハ其彈道ハ恰モ東蕪ノ如ク曲圓錐形ヲ成スモノニシテ射彈ハ中央ニ近ヅクニ從ヒ益々稠密トナルモノトス之ヲ集束彈道ト謂フ
- 2、射彈散布ノ原因 銃器及彈藥構造上ノ差異、天候氣象ノ影響、目標ノ明暗並射手ノ照準擊發時ニ犯ス過誤ニ依ルモノニシテ、又射擊位置、姿勢、體力、精神狀態、射擊速度等ニ關ス、就中操作ノ不良ニ基因スルモノハ其影響最モ甚シキモノトス。
- 3、被彈面 垂直面ニ收容セラレタル集束彈ノ散布面ヲ垂直被彈面ト謂フ。彈丸散布ノ狀況ハ縦方向ニ於テハ横方向ノ夫ニ比シ大ナリ、即垂直被彈面ノ高サハ小銃ニ在リテハ概ネ其幅ヨリ大ニシテ、輕機關銃ニ在リテハ九百米ニ至ルマデ其幅ヨリ小ナルヲ通常トス(第四十七圖)。

圖七十四第

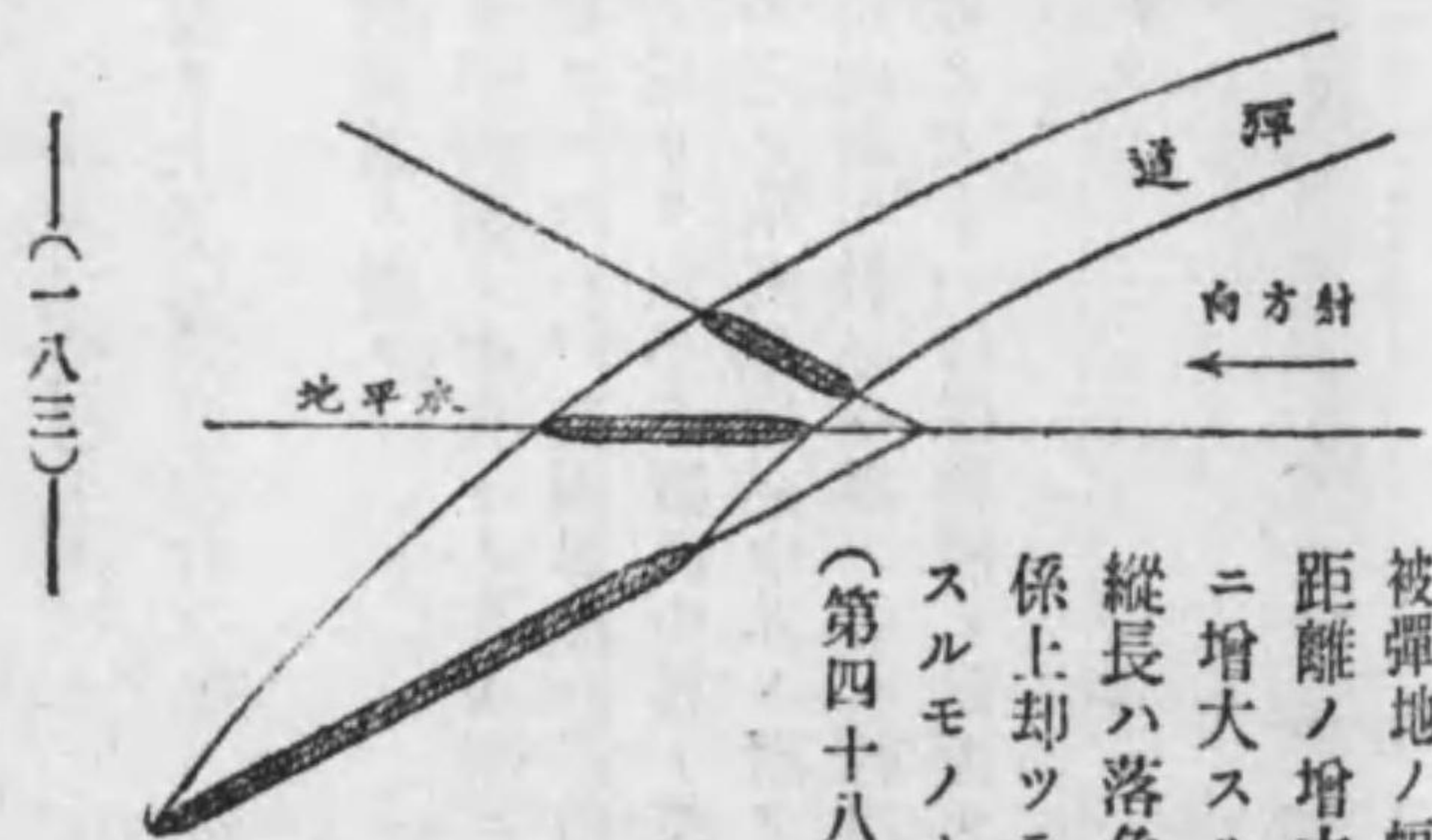
(面彈被直垂) 況景ノ道彈束集



フ謂テノモルケ於ニ上地ノ面被平水ハト地彈被註

圖八十四第

狀形ノ地彈被ル依ニ斜傾ノ面地



被彈地ノ幅ハ射距離ノ増大ト共ニ増大スルモ其縦長ハ落角ノ關係上却ツテ減縮スルモノトス (第四十八圖)

- 4、平均彈著點 垂直(水平)被彈面ノ總彈著點ヲ上下(遠近)左右平等ニ分ツベキ縱横十字線ノ交點ヲ平均彈著點ト謂フ。
 - 5、平均彈道 平均彈著點ニ通ズル彈道ヲ平均彈道ト謂フ。
 - 6、半數必中界 多數射彈ノ垂直被彈面ニ於テ平均點ヲ中央トシ其兩側ニ於テ總彈著ノ半數ヲ含ム部分ヲ垂直線ヲ以テ區劃スル時ハ、其兩界線ハ平均彈著點ヨリ等距離ニ在ルモノニシテ其兩界線間ノ長サヲ水平半數必中界ト謂ヒ、同様ニ水平線ヲ以テ區劃シタル場合ニ於テハ之ヲ垂直半數必中界ト謂フ。
- 而シテ射彈ノ全數ハ平均彈著點ヲ中心トスル此兩半數必中界ノ各々約四倍ノ帶内ニ收容セラル、モノニシテ、半數必中界ノ大小ハ射撃精度ノ良否ヲ判定スル基準トナルモノナリ(第二表)。
- 右ノ關係ハ水平被彈面ニ在リテモ亦同様ナリ。

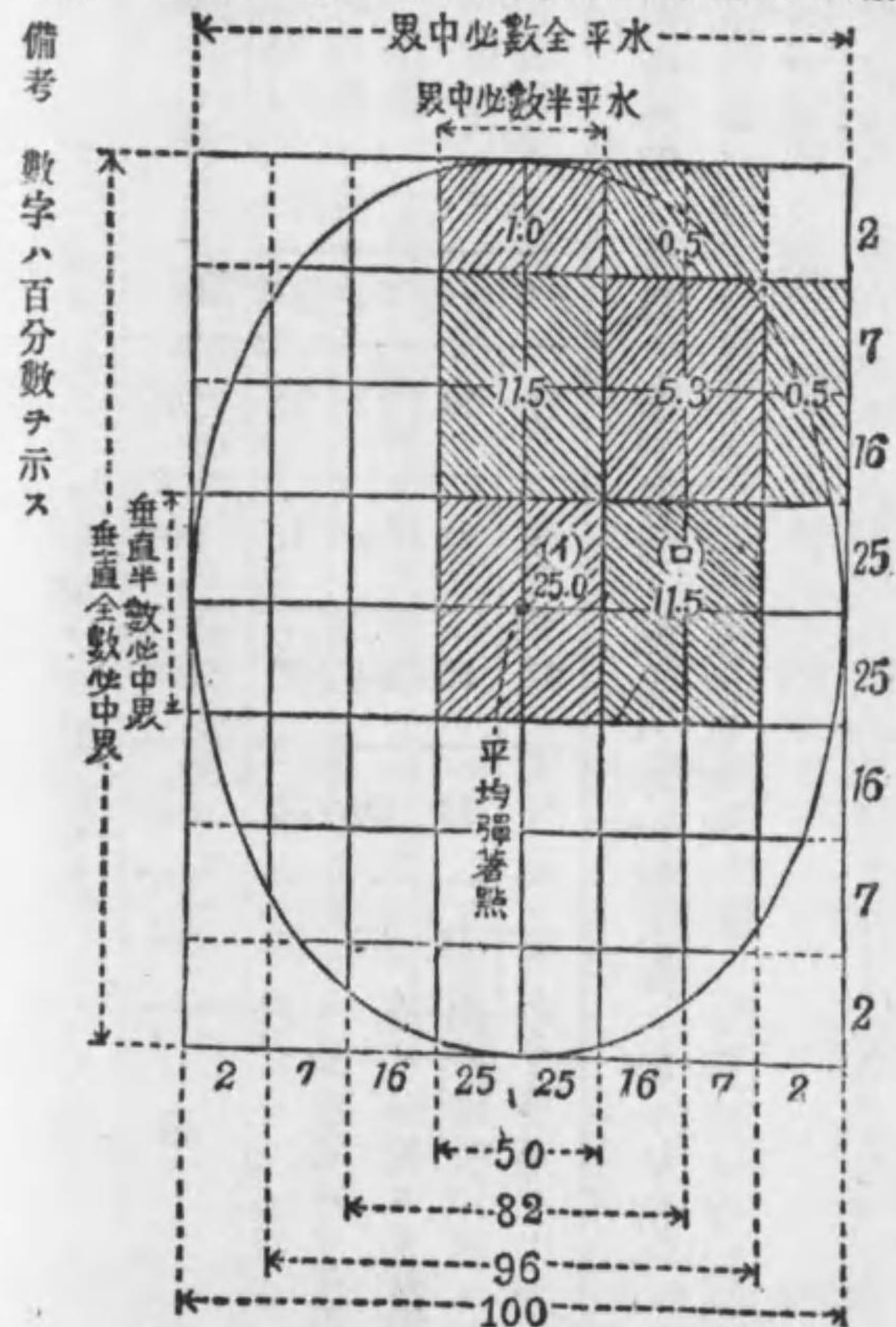
第二表

單一銃ヲ以テスル射撃ノ半數必中界					射 距 (米)	摘 要
三八式(三式)		三八式		(米)		
平水	直垂	平水	直垂		平水	直垂
13	14	12	13	200		
22	23	18	19	300		
31	32	24	26	400		
41	42	30	32	500		
53	54	36	39	600		

7、射彈疎密ノ景況 多數射彈ノ彈著ハ平均彈著點ニ對シテ常ニ一定ノ關係ニ散布スルモノニシテ垂直(遠近)及水平方向ニ於ケル疎密ノ景況ハ(第四十九圖)ノ通りトス。

圖九十四第

況景ノ密疎ルケ於ニ向方平水及(近遠)直垂ノ彈射



$$(1) 25\% = \frac{50}{100} \times \frac{50}{100}$$

$$(2) 11.5\% = \frac{50}{100} \times \frac{23}{100}$$

備考 數字ハ百分數ヲ示ス

右ノ關係ハ發射彈數ノ多キニ從ヒ益々規則正シク一定ノ法則ニ依ルチ見ルベシ

8、危險界 彈道ノ目標高ヲ超過セザル地界ノ長サヲ危險界ト謂フ。其長短ハ

射距離、目標高及地形殊ニ目標所在地ノ傾斜、射擊位置ト目標位置トノ比高

等ニ依リ變化スルモノトス(第三表)(第五十圖其一)

9、掃射地帶 被彈地ノ縱長ニ最下彈道危險界トヲ合シタル地域ヲ掃射地帶ト

謂フ。

10、遮蔽界 掩護物ノ基脚ヨリ其頂點ヲ通過スル彈道ノ彈著點ニ至ル距離ヲ遮

蔽界ト謂フ(第五十圖其二)

11、安全界 遮蔽界中目標ノ全部危險ヲ免ル、ヲ得ベキ地界ヲ其目標ノ安全界

ト謂フ(第五十圖其二)

安全界ノ長サハ掩護物ノ高サ、落角ノ大小及目標ノ高サニ應ジテ變化スルモ

ノニシテ彈道ノ低伸スルニ從ヒ同一掩護物ニ對シテモ其安全界ヲ増スモノナ

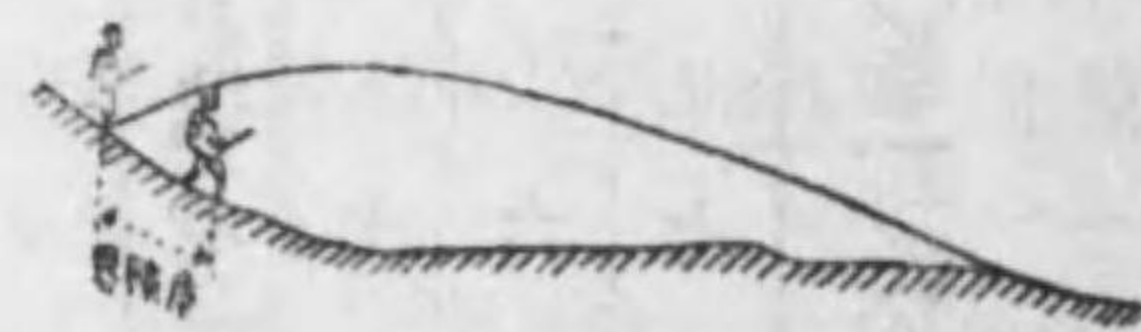
リ、故ニ近キ距離ニ於テハ小ナル地物ト雖之ヲ利用セバ大ナル價值アルモノ

トス。

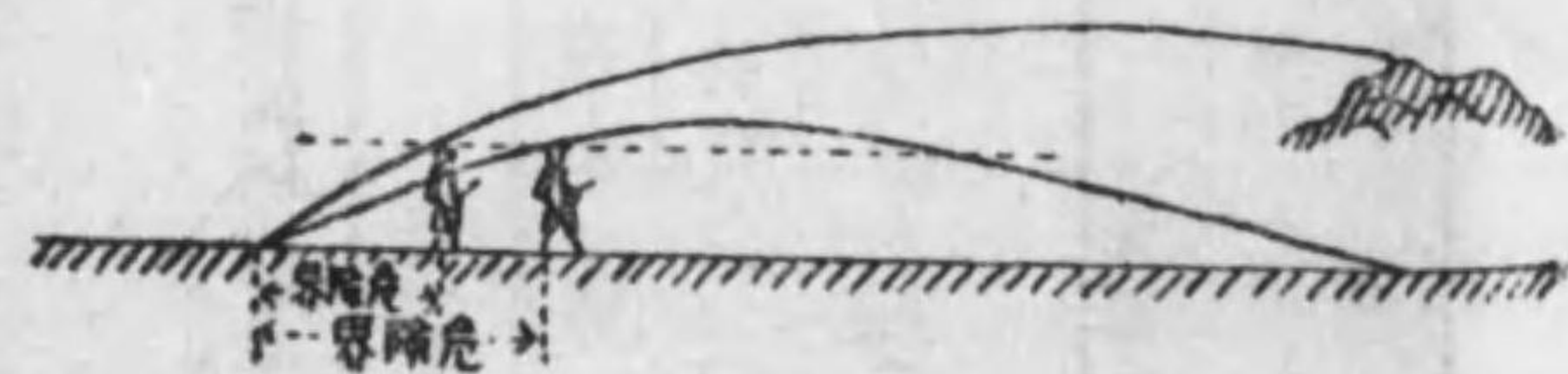
圖十五第
射 界險危ルニ關シテ高標目及離距離射 (一其)
(ス示例キ就ニ銃兵歩式八三)



係關ノト界險危ト形地 (二其)



係關ノト界險危ト置位撃射 (三其)



—(一八九)—

標目歩徒		目乘		勢姿標目 (米)離距離	銃種
伏姿	膝姿	立姿	標馬		
				400	銃兵歩式八三
123		400		400	銃騎(式四四) (式八三)
78		500		500	銃兵歩式八三
65		500			銃騎(式四四) (式八三)
51	125			600	銃兵歩式八三
44	101				銃騎(式四四) (式八三)
36	80	158	700	700	銃兵歩式八三
31	67	128	240		銃騎(式四四) (式八三)

水平地上ニ於ケル危険界 (米)

第三表 射撃

—(一八八)—

其四 銃ノ性能

1、三八式步兵銃並四四式(三八式)騎銃十一年式輕機關銃ノ性能第四表ノ如シ

第四表

輕及銃騎,銃小 力威ノ銃關機		銃種區分		存速(銃口前二十五米)	最大射距離
三 八 式 步 兵 銃	四 四 式 (三 八 式) 騎 銃	三 八 式 步 兵 銃	四 四 式 (三 八 式) 騎 銃		
十一年式輕機關銃		七 二 一 米	概 不 三 八 式 步 兵 銃 ニ 同 ジ		

2、步兵銃及騎銃彈丸ノ侵徹量(米)第五表ノ通り

第五表

步兵銃、騎銃彈丸侵徹量

(米)

600		400		200		銃物ノ種類	距離
四 四 式 (三 八 式) 騎 銃	三 八 式 步 兵 銃	四 四 式 (三 八 式) 騎 銃	三 八 式 步 兵 銃	四 四 式 (三 八 式) 騎 銃	三 八 式 步 兵 銃		
	0.75		0.90		1.10	雪ルセ固踏	
0.56	0.60	0.49	0.75	0.56	0.60	砂	
0.52	0.63	0.77	0.87	0.95	1.12	松ルセ燥乾	
通 貫						壁瓦煉 (厚二十二サ厚)	
約深 二サ 耗	凹	貫通		貫通		鉄鐵耗八	
約深 四サ 耗	痕	通 貫				鉄銅軟耗五	

第二節 射擊ノ實行

其一 通 則

- 1、射撃教育ハ主トシテ基本教育ト戰闘射撃トニ依リ行ハル。
基本教育ハ射撃技能ノ基礎ヲ確立シテ戰闘射撃ヲ準備シ、戰闘射撃ハ戰場ニ於テ必要ナル射撃技能ヲ養成スルヲ主眼トス。
- 2、基本教育ハ射撃豫行演習、狹窄射撃、基本射撃及飛行機射撃等ノ教育ヲ謂フ。而シテ基本射撃ハ基本教育ノ主體ニシテ射撃豫行演習及狹窄射撃ハ之ガ準備ノ爲行フモノナリ。
- 3、射撃實施ノ要領次ノ如シ
 - イ、射撃ハ飽迄自己ノ伎倆ト銃器トニ信賴シ一彈一敵ヲ斃ス必中ノ信念ヲ以テ最モ正確機敏ニ實施シ得ザルベカラズ故ニ先ヅ正確ニ射撃シ得ル伎倆ヲ修得シ漸次至短時間内ニ眼心指ノ一致ヲ求メ以テ一發ノ發射時間ヲ短少ナラシムル如ク演練スルヲ要ス。
 - ロ、射撃術熟達ノ要訣ハ順序ニ從ヒ能ク法則ヲ守リ中絶スルコトナク平素ヨリ熱心ニ興味ヲ以テ練磨ヲ懈ラザルニ在リ。
 - ハ、輕機關銃射撃教育ノ爲ニハ特ニ定ムル外小銃ニツキ示セル事項ヲ準用スルモノトス。

其二 射撃豫行演習

一、要旨

- 1、射撃豫行演習ノ目的ハ射手ヲシテ据銃、照準及擊發ノ要領ヲ會得セシメ以テ射撃術ノ基礎ヲ定メ且射撃伎倆ノ向上進歩ヲ圖ルニ在リ。
- 2、教育順序 射撃豫行演習ハ立射、膝射及伏射ノ三姿勢ニ於テ基礎ノ練習ヲ行ヒ次ニ胸墻及各種ノ地形地物ヲ利用シテ行フ射撃動作ヲ教育シ射手ノ習熟スルニ從ヒ漸次距離ヲ大ニシ實距離ノ目標ニ對シ各種ノ姿勢ニ於テ之ヲ行フモノトス。
- 3、教育ノ準備 射撃豫行演習ト共ニ屢々體操ヲ實施シ筋力ヲ強健ニシ身體各部就中關節ヲ柔軟ナラシムルヲ可トス。

二 照準

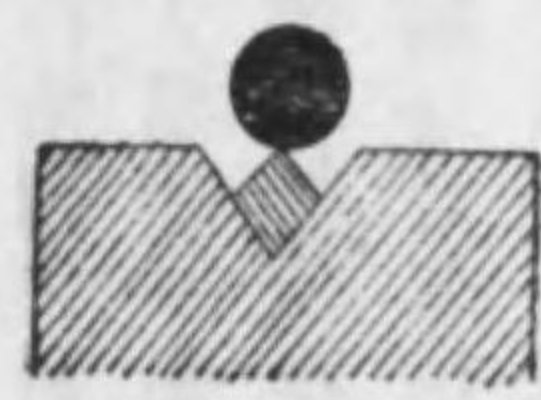
- 1、照準ハ如何ナル場合ニ於テモ正確ナラザルベカラズ
照準ヲ行フニハ距離ニ適當スル照尺ヲ採リ銃ヲ左右ニ傾クルコトナク照星

射撃

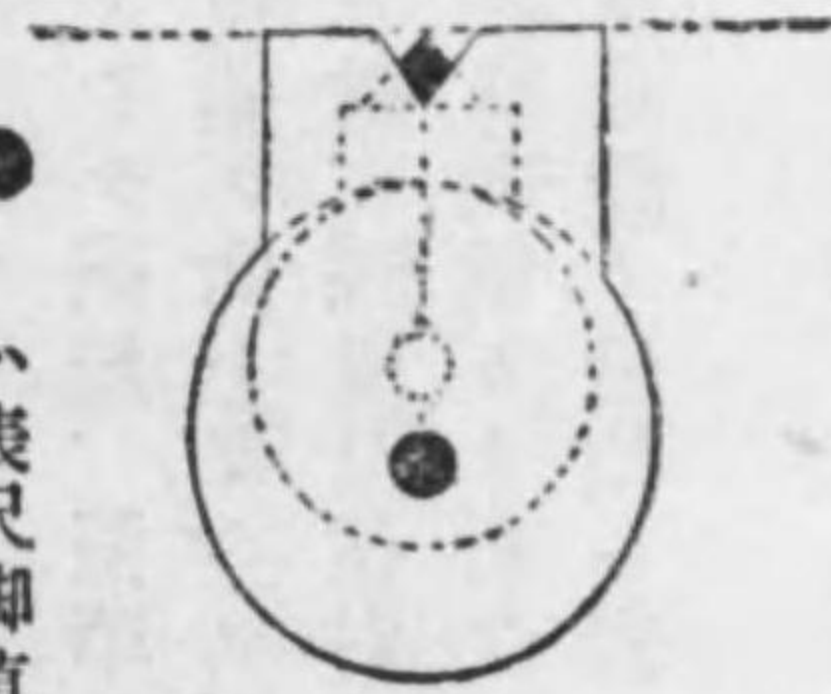
—(一九四)—

頂ヲ照門ノ中央ニシテ其兩端ト水平ナラシメ照準線ヲ正シク照準點ニ向クルモノトス
照門ヨリ照星ヲ現ハスノ度ハ常ニ一定ナルヲ要ス(第五十一圖)

圖一十五第
(一其)
準照キシ正



甲(正)



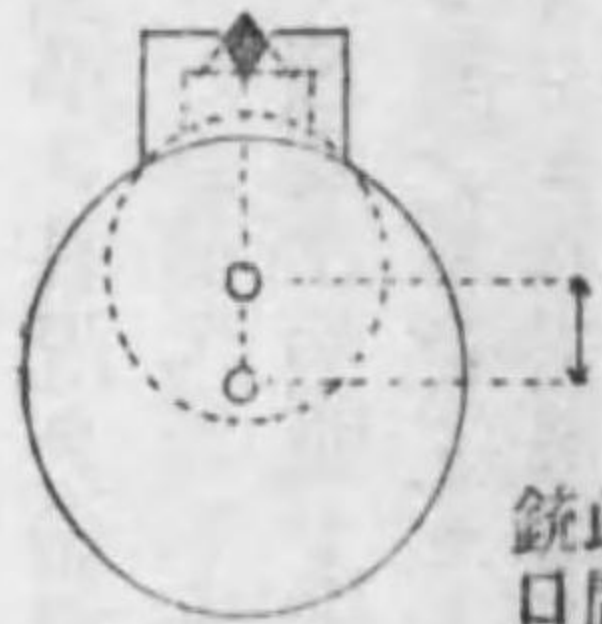
水平線

- ハ表尺脚直下ノ銃身軸
- ハ照星頂直下ノ銃身軸

(二 其)

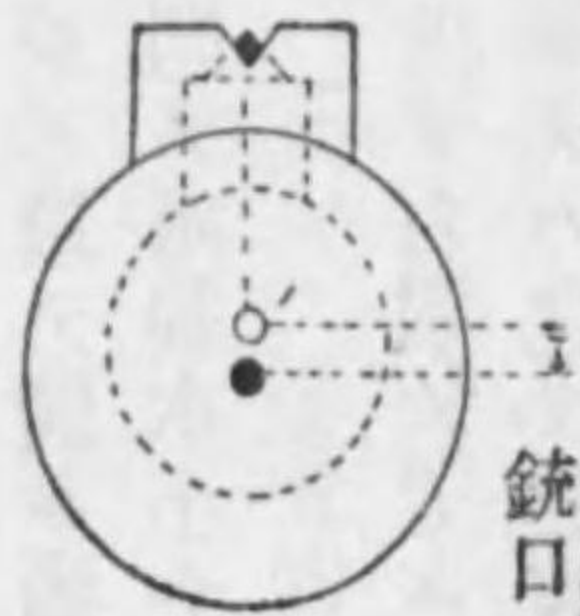
準照ルザラカシ正

乙(過高)



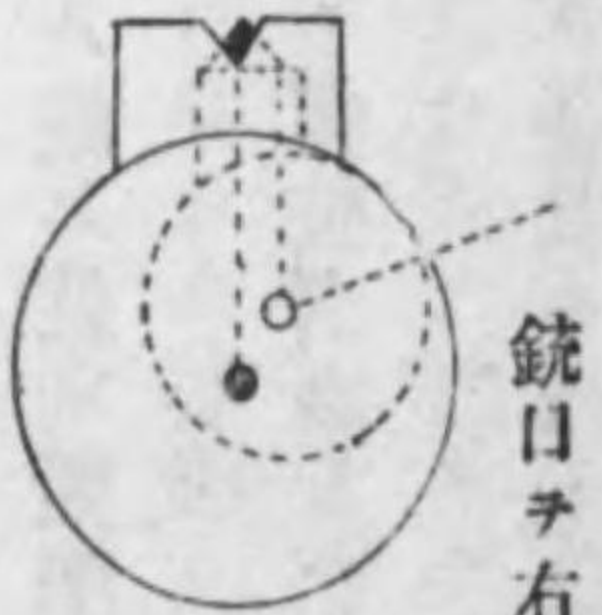
此間隔ヲ大ニシ銃口ヲ上ニ向ク

丙(過低)



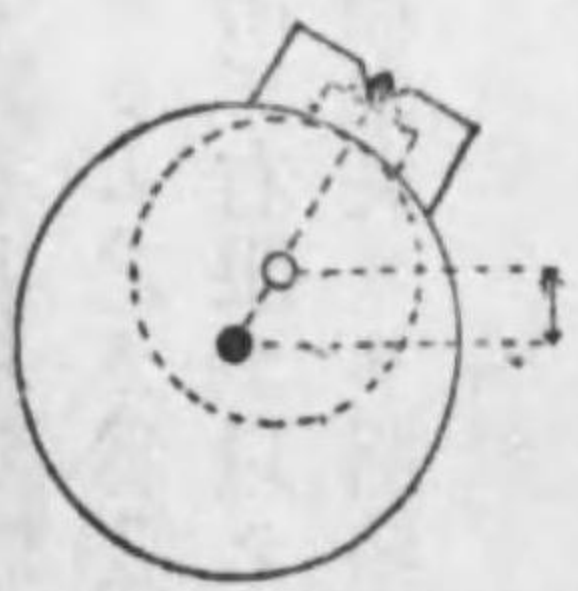
此間隔ヲ小ニシ銃口ヲ下ニ向ク

丁(偏倚)



銃口ヲ右ニ偏ス

戊(銃ノ傾キ)



此間隔ヲ小ニシ銃口ヲ右下ニ偏ス

- ハ表尺脚直下ノ銃身軸
- ハ照星頂直下ノ銃身軸

—(一九五)—

射撃

2、準照ノ要領ヲ會得セシムルニハ銃ヲ適當ノ臺上ニ置キ約十米ノ距離ニ在ル中徑二冊ノ黑點ノ下際ニ正シク照準シタル景況ヲ知得セシム之ガ爲要スレバ適宜身體ヲ支持セシメ以テ銃ニ觸ル、コトナク左眼ヲ閉ヂ右眼ヲ以テ床尾踵ノ後方ヨリ先ヅ照門ノ兩線水平ナリヤ否ヤヲ檢シ然ル後中央ヨリ照星頂ヲ通視セシム。

照準ハ通常左眼ヲ閉ヂ右眼ノミニテ行フモノトス然レドモ兩眼ヲ開クニ非ザレバ照準シ得ザルモノハ之ヲ禁ズルヲ要セズ。

3、照準演習ト照準鑑査法

照準ノ要領 正照準ノ景況ヲ知得セバ各自ニ臺上ニ在ル銃ニ就キ照準ノ練習ヲ爲サシム。

指導者ハ習技者ノ照準ヲ檢查シ若誤アル時ハ之ヲ教示シ習技者ヲシテ正シク照準シ得ルニ至ル迄之ヲ修正セシムルヲ要ス。

照準ノ正否ヲ檢スルニハ照準鑑査法ヲ行フ其方法ハ銃ヲ臺上ニ置キ白紙ヲ貼リタル標的ヲ約十米ノ距離ニ設ケ之ニ對シ習技者ハ先ヅ照準線ヲ指向シ銃ヲ

安置シ次ニ助手ノ示ス鑑査的(中心ニ細孔ヲ穿チタル中徑二種ノ黑圓板ニ細竿ヲ附シタルモノ)下際ヲ照準線ニ達スル點ニ導カシムル爲上下、左右、斜右上、斜左下等ト呼ビ助手ヲシテ習技者ノ指示ノ如ク鑑査的ヲ動カシ遂ニ照準線ノ達スル點ニ鑑査的ヲ導キ了ル合圖ニ依リ助手ハ鉛筆ニテ鑑査的ノ中心ニアル細孔ヲ通ジテ其點ヲ記ス次デ助手ハ又之ガ位置ヲ少シク移動シ習技者ヲシテ銃ニ觸ル、ルコトナク以前ノ照準線ヲ取り助手ヲシテ鑑査的ヲ動カサシメ前項ト同法ニ依リ再ビ其中心ヲ記サシム、斯ノ如クスル時ハ多少隔リタル二點ヲ得ベシ此離隔ノ大小ハ照準常ニ一様ナリヤ否ヤヲ示スモノニシテ此二點ノ中央ニ助手ヲシテ鑑査的ノ中心ヲ置キ習技者ノ照準シタル銃ヲ動カスコトナク其照準線ハ正シク鑑査的ノ下際ニ導カレアリヤ否ヤヲ點檢シ之ニ依リ照準ノ正否ヲ點檢スルモノトス若二點間ノ離隔量六耗以上ナル時ハ尙一回行ハシメ三點ニテ點檢スルヲ可トス。

三 側方移動ノ目標ニ對スル射擊

側方移動ノ目標ヲ射擊スルニハ目標ノ運動ニ從ヒツ、其前方ヲ照準スルモノ

トス而シテ其照準照ハ距離及目標ノ速度ニ依リ異ルモノニシテ其標準第六表ノ通リトス。

第六表

備考	目標種類				速歩徒歩兵	駈歩徒歩兵	常歩乘馬兵	速歩乘馬兵	駈歩乘馬兵
	距離(米)	前	端	米					
一、本表ハ實用ニ便ナル如ク其概數ヲ示シタルモノナリ 二、本表中ノ尺度ハ目標ノ前線ヨリ照準點ニ至ル間トス	六〇〇	一	米	二	米	前	端	半馬長	前
	五〇〇	一	米	二	米	前	端	半馬長	前
	四〇〇	一	米	二	米	前	端	半馬長	前
	三〇〇	一	米	二	米	前	端	半馬長	前

其三 狹窄射撃

1、狹窄射撃ノ目的及效果 狹窄射撃ノ目的ハ命中彈ニ依リ直ニ其動作ノ可否ヲ證明シ射撃ノ動作殊ニ照準、擊發ノ要領ヲ演練スルニ在リ尙本射撃ハ又射撃ノ嗜好心ヲ喚起セシムル爲ニ效果アルモノトス。

2、距離、照尺及照準點 狹窄射撃ハ通常十五米ノ距離ニ於テ之ヲ行フ、距離十五米ニ於ケル主要ナル照尺ニ應ズル照準點ハ第七表ノ如シ。

第七表

狹窄射撃 (距離十五米) ニ於ケル照準點 (米)			
照尺	三八式歩兵銃	四四式騎銃	三八式騎銃
三〇〇	〇、〇〇	〇、〇六	〇、〇五
四〇〇	〇、〇二	〇、〇四	〇、〇七
五〇〇	〇、〇四	〇、〇一	〇、〇一〇
	上方	下方	

備 考	一五〇〇	一〇〇〇	九〇〇	八〇〇	七〇〇	六〇〇
	下方					
本表中ノ尺度ハ命中セシメントスル點ヨリ照準點ニ至ル間トス	〇、五〇	〇、二一	〇、一七	〇、一三	〇、一〇	〇、〇七
	下方					
	〇、五五	〇、一七	〇、一四	〇、〇八	〇、〇五	〇、〇二
					〇、一六	〇、一三

3、射撃前後ノ銃ノ手入 命中ヲ良好ナラシムル爲射撃前必ズ銃口ニ塗油スベシ、若同一銃ヲ以テ連續射撃スル場合ニ於テハ約五發毎ニ塗油スルヲ要ス。又十五發々射後ハ腔内ニ蠟劑蓄積ノ爲命中著シク不良トナルヲ以テ十分ナル手入ヲ爲スニ非ザレバ射撃セシメザルモノトス。

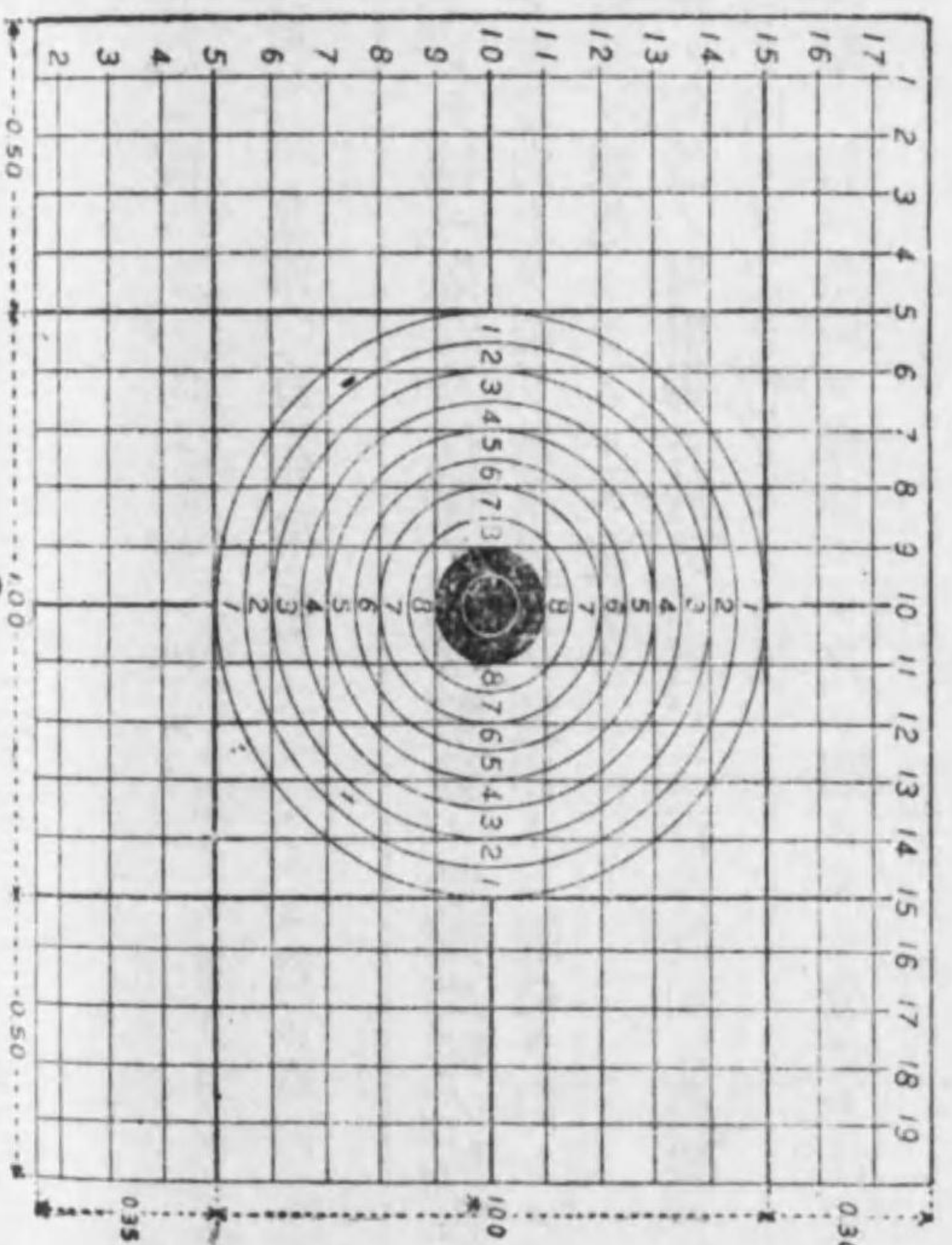
射撃ノ際萬一彈丸銃腔ニ止ルコトアラバ之ヲ除キタル後更ニ腔内ニ塗油スルヲ要ス。

4、危害豫防ニ關シテハ實包射撃ニ準ス。

其四 實包射撃

一、要旨

- 1、射手ヲシテ特ニ爆音及反撞ヲ伴フ擊發ノ要領及銃ノ特性ヲ理解セシメ以テ射撃術ノ進歩向上ヲ圖リ銃ト自己ノ技倆トニ確信ヲ得シメ併セテ眞ニ射撃ニ關スル趣味ヲ喚起セシムルニ在リ。
- 2、本射撃ハ常設ノ射撃場ニ於テ二百、三百等既知ノ距離ニ於テ規定ノ標的ニ向ヒ實包ヲ用ヒテ之ヲ行フモノトス。
- 3、實包射撃ハ特ニ危険ヲ顧慮シテ之ニ對スル十分ナル注意ヲ拂フコト肝要ナリ。
- 4、射撃用標的及用具ノ一例第五十二圖ノ如シ。



(其 一)
第五十二圖

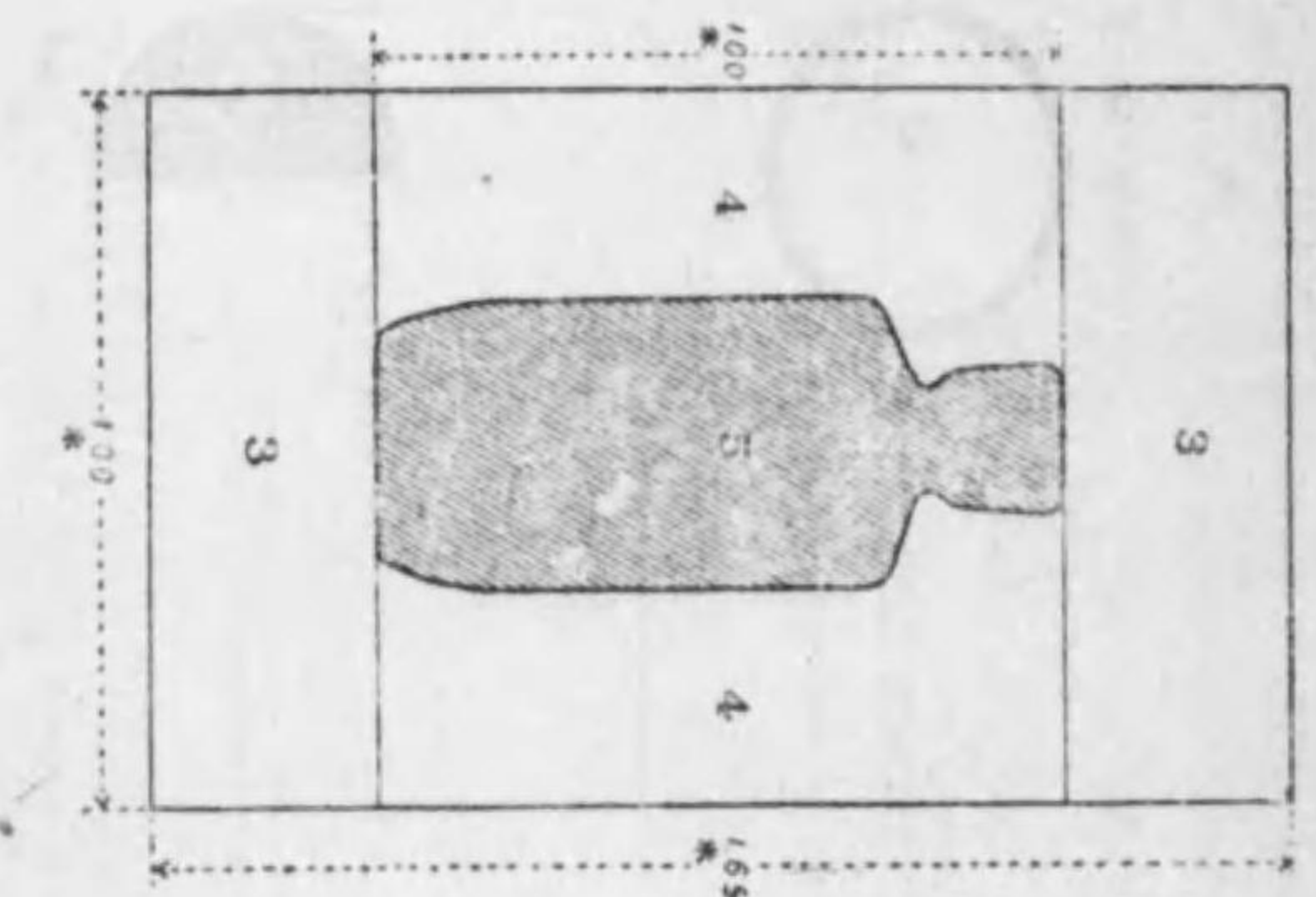
(四 共)

(的伏)的像人



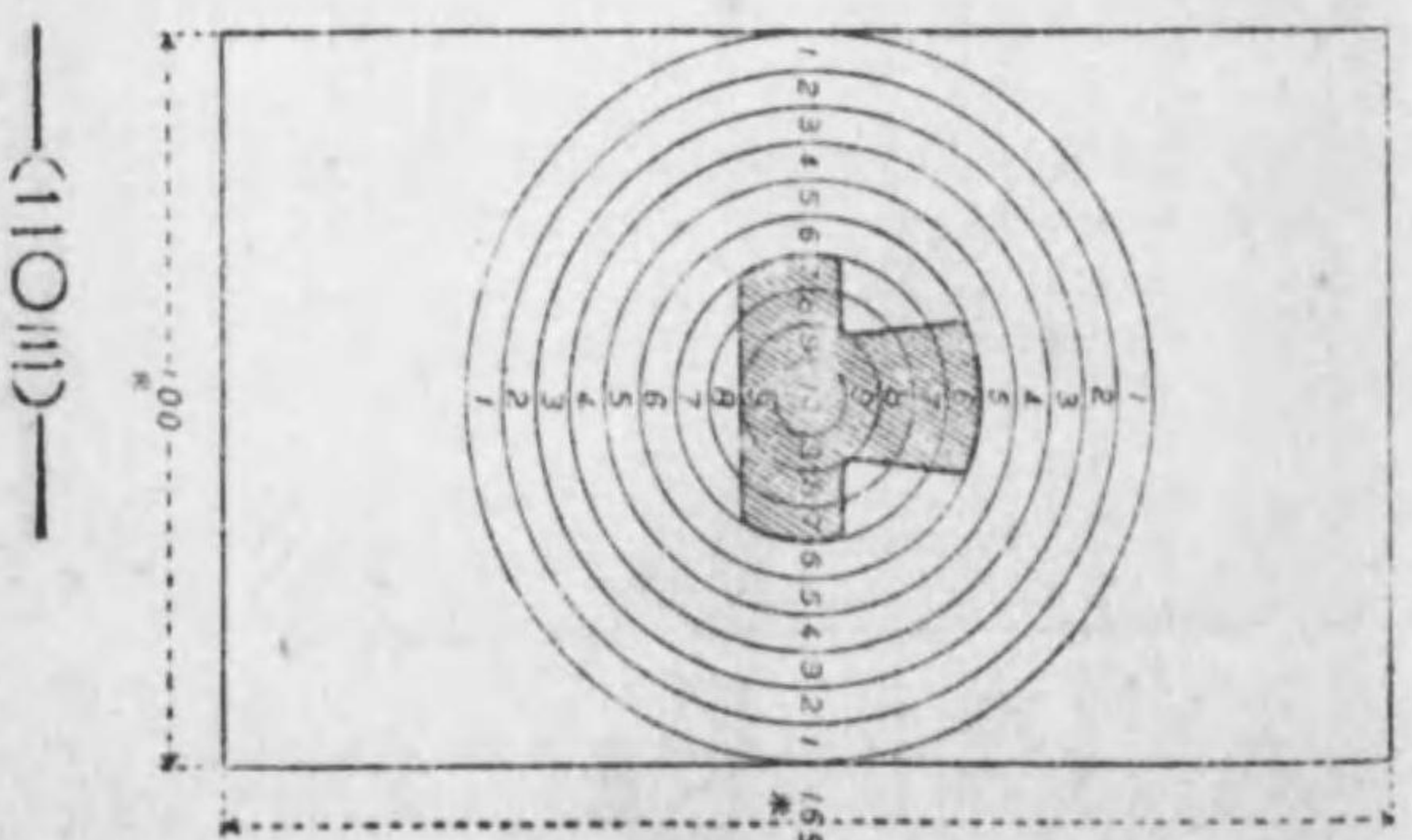
身 姿

的 畫 像



(其 三)

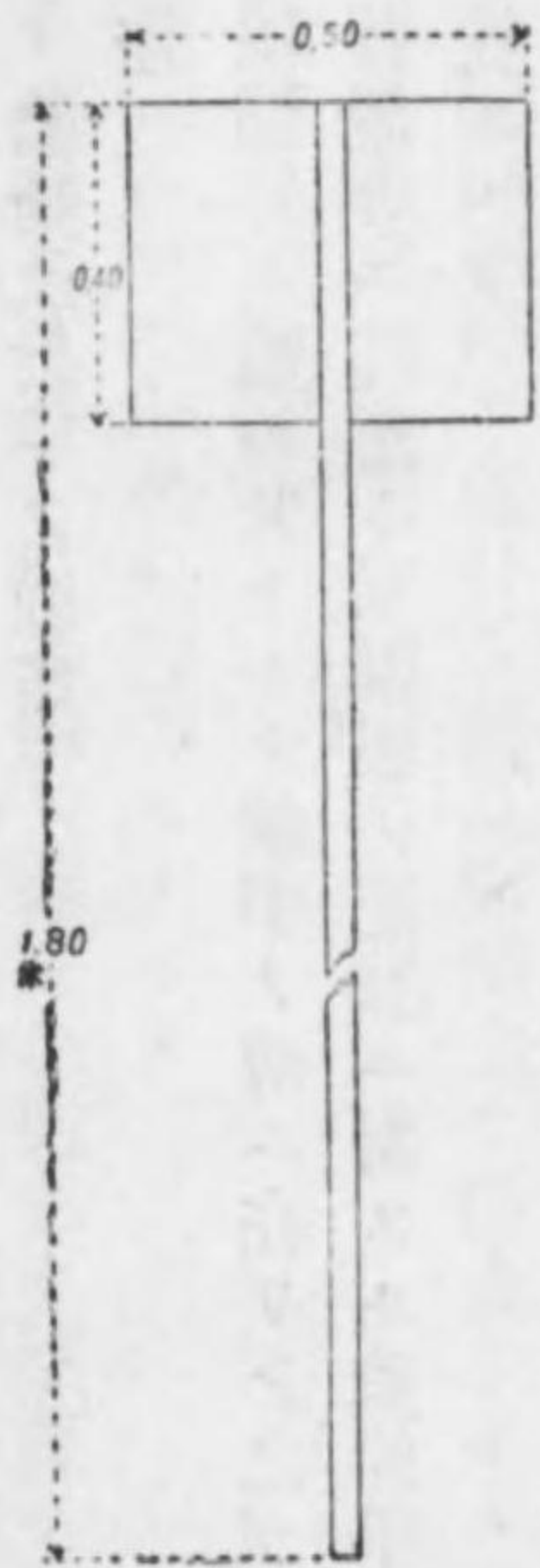
的 頭 圖



(其 三)

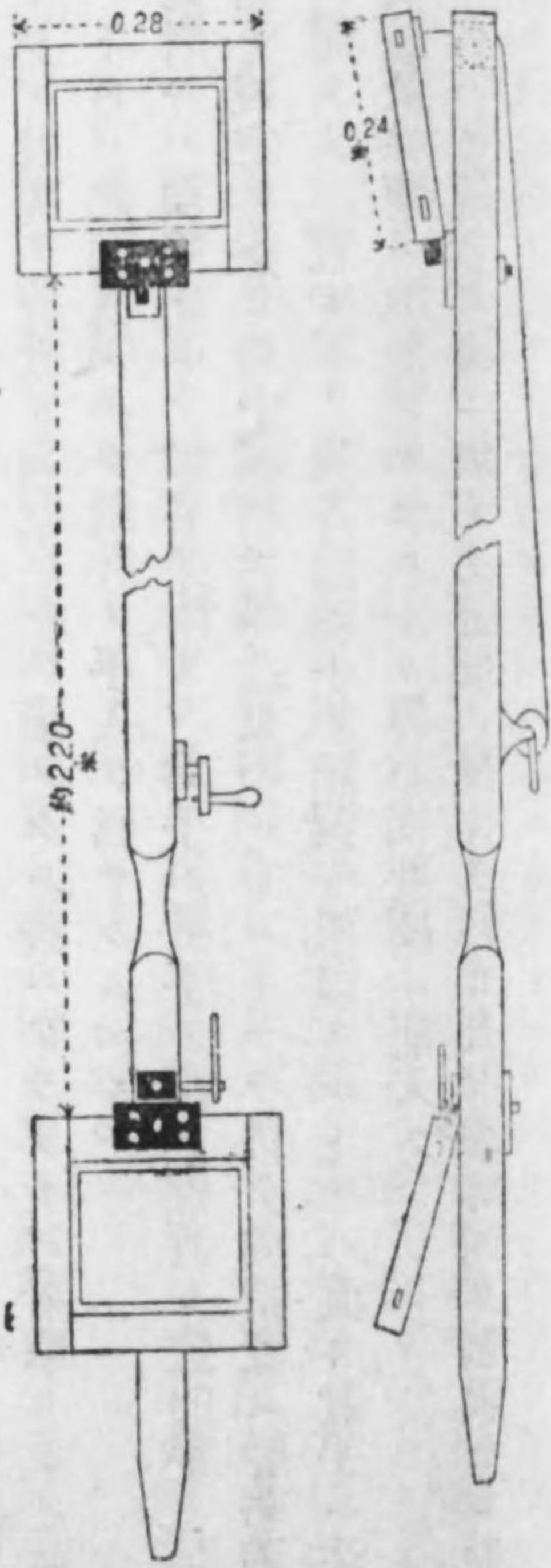
(七 共)
板號記

射
擊



—(1104)—

(六 共)
鏡的監



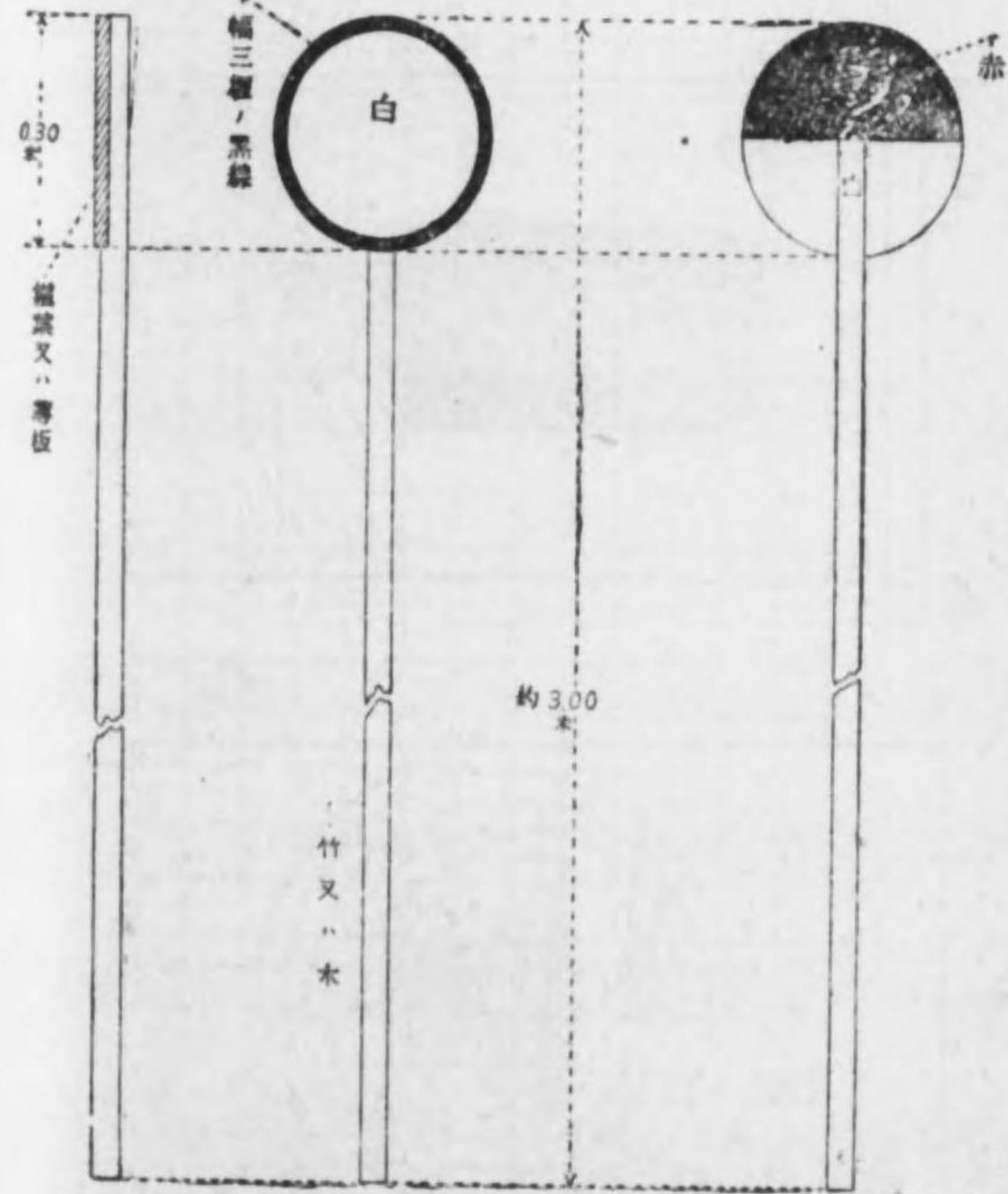
(五 共)
竿點示

面側

面表

面裏

射
擊



—(1104)—

二、射撃場ノ勤務及射手ノ動作

1、射場勤務

- (イ) 發射地點毎ニ監視者トシテ射手ノ傍ニ在リテ之ガ彈藥ノ裝填、抽出及銃ノ安全裝置等ニ注意シ又射場ノ記號ニ對スル監的手ノ應答不確實ナルトキハ之ヲ糺スベシ。
- (ロ) 發射ノ際異狀ノ音響ヲ發シ被甲破裂等ノ疑アリタルトキハ、直ニ射撃ヲ中止セシメ銃腔ヲ検査シ異狀ナキヲ確メタル後ニアラザレバ射撃セシメザルモノトス、此際成ルベク銃腔ノ手入ヲ爲サシムベシ。
- (ハ) 監視者ニハ助手トシテ二名ヲ附ス、助手ハ射手ノ傍ニ位置シ監的手ノ記號ヲ見テ規定ニ從ヒ命中成績ヲ墨汁又ハ「インキ」ヲ以テ成績表(射撃手簿)ニ記入ス、若射手ノ報告監的手ノ記號ト相違スルトキハ直ニ射手ニ注意シ又銃及彈藥ニ故障アリタルトキ等ハ摘要欄ニ記入ス。
- 他ノ一名ハ監視者ノ命ニ依リ記號板ノ操作ヲ行ヒ又射撃時間ヲ制限セル射撃ニ於テハ射撃時間ノ終始ヲ射手ニ告グルモノトス。

- (ニ) 每發ノ彈著命中點數發射彈總點等ヲ記入ス數字ハ亞刺比亞數字ヲ用フ。命中セザル射彈及跳彈ノ命中セシモノハ○ヲ以テ示シ制限時間内ニ射撃シ得ズシテ零トナリタル射彈ハ(○)ヲ以テ示シ且其旨ヲ摘要欄ニ記入ス。
- (ホ) 交代掛トシテ若干名ヲ置ク 交代掛ハ射手ヲ若干群ニ分チ各群ヲ各標的ニ配當シ銃ノ検査ヲ行ヒ特ニ銃腔ニ異物附着シアラザルヤ否ヤヲ検査シタル後各群ヲ各發射地點ノ後方約十歩ノ所ニ誘導シ彈藥出納掛ヨリ彈藥ヲ受領シ之ヲ各射手ニ分配スルモノトス。
- 各群ノ射撃進捗ニ伴ヒ交代ノ爲時間ヲ徒費セザル如ク新ニ射撃スベキ射手ヲ前項ニ從ヒ準備シ又各群毎ニ射撃ヲ終リタルトキハ射手ヨリ藥莢ヲ受領シ之ヲ彈藥出納掛ニ返付シ銃及彈藥盒ヲ検査シタル後各群ヲ舊位置ニ誘導スルモノトス。

2、射手ノ動作

- (イ) 射撃ハ各群ヨリ一名宛行フモノトス。
- 發射スレバ豫言ヲ爲シ銃ヲ構ヘ遊底ヲ開キテ藥莢ヲ出シタル後之ヲ閉ヂ命

中點數及彈著ヲ報告ス(連續射擊ニ在リテハ規定ノ彈數ヲ發射シタル後報告ス)射擊全ク終リタルトキハ銃ヲ安全裝置ニシ藥莢ヲ拾ヒ發射地點ノ後方約十五歩ノ所ニ後退シテ位置ス。

裝填、抽出及銃ノ安全裝置ハ總テ發射地點ニ於テ標的ニ對シテ行フモノトス。

(ロ) 發火セザル彈藥アルトキハ徐ニ遊底ヲ開キ彈藥ヲ廻ハシテ新位置ヲ取ラシメ再ビ射擊スベシ、此ノ如クスルモ發火セザルトキハ監視者ハ雷管及擊鞑尖端ヲ檢シ要スレバ尙發火セザルトキハ不發彈ト認定スベシ。

3、監的勤務

(イ) 監的壕内ニハ監的長一及各標的ニ監的手二名ヲ出シ適時交代セシムルモノトス。

(ロ) 監的長ハ射擊中監的手ノ動作ヲ監視シ諸規定ヲ嚴正ニ履行シ且命中成績ノ報告ヲ正確ナラシメ又射場ノ記號ニ注意スベシ。

(ハ) 監的手一名ハ示點竿手ニシテ通常示點桿ヲ以テ命中點數及彈著ヲ標示シ

他ノ一名ハ治痕手ニシテ彈痕ヲ修理シ兼テ標的ノ操作ニ任ズ。

(ニ) 命中點數及彈著ヲ標示スル記號及方法

(a) 左ノ規定ニ據リ先ヅ命中點數ヲ示スモノトス。命中點數ハ標的面上ニ記シタル數字ニ應ズル點數ヲ示點竿(號旗)ヲ以テ標示スルモノトス。

命中點數十點ナルトキハ示點竿ノ白面(白又ハ黃旗)ヲ左右ニ振り九點ハ上下シ八點ハ直立シ七點ハ標的ニ對シ右斜ニ六點ハ左斜ニ出ス五點以下ハ示點竿ノ赤白面(赤白旗)ヲ用ヒ右ト同一ノ順序ニ從ヒ標示ス、圈外ニ彈著シタルトキハ示點竿ヲ圓形ニ振り零ヲ標示シタル後彈著ヲ示ス又總テ標的の外ニ射彈逸シタルトキハ單ニ示點竿ヲ圓形ニ振りテ零ヲ標示ス。

點數ノ限界線ニ命中シタル彈著ハ其高キ點ノ記號ヲ爲ス。

跳彈ノ命中ハ圈外ニ彈著シタルト同一ノ記號ヲ爲ス。

特ニ規定スルモノノ外一發毎ニ命中點數及彈著ヲ標示ス連續射擊ニ在リテハ規定彈數ヲ射盡シタル後一發毎ノ命中點數及彈著ヲ標示スルモノト

(b)、射撃ノ終始、中止並標的廻轉及命中點數彈著ノ再示ノ要求等ヲ射場ヨリ監的壕ニ通ズル爲記號板ヲ以テ左ノ記號ヲ爲スモノトス。
射撃開始前若ハ中止間ハ標的面前ニ赤旗ヲ立テ射場ノ記號板ハ其裏面ヲ標的ニ向ケテ立ツ射撃開始ハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケ之ヲ左右ニ振り監的手ノ應答(赤旗ヲ左右ニ振りテ倒ス)ヲ待チテ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケテ立ツ、射撃中止ハ記號板ノ裏面ヲ標的ニ向ケ之ヲ左右ニ振り監的手ノ應答ヲ(赤旗ヲ左右ニ振りテ立ツ)ヲ待チテ記號板ノ裏面ヲ標的ニ向ケテ立ツ、此ノ記號ノ終リニ記號板ヲ倒セバ射撃全ク終リタルヲ示ス。
(c)、標的ノ廻轉ヲ要求スルニハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケ之ヲ俯仰ス。
(d)、命中點數及彈著ヲ再示セシムルニハ記號板ノ表面ヲ標的ニ向ケ之ヲ圓形ニ廻ス。

右ノ外要スレバ適宜ノ記號ヲ定メ又ハ旗ヲ用フルコトヲ得。
監的壕ニ於テ射場ノ記號不明ニシテ之ガ明ホヲ要求スルニハ示點竿又ハ

旗ノ竿ヲ左右ニ振ルモノトス。
監的壕ヨリ射場ニ對シ射撃ノ中止、再始ヲ要求スルニハ赤旗ヲ左右ニ振り射場ノ應答ヲ待ツ又既ニ標示セシ點數ヲ取消シ再示セントスルトキハ示點竿ノ白面ト赤面トヲ交互ニ數回現出スルモノトス。

其五 飛行機射撃

1、小銃輕機關銃ヲ以テスル飛行機射撃ハ通常飛行機ニ至ル直距離六百米以下ニ於テ行ヒ、常ニ三百米ノ照尺ヲ以テ飛行機ノ移動ニ追隨シテ行フモノニシテ機關銃ニ在リテハ通常數發毎ノ點射ヲ用フルモノトス、而シテ其照準點ハ第八表ノ通りトス。

第八表

飛行機射撃ニ於ケル照準點	
飛行機ニ至ル直距離	照準點
一〇〇米以內	飛行機ノ前端

二〇〇乃至四〇〇米	眼ニ映ズル飛行機ノ長サノ三倍前
五〇〇米以上	同
	六倍前

ニ、本射撃法ハ仰角三十度以上ニ於ケル彈道ヲ略々直線ニ近キモノト看做シ射距離ニ應ズル照尺度ハ顧慮スルコトナク常ニ三百米ノ照尺ヲ用ヒ單ニ彈道ノ經過時間内ニ飛行機ノ移動スル量ヲ飛行機ノ進路上ニ修正スル如ク定メタルモノナリ。

例ヘバ直距離六百米ニ於ケル射撃ニ於テハ小銃及輕機關銃ノ彈丸ノ經過時間ハ概ネ一秒ニシテ此間飛行機ハ約五十米移動スルヲ以テ飛行機ノ長サヲ約八米トセバ機長ノ約六倍前ヲ照準スルヲ要スルモノトス。

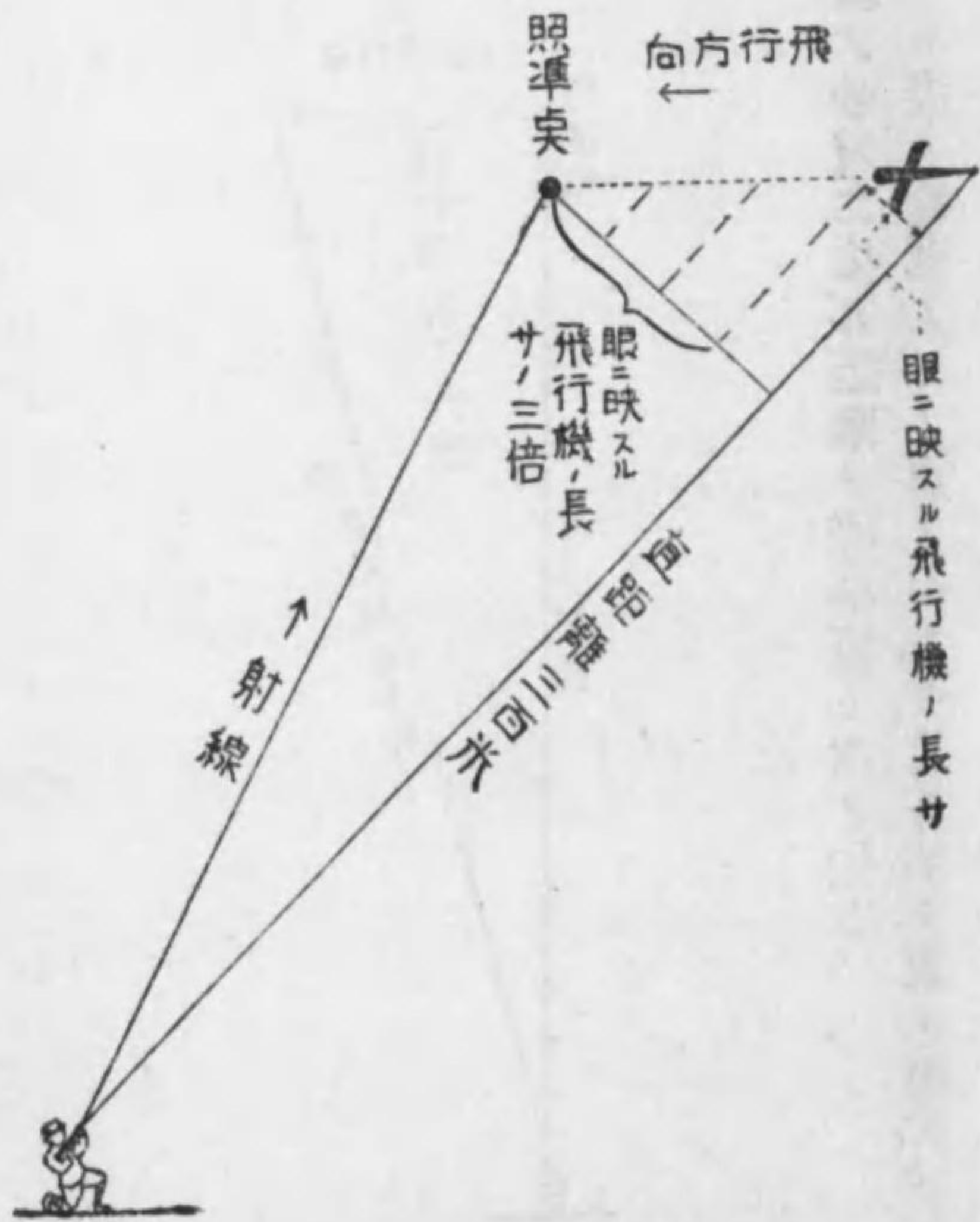
3、照準點ヲ每距離ニ定メタルハ刻々射距離ヲ變化スル飛行機ニ對シテハ實用上却テ不便ナルヲ以テナリ。

4、仰角三十度以下ノ飛行機ニ對シテモ近距離ニ於テハ、彈道ノ彎曲度小ナルヲ以テ本射撃法ヲ適用シ得ルモノトス。

圖 三 十 五 第

(一 其)

合場ルス進前ヒ向ニ我ノ機行飛
(ズ準ニ之亦モ合場ルス却退其)



(二 其)
飛行機對我射線對略直角
飛行機合場ル



5、飛行機ノ目視ノ景況ニ依ル距離ノ標準概ネ次ノ如シ。
 一〇〇〇米 機ノ輪廓ノミノ認メ得ルモ其各部ヲ認メ得ズ。
 六〇〇米 標識及翼柱ヲ認メ、機ノ各部ヲ識別シ得。

二〇〇米 搭乗者數ヲ算シ其帽子ヲ識別シ得。

第三節 射撃場ノ警戒及危害豫防

- 1、基本射撃場ノ危害豫防ニ關スル主要事項左ノ如シ。
 - (イ) 射撃ヲ始ムル若干時間前ヨリ射撃終了迄射撃場ニ大ナル赤旗ヲ掲ゲテ射撃間絶エズ周圍ノ堤防等ニ立ち入ル者ヲ警戒スベシ。
 - (ロ) 射撃ト監視ノ據トハ音聲又ハ號音ヲ以テ通信スルヲ禁ズ(特別ノ設備アル射撃場ヲ除ク)
 - (ハ) 射撃ト監視ノ據トノ交通ハ特別ニ設置セル通路ニ依ルカ或ハ一時射撃ヲ中止セシメタル後ニ於テスベシ。
 - (ニ) 必要ニ際シ監視ノ手據外ニ出ヅルニハ全責任ヲ有スル監視ノ長ノ命ニ依リ各的同時ニ赤旗ヲ左右ニ振りテ射撃ノ中止ヲ求メ射撃場ニ於テ確實ニ應答シ全ク射撃ヲ中止シタル後ニ於テスベシ。
 - (ホ) 同一射撃場ニ於テ異ナル距離ヨリ同時ニ射撃スルヲ禁ズ又標的ヲ所定ノ位置以外ニ植立スルヲ許サズ。

- (へ) 裝填セシ銃ヲ手ヨリ放スベカラズ裝填シアル銃ヲ他人ニ托スルニハ彈藥ヲ抽キ出スベキモノトス。若シ否ラザルトキハ裝填シアルコトヲ告知スベシ。
 - (ト) 裝填セシ輕機關銃ノ故障排除ニ方リテハ必ズ銃身ヲ水平ナラシメ不慮ノ危害ヲ豫防スベシ。
 - (チ) 射撃場ニ於テ許可ナク据銃、照準、擊發ヲ爲スヲ禁ズ。
 - (リ) 發射ノ爆音ニ異狀アルトキハ直ニ射撃ヲ中止シ銃ノ檢査ヲ受クルヲ要ス。
- 2、狹窄射撃場ノ危害豫防ニ關シテハ前項ニ準ズルモノトス。
 狹窄彈ノ最大距離ハ約五百米ナルヲ以テ若野外等ニ於テ特殊ノ目的(飛行機射撃等)ヲ以テ狹窄射撃ヲ行フ時ハ射線ノ方向ニ六百米橫方向ニ三百米ノ危險區域ヲ設ケ此範圍ヲ警戒シ危害ノ豫防ヲ爲スヲ要ス。
 狹窄彈ノ銃口前十五米ニ於ケル侵徹量ハ木材約六糎、砂約二十糎、尋常土約四十糎ナリ。又高角度射撃ニ於テ落下シ來ル彈丸ノ活力ハ依然人體ニ危害ヲ及ボス虞アルモノナルニ注意スベシ。

3、一般注意事項 陸軍演習場並其以外ノ地ニ於テ實包射撃ヲ行フ場合ノ警戒及危害豫防ニ關スル件並平坦地ニ於ケル危險區域同區域内ニ於ケル危害豫防ニ關シ統監及各勤務員ノ主要ナル任務及注意スベキ事項等ハ射撃教範ニ據ルベシ。(射教第二百四乃至第二百七)

第七章 陣中勤務

第一節 要 則

第一、陣中勤務教育ノ目的ハ搜索警戒勤務ノ實施ニ依リ責務ヲ自覺シ自ラ任ジテ友軍ノ犧牲トナルベキ崇高ナル献身奉仕ノ精神ヲ養ヒ且注意力、協同心、剛膽、創意、慧敏等ノ諸徳性ヲ練リ通信ノ傳達法ニ於テハ責任、義務ノ重大ナルヲ自覺スルト共ニ誠實ニシテ適正ナル判斷力ヲ養ヒ又宿營、給養、行軍等ノ教育ニ於テハ協同一致克己忍耐、實實剛健及公德心等ノ諸徳性ヲ涵養スルニ在リ。

第二、陣中勤務ノ演練ハ各個、密集教練等ノ實施ト異ナリ指揮官ノ監視外ニ於

テ行ハレ且獨斷專行ヲ要スル機會多キヲ常トス。
從ツテ動モスレバ獨斷ノ見解ヲ誤リ不羈放縱ニ陥ルノ弊ナキヲ保シ難シ嚴ニ
戒心ヲ要ス。

第二節 命令、報告、通報

其一 通 則

- 1、命令 指揮權ヲ有スル上官部下ニ對シ任務ヲ附與シ或ハ其ノ行動ヲ規定シ以テ之ガ實行ヲ要求スル爲ノ意志表示ヲ命令ト稱ス。
- 2、報告 部下ガ上級指揮官ニ對シ其任務、行動其他ニ關シ申述スルコトヲ報告ト稱ス。
- 3、通報 友軍相互並上級者ヨリ下級者ニ對シ必要ナル事項ヲ告知スルコトヲ通報ト稱ス。

其二 命 令

- 1、命令ノ基礎ハ決心ナリ、凡ソ指揮官ノ決心ハ任務、我が軍ノ狀態等ヲ較量シ周到ナル思慮ト迅速ナル決斷トヲ以テ之ヲ決スルモノニシテ就中任務ハ決心ノ基礎ヲ爲スモノナリ、故ニ地形ノ不利、敵情ノ不明等ニ依リ躊躇スベキモノニアラズ。

2、命令ノ種類 命令ヲ別ケテ作戰命令及日々命令トス。

- (イ) 作戰命令ハ軍隊ノ作戰行動ヲ規定スルモノニシテ各團隊ノ稱號ヲ冠シ(第〇師團命令、某聯隊命令等)或ハ軍隊區分ニ依リテ成リタル部隊ノ名稱ヲ冠ス(前衛命令、某支隊命令等)

軍隊區分トハ作戰上ノ必要ニ基キタル軍隊ノ一時的編組ヲ謂フ。

- (ロ) 日々命令ハ軍隊ノ内務、人事、人馬ノ補充等ノ内直接作戰ニ關係セザル事項ヲ規定スルモノニシテ團隊等ノ稱號ヲ冠ス(某旅團日々命令、某支隊日々命令等)

3、命令作爲上ノ要件

- (イ) 命令ハ發令者ノ意志及受令者ノ任務ヲ明確適切ニ示サザルベカラズ。
- (ロ) 命令ハ受令者ノ識量ト性質トニ適應シ且受令者ノ自ラ處斷シ得ル事項ヲ妄ニ拘束スベカラズ。

- (ハ) 發令者ハ常ニ身ヲ受令者ノ位置ニ置キ受令者ガ如何ニ之ヲ解釋シ如何ニ行動スベキカ又其命令ガ受令者ニ到達スル間ニ於テ起ルベキ情況ノ變化ニ適應スベキヤ否ヤ等ヲ考査スルコト必要ナリ。
 - (ニ) 命令ニハ其之ヲ命ジタル理由若ハ臆測ニ係ルコトヲ示スベカラズ、而シテ將來ヲ希望シ或ハ種々未然ノ形勢ヲ擧ゲテ一々之ニ對スル處置ヲ定ムルガ如キハ宜シク之ヲ避クベシ。
- 4、作戰命令ノ記述 作戰命令ハ概ネ左ノ列次ニ從ヒ記述スルヲ可トス。
敵軍及友軍ノ情況 但受令者ノ爲ニ必要ナルモノニ限ル。
指揮官ノ企圖
軍隊區分ニ依リテ成立セル各部隊ノ任務、
通信、衛生、大行李、輜重等ニ關シ各隊ニ必要ナル事項。
發令者ノ所在地及要スレバ其行動、連絡ノ方法、報告送達ノ場所等。
作戰命令ニ軍隊區分ヲ記スルトキハ之ヲ命令文ノ上欄或ハ別紙ニ記載スルカ又ハ命令文中ニ記入ス。

5、命令ノ下達法

- (イ) 命令ハ成ルベク印刷又ハ筆記シテ之ヲ附與シ或ハ口上若ハ其他ノ通信機關(電信、電話、視號、傳令等)ニ依リ下達ス、又口達シテ筆記セシムルコトアリ。
- (ロ) 命令ニハ其配布區分及下達法ヲ記シ又其控ニハ下達若ハ傳達ヲ終リタル時刻ヲ記載シ置クモノトス。
- (ハ) 命令ヲ下達スルニ至便ニシテ確實ナル方法ハ各部隊ニ合同命令ヲ與フルニ在リ。然レドモ情況ニ依リ其一部又ハ全部ニ各別命令ヲ下シ或ハ先ヅ要旨ノミヲ下達シ後完全ナル命令ヲ附與スルヲ可トスルコトアリ。

其三 報告、通報

1、要旨

- (イ) 報告及通報ノ目的ハ各級指揮官ヲシテ諸般ノ情況ニ通曉シ以テ其指揮及協同動作ヲ適切ナラシムルニ在リ。
- (ロ) 各指揮官ハ適時其得タル諸情報ヲ自己ノ狀態並爾後ノ企圖ト共ニ上級

指揮官ニ報告シ且部下諸隊並隣接及協同スル部隊ニ通報スルコト肝要ナリ。

- (ハ) 戦闘間各部隊長ハ其觀察セシ敵情、地形及自己ノ行動等苟モ戦闘指導ニ影響ヲ及スベキ事項ハ機ヲ失セズ之上級指揮官ニ報告セザルベカラズ。
- (ニ) 某期間内ニ情況ノ變化ナキコト又ハ情況ノ不明ナルコト等モ報告ノ價値アルコトアリ。而シテ徒ラニ情況ヲ悲觀シ敵情ヲ過大視スルノ報告ヲ爲スガ如キハ嚴ニ之ヲ戒メザルベカラズ。
- (ホ) 他部隊ノ近傍ニ新ニ到着シタル部隊ハ速ニ其旨ヲ該部隊ニ通報スベシ。特ニ交戦中ノ軍隊ニ近接セシ際ニ於テ此通報ヲ必要トス、而シテ此通報ニ接シタル軍隊ハ現時ノ情況ニ關シ新ニ到着セシ部隊ニ通報スルノ義務アルモノトス。

2、報告、通報記述ノ要領

(イ) 報告、通報ノ記述ニハ命令ノ如キ一定ノ方式ナシト雖成ルベク時刻ヲ逐ヒテ必要ノ事項ヲ列記シ且勉メテ其由ツテ來ル所以ヲ明カニシ以テ其意圖

ヲ明瞭且容易ニ受報者ニ了解セシムルヲ要ス。

- (ロ) 報告ヲ記スルニハ受報者ノ判斷ニ便ナラシムル爲其出處(例ヘバ自ラ目撃セシコト、他人ノ實見セシコト、他人ノ聞知セシコト等)ヲ明ニスベシ但シ推測ニ係ルコトハ常ニ其理由ヲ附記スルヲ要ス。
- (ハ) 敵兵ニ關スル報告、通報ニハ日時、場所、兵種、員數及動作ヲ記スルコト肝要ナリ。
- (ニ) 部下ヨリノ報告ヲ更ニ上級指揮官ニ報告スルニハ原報告發送ノ時刻、地點及發送者ヲ明ナラシムベシ。但シ原報告ヲ轉送スルトキハ自ラ點檢セシ時刻ヲ記入シ署名スベシ。
- (ホ) 報告、通報ヲ爲サントスルニ方リテハ特ニ其要求ナキトキト雖地形ニ關スル事項ヲ附加スルノ注意ヲ要ス。

其四、命令、報告、通報ノ傳達

1、傳達ノ系統

(イ) 指揮ノ系統ヲ有スル部隊間、命令、報告、通報ノ傳達ハ其系統ヲ追ヒテ

行フモノトス。然レトモ事急ナル場合ニ於テハ此順序ニ從フコトナク直接所要ノ部隊ニ傳達スルコトヲ得、此場合ニ在リテハ中間ニ於テ省カレタル部隊ニハ所要ニ應ジ成ルベク速ニ別報シ同時ニ上級(下級)ノ部隊ニハ既ニ傳達セシ旨ヲ附記スルヲ要ス。

(ロ) 指揮ノ系統ヲ有セザル部隊間、通報ノ傳達ハ相互ノ協同動作上直接關係ヲ有スル部隊ニ向テスルヲ通常トスルモ危険ノ迫レル部隊又ハ某情況ニシテ任務上之ヲ必要トスル部隊ハ先ヅ直ニ通報スルモノトス。

(ハ) 同一ノ命令、報告、通報ヲ同時ニ諸方ニ傳達スル場合ニハ此旨ヲ併セ傳ヘ以テ各部隊ヲシテ傳達ノ重複ヲ避ケシムルコト緊要ナリ。

2、傳達機關ノ種類及選定ノ要旨

(イ) 命令、報告、通報ノ傳達ヲ電氣的通信法(有線電信、電話、無線電信等)ニ依リ行フベキカ或ハ其他(視號及音響通信等)ノ方法ニ依ルベキヤハ距離ノ遠近、傳達機關ノ配置、通信網其他ノ情況ニ依リ決定スベキモノトス而シテ電信、電話ハ屢々不通トナリ且傳達ニ誤リヲ生ズルコトアルヲ以テ

重要ナル命令、報告、通報ハ縱ヒ其通信確實ト思惟スルトキニ在リテモ之ト同時ニ別ニ筆記又ハ印刷シテ送達スルコト必要ナリ。

(ロ) 口頭、印刷若ハ筆記セル命令、通報及報告ハ距離ノ遠近ト其他ノ景況トニ從ヒ各種交通機關(鐵道、自動車、自轉車等)ヲ利用シ或ハ乘馬若ハ徒步ノ傳令ニ依リ或ハ鳩、傳令犬、時トシテ飛行機等ヲ利用シテ傳達ス。

3、電話、視號及口頭ニ依ル傳達上ノ注意

(イ) 電話ヲ以テ傳達スルトキハ受話者ハ必ズ之ヲ復唱シ傳達事項長キトキハ一句毎ニ之ヲ筆記シ後更ニ其全文ヲ復唱スルモノトス。而シテ受話者ハ其傳達者ノ氏名及受領日時ヲ附記シ置クヲ要ス。

電話通信ハ勉メテ責任者直接通話スベシ。

(ロ) 視號若ハ口頭ニ依リ重要ナル命令、通報、報告ヲ受ケタル場合モ亦之ヲ筆記シ且適宜傳達者ノ氏名及受領日時ヲ附記シ置クヲ要ス。

其五 要圖、寫景圖及寫眞

1、要旨 要圖、寫景圖及寫眞ヲ命令、報告、及通報等ニ附スルトキハ煩雜ナ

ル字句ヲ省キ或ハ其意ヲ補足シ得ルノ利アリ殊ニ空中寫眞ハ地物ノ形狀又ハ築設物ノ狀態ヲ詳細ニ知ルヲ得ルモノニシテ敵情ヲ詳カニシ其企圖ヲ判斷シ又地圖ナキ地方ニ於テ地形ヲ知ル爲特別ノ價值ヲ有ス。

2、要圖ノ調製 要圖ハ其目的ニ應ジ單ニ必要ノ事項ヲ簡明ニ描畫シ以テ時機ニ適應セシムルヲ要ス、故ニ其精疎ハ一ニ目的ニ依リ定メ或ハ正測圖ニ近キ描畫ヲ爲シ或ハ梯尺ニ依ルコトナク距離及尺度ノ如キハ數字ヲ以テ註記スルニ止ムルコトアリ。

3、寫景圖ノ描畫 及寫眞ノ撮影寫景圖及寫眞ニハ何レモ其描寫(撮影)位置ノ關係其他必要ノ件ヲ明示スルモノトス。

其六 文書ノ記述

1、文書記述ノ要領 文書ノ記述ハ爲シ得ル限り簡明平易ナルヲ要ス、而シテ其長キモノニ在リテハ適宜條ヲ分チ或ハ數字等ヲ附シテ列記シ又一事件ニ關係スルモノハ一條中ニ記載スルヲ可トス。

字體ハ正シク且鮮明ニ筆記シ光明不十分ナル時ニ於テモ尙通讀シ易カラシメ

又誤リヲ生ジ易キ文字(例ヘバ二トニ、八トハ、カトカノ如シ)ハ殊ニ明瞭ニ記載スルコト肝要ナリ。

凡テ文書ハ其記述後自ラ之ヲ復讀シ又ハ他ノ者ヲシテ之ヲ點檢セシメ且受信者ニ於テ如何ニ了解スベキカヲ考察スルトキハ字句修正ノ必要ヲ發見シ受信者ノ誤解ヲ減少シ得ルモノトス。

2、用紙 命令、報告、通報ヲ記スルニハ通常通信紙ヲ用ヒ或ハ便宜他ノ紙片ヲ以テ之ニ代用スルモノトス。

3、右左、先頭、後尾等誤解ヲ生ジ易キ文字ノ用法 右左、前後、此方彼方等ノ語ハ明瞭ニシテ疑ヒナキトキノ外成ルベク用ヒザルヲ可トス。

右側、左側、翼右、左翼、右側衛、左側衛、右縱隊、左縱隊等ノ語ハ敵ニ對スル方向ヲ基準トシテ、河川ノ右岸、左岸トハ下流ニ面シテ、行軍縱隊ノ先頭、後尾ナル語ハ行進方向ヲ基準トシテ稱呼スルモノトス。

4、地形或ハ情況ノ指示要領 地形(陣地)ノ關係或ハ部隊ノ位置等彼我ノ情況ヲ說示スル場合ニ於テ横方向ノ關係事項ハ我軍ニ在リテハ右翼ヨリ敵軍ニ在

リテハ其左翼ヨリ始メテ反對方向ニ、又縦方向ニ關スル事項ハ我軍ヨリ逐次敵方ニ及ブテ通常トス、然レ共其附近ニ著明ナル地點若ハ地物等アルトキハ之ヲ基準トシテ示スヲ可トスルコトアリ。

5、日時ノ記述 日ヲ記スルニ方リテハ單ニ明日又ハ昨日等ト記スルコトナク明五日、昨日等ト記スルヲ要ス。

時刻ヲ記スルニハ必ズ午前、午後ノ語ヲ冠スベシ而シテ十二時ノ稱呼ハ通常三月十日正午又ハ九月十八日夜十二時ト稱呼シ誤謬ヲ避クルヲ可トス。

全夜ニ亙ル事件ニシテ夜ノ字ヲ用フルヲ要スルトキハ、單ニ某日夜ト記載スベシ、蓋シ夜ハ黄昏ヨリ拂曉迄ヲ稱ス故ニ某日夜トハ其時間翌日ノ拂曉前ニ亙ルモノトス。

6、地名ノ記述 地名ハ特ニ明瞭ニ記シ且地圖ト同文字ヲ用ヒ、要スレバ使用セル地圖ヲ示スベシ、一地方ニ於テ他ニ同一ノ地名アルトキ若ハ地名著名ナラザルトキハ精密ニ記シテ「例ヘバ北部何村或ハ何村ノ東北何軒ニ在ル何村等」之ヲ明瞭ナラシムベシ。

地圖上ニアル標高點ヲ基準トシテ地名ヲ指示スルトキモ亦同ジ。字或ハ俗稱ニシテ地圖ニ記載ナキモ之ヲ用フレバ其地點明瞭ナルトキ、又ハ地名實稱ト

異ナル場合ニ於テモ先ヅ地圖ニ記載シアルモノヲ記シ、其下ニ括弧ヲ置キ字或ハ俗稱又ハ實稱何々ト記シ又讀ミ難キ地名ニハ振假名ヲ附スルヲ可トス。

7、道路 道路ハ疑ナキ街道ノ外ハ之ニ關スル著名ナル二箇以上ノ地名ヲ以テ記スベシ。(例ヘバ何村——何町道)

8、地區ノ指示 地點又ハ道路等ニ依リ地區(土地ノ區域)ヲ指示スルニ際シ之ヲ包含スルヤ否ヤ疑ハシキ處レアルトキハ地名又ハ道路等ノ名稱ノ下ニ括弧ヲ附シテ(含ム)若ハ(含マズ)ト記シ或ハ某地及其附近若ハ某道路及其以南ト記シ之ヲ明瞭ナラシムベシ。

第三節 傳令

1、要旨

(1) 命令、報告、通報傳達ノ爲通常傳令將校、乘馬傳令、徒步傳令ヲ置キ自動二輪車、自轉車等ヲ準備スルモノトス。

(ロ) 命令、報告、通報ニシテ特ニ重要ナルカ或ハ其途次安全ナラザルトキハ
 數通ヲ製シ數使ヲ發シテ相異ル道路ヲ取ラシメ、或ハ二人以上ヲ同行セシ
 メ又將校ヲシテ之ヲ傳達セシム。
 時宜ニ依リ將校ヲシテ自動車又ハ飛行機ヲ利用セシムルヲ可トスルコトアリ。

(ハ) 傳令勤務ニ服スル者ハ爲シ得レバ輕裝セシメ以テ其行動ヲ容易ナラシム
 ベシ。

2、傳令ノ速度 傳令ノ速度ハ地形ノ難易、距離ノ遠近、天候ノ良否、明暗ノ
 度、馬匹ノ狀態等ニ依リ多少ノ差異アリト雖畫間普通ノ景況ニ於ケル速度ヲ
 概定スレバ左ノ如シ。

乘馬傳令

並 一時間約八杆 (概ネ三分ノ一ノ歩度即チ常歩二、速歩一ノ割合)
 急 一時間約十杆 (概ネ三分ノ二ノ歩度即チ常歩一、速歩二ノ割合)
 至急 馬力ノ耐フルニ應ジ成ルベク迅速ナル速度ヲ用ヒ約二十杆以内ノ距

離ニノミ應用スベキモノトス。

徒歩傳令

並 一時間約五杆 (概ネ速歩ヲ用フ)
 急 一時間約六杆 (駈歩ト速歩トヲ混用ス即チ駈歩一、速歩三ノ割合)
 至急 唯近距離ニノミ用フルモノニシテ體力ノ耐フルニ應ジ駈歩ス。

自轉車傳令

自轉車傳令ノ速度ハ良好ノ景況ニ於テ一時間約十二杆ヲ標準トスルモ道路
 ノ景況、天候ノ良否、明暗及傳達緩急ノ程度等ニ應ジ適宜之ヲ定メ若ハ到
 著時刻ヲ以テ之ヲ規定スルヲ可トスルコトアリ。

3、傳令ニ示スベキ件概ネ左ノ如シ。

受信者及其所在地。

經路。

速度若ハ歩度。(要スレバ到着時刻)。

傳達後ノ處置。

(イ)(ロ)(ハ)(ニ)

- (ホ) 其他必要ナル注意 例へば歸途ニ於ケル速度等ノ如シ。
- 4、所要ニ應ジ傳令ニ教示スルヲ可トスル件左ノ如シ。
 - (イ) 發信者ハ傳達者ニ其書中ノ内容ヲ知ラシメ置クヲ可トスルコトアリ、特ニ途中敵ニ關スル願慮ヨリ書簡ノ破毀消滅ヲ要スル虞アルトキニ於テ然リトス。
 - (ロ) 通報及報告ハ途中ニ於テ他ノ司令部及軍隊ニ知ラシムルヲ適當トスルコトアリ、此場合ニ於テハ特ニ其旨ヲ傳令ニ示スベキモノトス。
 - (ハ) 敵ニ關シ願慮スベキ事項ヲ指示シ又經過路ノ要圖若ハ之ヲ記入シタル地圖ヲ與フルヲ要スルコトアリ。
- 5、傳令ノ動作及傳令ニ對スル軍人、軍隊ノ義務。
 - (イ) 口上ヲ以テ命令、報告、通報ヲ傳達スルトキハ傳令ハ出發前其事項ノ全部若ハ要旨ニ就キ之ヲ復唱スベシ。
 - (ロ) 傳令ハ途中上官ニ遇フトキハ「傳令」ト呼ビ其步度ヲ變スルコトナシ、又命令、報告、通報ノ傳達ニハ下馬ヲ要セズ。

- (ニ) (ハ) 傳令ハ通過スル沿路ヲ能ク觀察シ歸路ヲ容易ニ知り得ルノ注意ヲ要ス。
- (イ) 傳令ハ敵ノ觀察特ニ敵ノ航空機ニ注意シ、自己ノ行動ニ依リ司令部、本部等ノ位置ヲ偵知セラレザル如ク注意スルヲ要ス、然レ共之ガ爲任務遂行ノ遲延ヲ許サズ。
- (ホ) 報告及通報ヲ途中ニ於テ他ノ司令部及軍隊ニ知ラシムルヲ要スルトキハ傳令ハ途中所要ノ上官ニ簡單ニ之ヲ告知スベシ。
- (ヘ) 傳令勤務中ノ者ヲ途中ニ於テ滞留セシムルハ特別ノ時機ノミナルヲ以テ此ノ如キトキハ滞留者自ラ責ニ任ジ、該通信紙ノ一端ニ之ヲ證明スベキ署名ヲ爲スベシ。
- (ト) 傳令途中ニ於テ事故ヲ生ジタルトキハ、速ニ最寄ノ部隊ニ交渉スベシ、而シテ各部隊ハ其命令、報告、通報ヲ速ニ送達スル爲傳令ニ對シ爲シ得ル限リ援助ヲ與フルノ義務ヲ有ス。
- (チ) 傳令ハ要スルトキハ受信者ノ宛名ヲ呼ビテ其所在ヲ索ムベシ、而シテ其附近ニ在ル者ハ傳令ニ對シ必要ノ告知ヲ爲スベキ義務アルモノトス。

- (リ) 傳達位置 姿勢及音聲等ハ敵情殊ニ其遠近、受領者ノ行動及晝夜等ニ從ヒテ適當ニ選定シ一定ノ形式ニ陥ラザルコト必要ナリ。
- (ヌ) 傳達後ノ處置 傳令ハ傳達ヲ終リ歸途ニ就クニ方リ要務ナキヤヲ確メタル後出發スベシ、又歸著後ハ直ニ命ゼラレタル上官ニ届告シ口頭ヲ以テ傳達シタルトキハ其事項ノ全部若ハ要旨ヲ復唱スベシ。

6、遞傳哨

- (イ) 用途及種類 情況ニ依リ(例ヘバ距離遠ク通信頻繁ニシテ他ニ適當ナル手段ナキ場合等)傳達ノ爲乘馬、自轉車若ハ徒歩ノ傳令ヲ以テ遞傳哨ヲ設クルヲ利トスルコトアリ。
- (ロ) 人員並相互間ノ距離 遞傳哨ノ人員及相互間ノ距離ハ交通ヲ保タントスル時間ノ長短、豫想スル通信ノ繁閑、交通路及哨所ノ安否等ニ依リテ差異アルモノトス。而シテ其人員ハ哨長(通常下士官)ノ外遞歩(騎)哨ニ在リテハ通常兵三乃至六人、遞自轉車哨ニ在リテハ三人以上トス。又各哨所相互間ノ距離ハ遞歩(騎)哨ニ在リテハ二乃至四軒、(十乃至十五

軒) 遞自轉車哨ニ在リテハ十乃至二十軒ト爲スモノトス。

第四節 搜索

其一 通 則

- 1、搜索ノ目的ハ敵情ヲ明ニスルニ在リ、之ガ爲直接敵ノ位置、兵力、行動及施設ヲ探知スルト共ニ諜報ノ結果ヲ利用シテ之ヲ補綴確定シ、又之ニ依リテ搜索ノ端緒ヲ得ルニ努メザルベカラス。
- 2、搜索ノ實施ニ方リテハ敵ノ欺騙的動作並宣傳等ニ惑ハサレザルコトニ注意スルヲ要ス。
- 3、搜索機關並其特性 搜索ハ航空部隊、騎兵、歩兵及其他ノ兵種之ニ任ズルモノニシテ其特性ノ概要左ノ如シ。
 - (イ) 飛行機 飛行機ハ天候、時刻ノ制限ヲ受ケ且敵ニ欺騙セラレ易キモ迅速ニ遠距離ノ地域ニ進出シ敵線ノ内部ニ亘リ搜索ヲ行フコトヲ得ルノ特性ヲ有ス。
 - (ロ) 氣球 氣球ハ天候ノ障礙及視界ノ制限ヲ受クルモ一定ノ地域ヲ連續監視

シ得ルノミナラズ、地上トノ連絡容易ナルノ利有リ。

(ハ) 騎兵 搜索地域ノ廣大ト迅速ノ度トニ於テハ飛行機ニ劣ルモ、飛行機ノ活動ヲ制限セラル、天候及夜間ニ在リテモ、猶搜索ヲ續行シ地上ヨリ細部ノ事項ヲ確認シ得ルノ利有リ。

(ニ) 歩兵 歩兵ハ時ト處トヲ問ハズ、特ニ敵火ノ下ニ在リテモ猶搜索ヲ續行シ得ルヲ以テ敵ニ近接シタル場合ノ搜索ニ適ス。

(ホ) 砲、工、輜重兵 砲、工、輜重兵ハ特種ノ技術的搜索ノ爲缺クベカラザルモノトス。

以上ノ如ク此等ノ機關ハ各其特性ヲ有スルヲ以テ搜索ノ實施ニアタリテハ指揮官ハ此等各機關ノ適當ナル運用並相互ノ密接ナル協同トニ依リ長短相補ヒ以テ其完全ヲ期スルモノトス。

4、搜索勤務者ノ著裝 搜索部隊及斥候ハ爲シ得レバ之ヲ輕裝セシメ、又屢々携帶彈藥及糧食等ヲ増加セシムルヲ可トスルコトアリ。

5、報告ニ關スル注意

I、時機及分量 搜索ニ任ズル者一事件ヲ觀察シタルトキ、直チニ之ヲ報告スベキヤ或ハ爾後ノ搜索ノ結果ヲ待チテ報告スベキヤ等、報告ノ時機及分量等ハ善ク指揮官ノ意圖ニ投合セザルベカラズ。然レトモ

(イ) 初メテ敵ヲ發見シタルトキ。

(ロ) 有力ナル部隊殊ニ歩兵ト遭遇シタルトキ。

(ハ) 指揮官既知ノ狀況ト相違セシトキ。

(ニ) 狀況ノ激變ヲ認メタルトキ。

(ホ) 某目的又ハ一任務ヲ達成シタルトキ。

等ハ速ニ之レヲ報告スルヲ要ス其他、某地方ニ於テ來タ敵兵ヲ發見セザルコトヲ知ルモ亦指揮官ノ爲ニ往々緊要ナルコトアリ、又爾後ノ搜索ニ依リテ既往ノ情報ヲ確實ニシ、或ハ一定ノ時間中ニ於ケル形勢變化ノ有無ヲ知ルコト等ハ指揮官ノ爲大ニ價値アルモノトス。

II、地形ニ關スル報告 搜索ニ任ズル者ハ特ニ命令ナキト雖地形、交通路、交通機關、通信網、地方物質ノ狀況、住民ノ意嚮、動靜等ニ關シ緊要

ナル事項ヲ偵察シ之ヲ報告スルヲ要ス。

其二 斥候

- 1、斥候ノ任務 斥候ノ任務ハ軍ノ耳目トナリテ活動シ、敵情地形等ヲ探知シ機ヲ失スルコトナク之ヲ指揮官ニ報告スルニ在リ。
- 尙斥候ニハ警戒、掩護、監視等特別ノ目的ヲ以テ派遣セララル。モノアリ。
- 2、斥候ノ數及兵力編組 斥候ノ數及兵力編組ハ任務、敵情、地形、之ヲ派遣スル部隊ノ大小、搜索偵察ノ爲メ使用シ得ベキ時間ノ多少、報告送致ノ方法及住民ノ動靜等ニ依リ之ヲ定ムルモノトス。
- 3、斥候ノ選定 斥候ノ成果ハ如何ナル場合ニ在リテモ人馬特ニ其長ノ選定如何ニ依リ期シ得ルモノトス、故ニ其ノ選定ニハ常ニ意ヲ用ヒ特ニ緊急ナル任務ノ爲ニハ將校ヲ長トスル斥候ヲ用ユベキモノトス。
- 4、斥候勤務者ノ性能 斥候ニ當ル者ハ慧敏、熱心、沈著、剛膽ナラザルベカラズ、蓋シ慧敏ナル者ハ未知ノ地ニ於テ能ク其地形、方位及道路ヲ知り熱心從事スル者ハ久シキニ耐ヘ勞ヲ覺エズ、沈著、剛膽ナル者ハ不意ノ事ニ驚カ

ズ危險ニ際スルモ猶能ク脱逸ノ方法ヲ求メ得ルモノナレバナリ。

- 5、斥候ノ搜索手段 斥候搜索ノ爲ノ手段左ノ如シ。

(イ) 斥候ハ搜索ノ爲視察ヲ以テ主要ナル手段トス、然レトモ敵ノ斥候若ハ小部隊等ニ對シテハ任務情況ノ許ス限リ攻勢的ニ動作スルヲ要ス。

(ロ) 住民ノ言ヲ聽キ又新聞紙、信書、電信(原書現字紙)及郵便局、通信所官公署等ニ在ル書類ヲ奪取シ其他諸種ノ徵候等ヲ判斷スルトキハ重要ナル事件ヲ探知シ得ルモノトス、故ニ斥候ハ此ノ如キ材料ヲ蒐集スルコトニ努ムベシ。

(ハ) 俘虜、投降者及遺留シタル傷病者ノ言、並其携帶セル圖書、戰死者ノ携帶圖書或ハ敵ノ遺留シタル圖書ハ情況判斷ノ爲特ニ重要ナル材料ト爲ルヲ以テ此等ノモノニ對シテモ斥候ハ常ニ著意スルヲ要ス。

- 6、斥候ニ與フル任務 斥候ニハ其任務ヲ明瞭ニ與フルヲ要ス、而シテ其實施法ニ就テハ之ヲ羈束セザルヲ常トスルモ斥候長以下ノ能力ニ應ジ適當ナル指示ヲ與フルヲ要スルコトアリ。

- 同一斥候ヲシテ各種ノ任務ヲ同時ニ負擔セシムレバ任務ノ過重ヲ來スヲ以テ適當ナラズ。
- 又斥候ヲ派遣スルニ方リテハ之ガ任務達成ニ必要ナル時間ヲ得シムルコト緊要ナリ。
- 7、**任務ノ復唱** 斥候長命令ヲ受クルヤ其ノ任務ヲ復唱シ一般ノ情況ト自己ノ任務トヲ充分了解シアルヲ緊要トス。
 - 8、**搜索計畫** 斥候長ハ任務ヲ受クルヤ速ニ搜索ノ順序方法ヲ定メ常ニ情況ニ適應スル如ク動作スルコト必要ナリ。
 - 9、**部下ニ對スル任務及考案ノ示達** 斥候ハ元來全員一身、同體一團ト爲リテ、任務ノ遂行ニ努力スベキモノナルヲ以テ斥候長ハ部下ニ對シ其任務及之ガ達成ニ關スル考案等ヲ充分ニ了解徹底セシメ、要スレバ斥候兵各自ノ任務ヲモ分課スルヲ必要トス。
 - 10、**斥候、行動ノ概要**
- (イ) 斥候ハ情況ノ許ス限り道路ニ依リテ行動シ一ノ展望地點ヨリ他ノ展望地點ニ逐次躍進シ其目的ヲ達スルコトヲ努ムベシ。

- (ロ) 斥候ハ時宜ニ依リ長時間絶エズ敵ノ運動ニ從ヒ之ト接觸シテ其情況ヲ報告スルヲ可トスルコトアリ。
- (ハ) 情況ニ依リ斥候長ハ其部下ノ大部ヲ認知シ易キ地點ニ駐止セシメ單身或ハ兵若干ヲ伴ヒ更ニ挺進スルヲ必要トスルコトアリ。
- (ニ) 豫メ簡單ナル記號ヲ定メ置クトキハ斥候相互間並ニ後方ニ報告スル爲往々最良ナル通信法タルコトアルヲ以テ出發前之ヲ規定シ置クヲ可トス。
- (ホ) 休憩ニ際シテハ適當ノ潜伏所ヲ索メ敵ニ發見セラル、コトナク又敵情監視ヲ中絶セザル如ク注意スベシ。
- (ヘ) 敵意ヲ有スル地方ニ於テハ大ナル住民地ヲ再ビ通過セズ、又村落及圍墻内ニ長ク位置スベカラズ又夜間ニ在リテハ其位置ヲ變換シ却テ安全ヲ期シ得ルコトアリ。
- (ト) 斥候ハ通過スベキ各種地形(平坦開闢地、蔭蔽地、隘路、高地等)ニ應ジ適當ナル隊形ヲ選定シ且敵ト不意ニ衝突スルモ機先ヲ制シ果敢ナル行動

ニ依リ積極的ニ任務ヲ遂行スルコトヲ務ムベシ。
11、斥候ノ報告ノ一例左ノ如シ。

發	九月十八日午後五時三十分	發地	於蘇家屯東端
着	月 日 午 時 分	發者	井杉斥候長
受信者	山田中隊長殿	報告者	井杉斥候長

(第一號) 報告

一、午後五時二十分敵ノ騎兵約二十、老山——克山道上營口橋ヲ通過西進中ナルヲ目撃ス

二、新民府ヨリ歸來セル土民ノ言ニ依レバ砲ヲ有スル敵ノ徒歩兵約一千、本十八日午後四時頃奉天ニ侵入休憩中ナリト

三、蘇家屯附近一帶ノ水田ハ乾田ニシテ諸兵ノ通過容易ナリ

四、斥候ハ柳條溝方向ニ迂回シ奉天附近ノ敵情ヲ偵察セントス

(規定ノ通信紙ヲ使用セザル場合ノ一例)

井杉曹長

中村大尉殿

(第一號)

報告 九月十八日午後五時三十分
於蘇家屯東端

- 一、午後五時二十分敵ノ騎兵約二十、老山——克山道上營口橋ヲ通過西進中ナルヲ目撃ス
- 二、新民府ヨリ歸來セル土民ノ言ニ依レバ砲數門ヲ有スル敵ノ徒歩兵約一千本十八日午後四時頃奉天ニ侵入休憩中ナリト
- 三、蘇家屯附近一帶ノ水田ハ乾田ニシテ諸兵ノ通過容易ナリ
- 四、斥候ハ柳條溝方面ニ迂回シ奉天附近ノ敵情ヲ偵察セントス

陣中勤務

第五節 警戒

其一通 則

- 1、警戒ノ目的 警戒ノ目的ハ不意ノ敵襲ヲ豫防シ且敵ノ搜索ヲ妨グルニ在リ。
- 2、警戒ト搜索トノ關係 搜索ノ周密ナルハ警戒ノ主要條件ナリ、故ニ警戒隊ハ絶エズ其所在地附近ヲ搜索スルハ勿論所要ニ應ジ尙遠キニ互リ搜索ヲ行フヲ要ス。
- 3、警戒勤務上特ニ注意スベキ件左ノ如シ
 - (イ) 凡テ警戒隊ノ常ニ服膺スベキ要件ハ敵方ニ近キ小ナル部隊ハ一層戰備ヲ嚴ニシ以テ逐次大ナル部隊ノ警戒ヲ擔任スルニ在リ。
 - (ロ) 凡テ警戒隊ハ其主力トノ連絡ヲ失ハザルコトニ注意スルト共ニ隣接部隊トノ連絡ニ努ムベシ、又前方ニ騎兵部隊等ノ存在スルトキハ爲シ得レバ之ト連絡ヲ保持スベキモノトス。
 - (ハ) 警戒ハ獨リ警戒隊ノ活動ニノミ依ルベキニアラズシテ、爾余ノ部隊ノ警戒ニモ依ルベキモノナルヲ以テ警戒隊以外ノ諸隊モ亦情況ニ應ジ直接ノ警戒ヲ怠ルベカラズ。

其二 行軍間ノ警戒

- 一、要領
 - 1、警戒隊ノ種類及任務 行軍間ニ於ケル警戒ハ前衛、側衛又ハ後衛ヲ以テス而シテ其任務ハ敵ニ對シ本隊ニ行動ノ自由ヲ得シメ、又其行進ヲシテ滯滞ナカラシムルニ在リ。
 - 2、警戒隊行動ノ基準及連絡 戰備行軍ニ在リテハ小ナル部隊ハ常ニ大ナル部隊ノ進退ニ從ヒ其行動ヲ律ス。各隊ハ其前方ニ行進スル部隊ニ對シテ連絡ヲ取ルテ原則トス、然レトモ連絡ノ維持困難ナルニ際シテハ前方ニ行進スル部隊モ亦種々ノ方法ヲ以テ後續スル部隊ニ連絡ヲ圖ラザルベカラズ、夜間、濃霧若クハ蔭蔽地ニ於テ特ニ然リ

トス、各部間ノ連絡ヲ保持スル爲連絡兵ヲ配置ス要スレバ連絡長ヲ定メ連絡ノ確實ヲ期スルヲ要ス。

側衛及尖兵ニ在リテハ其出サレタル部隊ニ向ヒ連絡スルモノトス

二、前衛

1、前衛行動ノ準據 前進行ニ於ケル前衛ノ行動ハ概ネ左ニ準據スルモノトス。

(イ) 行進路上ニ在ル障碍ヲ除去ス之ガ爲敵ノ小部隊ノ如キハ之ヲ擊破シテ前進ス。

(ロ) 敵ト近接スルニ至レバ其行動、兵力若ハ陣地等ヲ偵察シ且我が本隊ノ開進及展開ヲ掩護ス。

(ハ) 敵ヲ追撃スルニ方リテハ速ニ之ニ追及シ其ノ主力ヲシテ抗戦スルノ已ムヲ得ザルニ至ラシム。

2、前衛ノ兵力及編組 前衛ノ兵力及編組ハ我軍ノ目的、縦隊ノ大小、敵情、地形及明暗ノ度等ニ依リ差異アルモ其ノ歩兵ノ兵力ハ通常全歩兵ノ三分ノ一

以內トシ通常所要ノ騎兵、砲兵及工兵ヲ配屬シ、又所要ノ通信隊、衛生隊、架橋材料中隊、装甲自動車等ヲ配屬スルヲ可トスルコトアリ。

3、前衛ノ部署

(イ) 要旨 前衛ハ通常前衛本隊及前兵ニ區分ス。

前衛ニ騎兵ノ主力ヲ附セラレタルトキハ之ヲ前衛騎兵ト爲シ更ニ前方ニ派遣スルモノトス。

前兵ハ通常其警戒ヲシテ益々確實ナラシムル爲尖兵中隊ヲ又 尖兵中隊ハ尖兵ヲ出シテ警戒スルモノトス。

情況ニ依リ適宜前項ニ示ス區分ヲ省略シ又ハ本隊ヨリ直ニ尖兵中隊若ハ尖兵ノミヲ出スコトアリ。

歩兵一中隊ヲ基幹トスルモノヲ常ニ尖兵中隊ト稱ス。

(ロ) 前衛本隊 前衛本隊ハ通常歩兵ノ大部、野(山)砲兵及工兵ヨリ成ル。

(ハ) 前兵 前兵ハ通常前衛歩兵ノ三分ノ一以內及必要ノ騎兵ヲ以テ編組シ要スレバ、之ニ歩兵砲及工兵ヲ配屬ス時トシテ挺進シ來ル敵ノ装甲自動車又

ハ戰車ニ對スル等ノ爲若干門ノ砲兵ヲ附スルヲ有利トスルコトアリ。

(ニ) 前衛本隊ト前兵トノ距離 敵トノ衝突ニ方リ前兵ハ前衛本隊ヲシテ整然タル展開ヲ爲ス時間ヲ得シメザルベカラズ、從テ兩者間ノ距離ハ此趣旨ニ基キ決定セラルベキモノニシテ師團ニアリテハ概ネ七百乃至千二百米トス。

4、步兵尖兵 (ホ) 前兵ト尖兵中隊トノ距離、概ネ三百乃至四百米トス。

(イ) 任務 警戒ヲ益々確實ナラシムル目的ヲ以テ尖兵中隊ノ前方ヲ前進シ主トシテ行進路上ノ搜索ニ任ズルモノトス。

(ロ) 兵力 一分隊以上(要スレバ輕機關銃分隊ヲ加フ)ノ兵ヲ將校ノ指揮ニ屬ス。

(ハ) 動作 尖兵長ハ前方ニ發生スル事故ヲ速ニ判別スル爲尖兵主力ノ前方ニ在リテ行進スルモノニシテ尖兵中隊トノ連絡ノ爲ニハ通常連絡兵ヲ配置スルモノトス。

(ニ) 距離 尖兵中隊ト尖兵トノ距離ハ情況ニ依ルモ概ネ三百乃至四百米突トス。

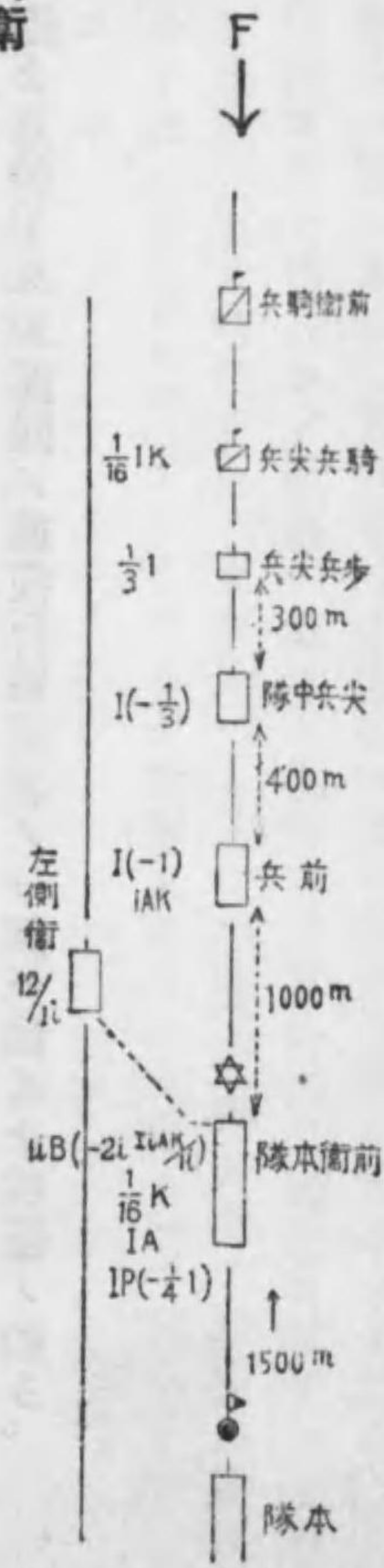
5、前衛騎兵ノ行動

前衛騎兵ハ前方ニ在リテ主トシテ前衛ノ爲近距離搜索ニ任ジ特ニ背後ニ在ル步兵トノ連絡ヲ失ハザル如ク行進ヲ規定スルモノトス。

6、騎兵尖兵 騎兵尖兵ハ長及少數ノ騎兵ヨリ成リ步兵尖兵ノ前方縱隊ノ最先頭ヲ行進シ主トシテ進路上ノ搜索ニ任ジ常ニ背後ニ在ル部隊ト連絡ヲ保持スルモノトス。

7、師團ヲ基幹トスル部隊ノ前衛行軍部署ノ一例。第五十四圖ノ如シ。

圖四十五第

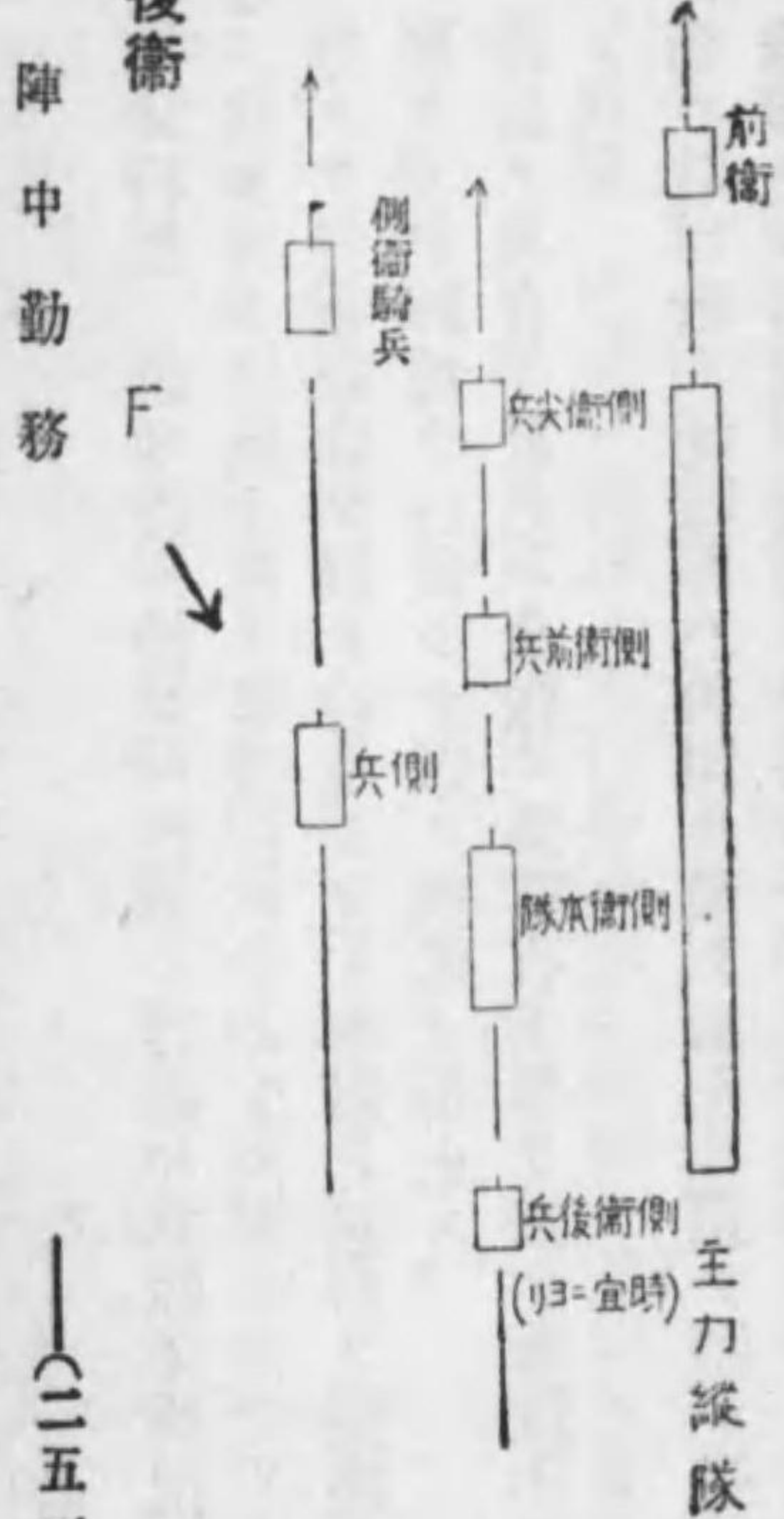


三、側衛

1、側敵行ニ於ケル側衛ノ行動 概ネ左ニ準據スルモノトス。
 (イ) 主力縦隊ト並進シ其側敵行動ヲ掩護ス。(並進掩護)
 (ロ) 要スレバ主力縦隊行進路ノ側方ニ陣地ヲ占領シテ其通過ヲ安全ナラシム。(駐止掩護)
 (ハ) 非常ノ場合ニ於テハ敵ヲ攻撃シテ之ヲ抑留シ敵ヲシテ我が主力縦隊ニ近迫スル能ハザラシム。(邀撃掩護)
 側衛ハ如何ナル場合ニ在リテモ主力縦隊ヲシテ戦闘ヲ避ケシムルコト必要ナリ。

2、側衛ノ兵力編組 側衛ノ兵力編組ハ主トシテ危険ノ大小ト地形トニ應ジ之ヲ定ム、而シテ搜索及連絡ノ爲特ニ騎兵ヲ配屬スルヲ要ス、又自動車、無線電信等ヲ附スルヲ可トスルコトアリ。
 3、側衛ノ部署及警戒法 其時ノ形勢ニ從ヒテ異ナルベキモ主力縦隊ト並進スル場合ニ在リテハ通常側衛前兵、側兵等ヲ以テ正面及側面ヲ警戒シ時宜ニ依リ側衛後兵ヲ以テ背後ヲモ警戒スルモノトス。
 4、側衛部署ノ一例。第五十五圖ノ如シ。

圖五十五第

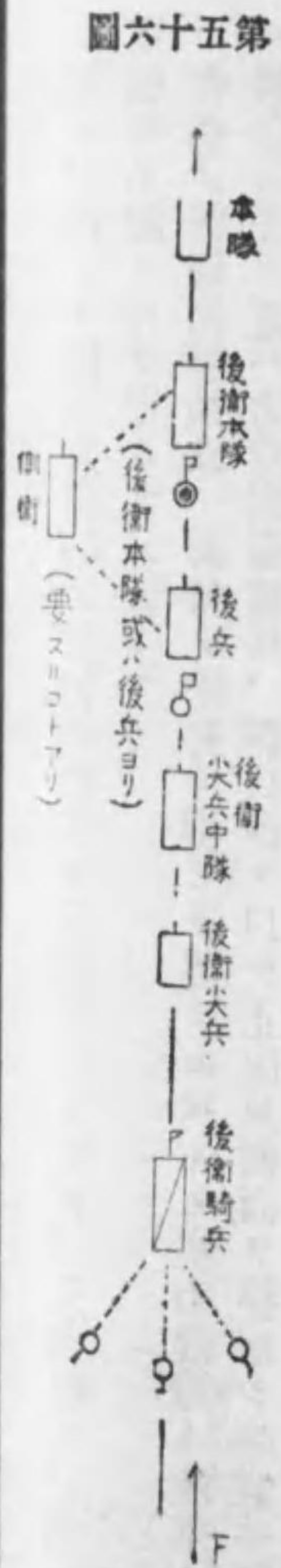


四、後衛

- 1、後衛ノ行動 退却行ニ於ケル後衛ノ行動ハ本隊ノ情況、敵ノ遠近及其動作ニ應ジ異ナルト雖概ネ左ニ準據スルモノトス。
 (イ) 勉メテ行軍縱隊ヲ以テ行進シツ、本隊ノ退却ヲ掩護ス。
 (ロ) 要スレバ陣地ヲ占領シテ敵ノ前進ヲ拒止ス。
 (ハ) 非常ノ場合ニ於テハ全隊ノ爲犠牲ト爲リ以テ本隊ノ退却ヲ容易ナラシム。

尙後衛ハ常ニ敵ノ迂回若ハ包圍ヲ受ケ易キヲ以テ特ニ搜索ヲ周密ニシ近接シテ退却スル部隊ノ後衛ト連絡スルコト緊要ナリ。

- 2、後衛部署ノ一例 第五十六圖ノ如シ。



其三 駐車間ノ警戒(第五十七、第五十八圖參照)

一、前哨一般ノ要領

- 1、前哨ノ任務 駐車間ニ於ケル警戒ハ通常前哨ヲ以テス、其ノ任務ハ敵情ヲ搜索シ敵ノ奇襲ニ對シテ休止ノ軍隊ヲ掩護シ且ツ之ニ戦闘準備若ハ出發準備ヲ整フルノ時間ヲ與ヘ又我軍ノ情況ヲ掩蔽スルニ在リ。

2、前哨ノ任務達成ノ手段

- (イ) 前哨ノ任務ヲ盡ス爲取ルベキ手段ハ狀況特ニ敵ノ遠近ニ應ジ異ナルモノニシテ百般ノ時機ニ常ニ適用シ得ベキ法則ヲ一定シ難シ、故ニ前哨ノ部署、隸屬ノ關係、勤務ノ方法等ハ總テ其時ノ景況ニ從ヒテ之ヲ定メ、一定ノ模型ニ陥ラザルヲ要ス。而シテ其警戒ハ敵ニ近ヅクニ從ヒ益々之ヲ嚴ニスルヲ緊要トス。
- (ロ) 前哨ハ其任務ヲ達成スル爲常ニ搜索ヲ周密ニシ情況ヲ明ニスルヲ要ス。而シテ敵ニ近ヅクニ至レバ夜間ト雖之ト接觸ヲ失ハザルコト肝要ナリ。
- (ハ) 前哨ハ常ニ戦備ヲ整ヘ敵襲ニ際シテハ全力ヲ竭シテ抗戰セザルベカラズ

故ニ前哨各部隊及哨兵ハ情況ニ應ジ所要ノ工事即チ道路、橋梁、隘路等ノ阻絶、障碍物ノ設置、散兵壕ノ構築、交通通信連絡ノ設備ヲ爲スコト必要ナリ、其他瓦斯攻撃ヲ受クル顧慮アル場合ニハ所要ノ準備ヲ爲シ置クヲ要ス。

前哨各部隊及哨兵ノ位置並其ノ行動ハ敵方及上空ニ對シ遮蔽スルヲ必要トス、之ガ爲要スレバ偽裝ヲ行フ。

(ニ) 前哨勤務ニ服スル部隊ハ妄リニ戦闘ヲ求ムベカラズ、是レ無益ノ小戦ハ全隊ノ安靜ヲ妨害シ且時トシテ遂ニ前哨ノ抗拒シ得ザル大戦ヲ惹起スルニ至ル虞アルヲ以テナリ。

3、前哨ノ兵力編組並其配置

前哨ノ兵力及編組並ニ其配置ハ危險ノ大小、我軍ノ兵力、地形ノ難易及明暗ノ度等ニ應ジテ定ムベキモノニシテ我軍直後ノ企圖及豫想スル警戒時間ノ長短モ亦之ニ影響スルモノトス。

前哨ハ通常歩兵ヲ以テ之ニ任ジ所要ノ騎兵ヲ配屬スルヲ以テ足レリトスルモ

要スレバ之ニ砲兵、工兵、通信部隊、野戰照明隊等ヲ配屬ス、又傳令勤務ノ爲自動二輪車又ハ自轉車等ヲ附スルヲ可トス。

4、前哨ノ區分

一前哨區ニ用フル歩兵ノ兵力ハ通常一大隊若ハ其以下トス、而シテ前哨ハ通常前哨本隊及前哨中隊ニ區分シ前哨中隊ハ小哨ヲ小哨ハ歩哨ヲ出シテ警戒ス。

情況ニ依リ前哨本隊或ハ更ニ其後方部隊ヨリ直ニ其前方及側方ニ小哨ヲ配置スルコトアリ。

二、前哨本隊及前哨中隊

1、前哨本隊ノ任務及位置、前哨本隊ハ前哨ノ豫備ニシテ敵襲ニ際シ前哨中隊ヲ増援シ、要スレバ之ヲ收容ス。之ガ爲通常主要ナル道路ノ近傍ニシテ交通便利ナル地點ニ位置スルモノトス、而シテ其長ヲ前哨司令官ト謂フ。

2、前哨司令官ノ位置 前哨司令官ハ通常前哨本隊ノ位置ニ在ルモノトス、若其位置ヲ離ル、ヲ要スル時ハ上級先任ノ將校ヲシテ其職務ヲ執ラシムベシ此規定ハ前哨中隊長及小哨長ニモ亦適用ス。

3、前哨中隊ノ任務及稱呼 前哨中隊ハ主要ナル抵抗線ヲ形成スルモノニシテ敵襲ニ際シ之ヲ拒止スルヲ任トス。故ニ別命ナケレバ極力其位置ヲ保持スベキモノトス。

前哨中隊ハ特別ノ番號ヲ附スルコトナク各々其中隊ノ番號(前哨第何中隊)ヲ呼稱スルモノトス。

4、前哨中隊ノ配備並警戒法

(イ) 前哨中隊ノ數及配備ハ敵情、地形殊ニ道路網ノ形狀ニ從フモノニシテ時トシテ之ニ機關銃、歩兵砲、砲兵等ヲ配屬スルコトアリ。

(ロ) 前哨中隊ハ小哨ニ依リテ警戒スル外時々必要ナル方面ニ斥候、巡察ヲ派遣シテ警戒スルモノトス。

(ハ) 前哨中隊ヨリ出スベキ小哨ノ兵力、箇數ハ勉メテ之ヲ小ナラシメ以テ中隊ニ於ケル抵抗力ヲ大ナラシメザルベカラズ。

5、前哨中隊ノ戰備

前哨中隊ニ在ル者ハ中隊長ノ定ムル戰備ノ度(即チ中隊及小哨ヲ掩蔽下ニ入

ラシムベキカ、天幕ヲ使用スベキカ、下士官及兵ノ一部ハ銃ヲ手ニシ在ルベキカ、假眠ヲ許スベキ範圍、服裝、炊事、焚火、瓦斯防禦等)ニ關スル命令ニ從ヒテ行動スルモノニシテ通常背囊ヲ卸スモ其一部ハ又銃線ノ側ニ在リテ必ス戰備ヲ整ヘアルモノトス。

而シテ一人ト雖任務ノ爲カ或ハ許可ヲ得ルニアラザレバ中隊ノ位置ヲ離ルベカラズ、又之ニ屬スル騎兵ハ鞍ヲ卸スヲ許サズ、然レドモ交互ニ鞍ヲ改装シ水與及飼付ヲ爲サシムルヲ要ス。

前哨中隊ニ於テ飯盒炊事ヲ爲スノ止ムヲ得ザルトキハ火焰ヲ上空及敵方ニ暴露セザル如ク細心ノ注意ヲ爲スヲ要ス。

三、小哨 (小哨命令並小哨長報告ノ一例參照)

1、要旨

(イ) 任務 小哨ハ歩哨ノ支援及後據タルモノニシテ前哨中隊(若ハ前哨本隊)ノ前方(或ハ側方)ニ在ル要點ニ位置シ警戒ノ爲ニ必要ナル搜索ニ任ジ、敵襲ニ際シ前哨中隊(若ハ前哨本隊)ヲシテ戰備ヲ整フルノ時間ヲ得シム

ルモノトス。

(ロ) 名稱(番號) 前哨中隊ヨリ出サレタル小哨ハ同中隊内ニ於テ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ付スルモノトス。

前哨中隊以外ヨリ出サレタ小哨ハ適宜當該指揮官ヨリ命名セラル、モノトス。(小哨長ノ姓、地名ヲ冠スルコト多シ)

(ハ) 兵力編組 小哨ハ重要ノ度ニ應ジ將校及下士官ヲ以テ長ト爲シ、小隊以下ノ兵力ヲ用フ、而シテ之ニ輕機關銃ヲ附スベキヤ否ハ一ニ小哨ニ期待スベキ抵抗ノ度ニ依ルモノニシテ特ニ重要ナルニアラザレバ勉メテ之ヲ避クルヲ要ス、然レドモ情況之ヲ要スレバ機關銃、歩兵砲等ヲモ配屬スルコトアリ。

(ニ) 小哨ノ配備 小哨ノ配備ハ敵情、地形、天候、時刻等ニ依リ差異アルベキハ勿論ナルモ、歩哨ノ配置宜シキヲ得バ小哨ノ兵力ヲ減セズシテ能ク警戒ヲ嚴ニスルコトヲ得ルモノトス、而シテ配備ノ要領左ノ如シ。

(a) 晝間ニ於テハ單ニ展望良好ナル地點ニ展望哨ヲ出シテ監視セシメ、主カハ抗戰ニ便ナル一地點ニ集結シテ警戒スルヲ以テ足レリトスルコトアリ。

(b) 情況緩ナル警戒ヲ以テ足レリトスル場合ニ於テハ必ズシモ一連ノ歩哨線ヲ形成セシムルヲ要セズ、主トシテ敵方ニ通ズル道路並ニ重要ナル地點ニ歩哨ヲ配置スベシ、而シテ其間ノ空隙ハ所要ニ從ヒ斥候巡察ヲ派遣シテ之ヲ警戒セシムベシ。

(c) 情況嚴ナル警戒ヲ要スル場合ニ於テハ歩哨ハ互ニ近ク相接シテ配置シ以テ一人モ歩哨ノ眼ヲ逃レ或ハ其射撃ヲ受クルコトナク歩哨線ヲ通過スルヲ得ザラシムベシ、之ガ爲夜間又ハ濃霧等ノ際ハ更ニ近ク歩哨ヲ相接セシムルヲ要スルコトアリ。

(d) 歩哨ノ配置終レバ小哨ハ銃ヲ銃架ニ托シ若ハ又銃シ所要ノ銃前哨ヲ備ヘ以テ小哨直接ノ警戒ニ任ゼシムルモノトス。

2、小哨長ノ動作

(イ) 歩哨配置ノ要領 小哨長ハ任務ヲ受クルヤ地圖ニ依リ或ハ現地ヲ偵察ス

ル等情況ニ應ジ速ニ小哨ノ配備ヲ決定スルモノニシテ其歩哨配置ノ要領左ノ如シ。

(a) 歩哨配置間ノ警戒 小哨長ハ歩哨配置ノ間前方ニ斥候ヲ派遣シテ警戒ス。

(b) 一般ノ場合 歩哨ノ配置法ハ通常一哨所ニ屬スル兵(交代兵共)ヲ歩哨掛又ハ下士哨長タル下士官或ハ上等兵ニ引卒セシメ小哨ノ位置ヨリ各々速ニ豫メ指示シタル地點ニ到ラシメ小哨長ハ逐次各哨所ノ位置ニ到リ歩哨掛又ハ下士哨長ニ守則ヲ授ケ且兵ニモ聽聞セシム。

(c) 特別ノ場合 地形、天候、時刻等ノ爲歩哨ヲ配置スベキ位置ノ指示困難ナルトキ又ハ歩哨ノ數及其位置ヲ初メヨリ概定スル能ハザルトキハ小哨長ハ豫想セル配置人員ヲ率キ必要ナル方面ヨリ逐次ニ之ヲ配置スルモノトス。

(ロ) 小哨長ノ責務及歩哨配置後ノ處置

(a) 責務 小哨長ハ敵襲ニ際シテ常ニ必ズ小哨ノ戰備ヲ缺カザルコトニ就

(c) 處置 テハ絕對ノ責任ヲ有スルモノトス。

I 小哨長ハ歩哨ニ充テザル者ヨリ若干ノ斥候及巡察ヲ區分シ、尙殘餘ノ者ヲ以テ其他ノ勤務ニ充ツルモノトス、而シテ歩哨ノ交代兵中同時ニ交代スベキ者及各斥候、巡察毎ニ又銃シ又同一步哨毎ニ銃ヲ銃架ニ托シ置カシムベシ。

II 小哨長ハ下士官及兵ノ休憩ノ比例ヲ平等ナラシムルコトニ注意シ、又中隊長ノ定ムルトコロニ依リ其一部ヲ假眠セシム。

III 小哨長ハ成ル可ク速ニ要圖ヲ以テ其配置(晝夜ニ依ル配置ヲ異ニスルモノハ之ヲ區別ス)ヲ中隊長ニ報告シ且隣接セル小哨ト連絡スベシ。

IV 小哨長ハ晝間屢々警戒區域ヲ巡視シテ地形ヲ認識スルヲ要スルモ夜間ハ其小哨ノ位置ニ在ルヲ要ス、而シテ其位置ヲ離ル、際ニハ常ニ自己ノ所在ヲ明カナラシメ置クヲ要ス。

陣中勤務

—(二六二)—

V 小哨長ハ小哨ニアル下士官以下ニモ亦機會アル毎ニ警戒區域内ノ地形ヲ認識セシメ置クヲ要ス。

VI 小哨長ハ歩哨ヨリ報告シ來タル者ニシテ我軍ニ屬スルコト判然疑ヒナシト認定スレバ歩哨線ノ通過ヲ許ス、然ラザル者ハ所要ノ護衛兵ヲ附シ直ニ之ヲ前哨中隊ニ送付スベシ我軍ニ屬スル間諜モ亦然リ、而シテ護衛兵ハ決シテ之等ノ者ト談話スベカラズ。

歩哨ヨリ軍使來リシコトヲ報告セシトキハ小哨長ハ之ヲ前哨中隊長ニ報告スベシ。

3、小哨ノ戦備

小哨ニ在ル下士官及兵ハ小哨長ノ命令ニ依リ背囊ヲ卸スコトヲ得、然レトモ常ニ銃劍(彈藥盒共) 雜囊及水筒ハ身體ニ纏フベシ。

任務ノ爲カ或ハ許可ヲ得ルニアラザレバ一人ト雖小哨ヲ離ル、ヲ許サズ。

四、歩哨
1、要旨

(イ) 歩哨ノ任務及種類

歩哨ハ前哨ノ最前線ニ位置シテ監視線(歩哨線)ヲ形成シ警戒ヲ擔任スルモノニシテ之ヲ分チテ下士哨及複哨トス。

(ロ) 歩哨ノ名稱(番號) 歩哨ハ各小哨毎ニ複哨ト下士哨トヲ通ジテ右翼ヨリ順序ニ番號(第一複哨、第二下士哨等)ヲ附スルモノトス。

(ハ) 歩哨ノ裝備

(a) 歩哨中特ニ重要ナルモノニハ輕機關銃ヲ配備シ手榴彈又ハ擲彈筒ヲ携行セシムルコトアリ。

(b) 歩哨ハ時宜ニ依リ小哨長ノ命ニ依リ背囊ヲ小哨ノ位置ニ殘置スルコトアリ。

(ニ) 歩哨ノ位置及設備 歩哨ノ位置ハ小哨長ノ規定ニ依ルモノニシテ之ニ具備シ且顧慮スベキ要件左ノ如シ。

(a) 成ルベク十分ナル展望ヲ有シ且上空及敵方ニ對シ遮蔽シアルヲ要ス、之ガ爲要スレバ偽裝ヲ爲ス又樹木、家屋、堆土等ヲ利用シ望遠鏡ニ依リ

陣中勤務

—(二六三)—

陣中勤務

—(二六四)—

監視ニ任ゼシムルヲ可トスルコト屢々アリ、又特ニ步哨ノ爲工事ヲ施スヲ要スルコトアリ。

(b) 凡テ高所ニ在ル步哨ハ響音ヲ聽キ火光、烟氣ヲ視ルニ便ニシテ夜間低地ニ在ル者ハ敵ヲ空際ニ透視シ得ルノ利アリ。

(c) 晝夜其位置ヲ變更スルコトハ監視ノ爲往々必要ナルノミナラズ、之ニ依リテ敵ノ夜間ニ於ケル奇襲ヲ避ケ得ルノ利アリ。

2、下士哨

(1) 位置及人員

(a) 位置 步哨線中特ニ重要ナルカ或ハ交代不便ナル地點ニハ下士哨ヲ配置ス。

(b) 人員 其人員ハ重要ノ度ニ依リ哨長以下四人乃至七人トシ時宜ニ依リ更ニ之ヲ大ナラシムルコトアリ。

(ロ) 服務 下士哨ハ哨長以下哨所ニ位置シ警戒ニ任ズルモノニシテ通常一部ヲ以テ監視ニ任ゼシメ爾餘ハ直接其近傍ニ位置シ勉メテ遮蔽シアルモノトス。

下士哨ニアル交代兵ハ常ニ銃ヲ手ニシアルヲ要ス。

3、複哨

(1) 位置及人員

(a) 位置 步哨線中下士哨ヲ置クヲ要セザル地點ニハ複哨ヲ配置ス、其位置ハ小哨ヲ距ルコト約四百米ヲ超ヘシメザルヲ通常トス。

(b) 人員 其人員ハ情況ニ依リ一哨所ニ二人乃至四人ヲ立哨セシムルモノトス。口服務 立哨中ノモノハ小哨長ヨリ定メラレタル地點ニ位置シ警戒ニ任ジ、其他ノ交代兵ハ步哨掛ノ指揮ニ依リ小哨ノ位置ニ於テ休憩シアルモノトス。

4、步哨ノ交代

(1) 步哨ノ交代要領

(a) 步哨ノ交代法ハ小哨長之ヲ定ムルモノトス。

(b) 複哨ノ交代ハ必ず步哨掛ノ立會ヲ以テ行ヒ新舊兩哨敵方ニ面シ監視ヲ中絶スルコトナク又敵ニ暴露セザル如ク位置シ舊複哨ハ其服務中見聞セ

陣中勤務

—(二六五)—

シ事件ヲ傳告スベシ、而シテ特ニ我軍ノ斥候ニシテ前方ニ出サレタルモノアルトキハ其任務、經路及歸來ノ時刻、場所等ノ概要ヲ傳告スルヲ要ス。

(ハ) (ロ)

下士哨ニ於ケル監視兵ノ交代モ亦前項ニ準ズ。
歩哨ハ敵襲ノ爲後退セザルベカラザルトキト雖、機ニ先ンジテ其位置ヲ捨ツルコトナク沈著シテ進止シ敵ト接觸シツ、小哨ノ位置ニ後退スベシ。

此際小哨ノ位置ヲ敵ニ知ラシメザルコト及小哨ノ射撃ヲ妨害セザルコトニ注意スベシ。

5、歩哨ノ守則

(イ) 歩哨ノ守則ノ種別

歩哨ノ守則ニハ一般守則ト特別守則トノ二種アリ、一般守則トハ複哨タルト下士哨タルト展望哨タルトヲ問ハズ歩哨線ニ在ル哨兵一般ニ通ズル守則ヲ謂ヒ特別守則トハ哨所毎ニ小哨長ヨリ授ケラル、其哨所特有ノ守則ヲ謂フ。

(ロ) 一般守則 歩哨線ニ在ル歩哨一般ノ守則左ノ如シ。

(a) 歩哨ハ絶エズ敵方ヲ監察シ凡テ疑ハシキ徵候ニ深ク注意シ、若敵ニ關シ發見セシコトアレバ其一人ハ小哨長ニ報告スベシ、若猶豫セバ危殆ニ陥ルト認メシトキハ急劇ナル射撃或ハ信號ヲ以テ警報シ且其一人ハ速ニ小哨ニ報告スベシ、而シテ敵ノ單獨兵又ハ數人ヨリ成ル斥候ノ如キハ之ヲ殺スカ又ハ捕獲スルヲ可トス又特ニ命ゼラル、場合ノ外對空監視ヲ爲サザルモノトス。

(b) 晝間ハ我軍ノ將校、部隊、斥候、巡察及傳令ニハ歩哨線ノ出入ヲ許ス爾餘ノ者ノ通過ニ關シテハ凡テ小哨長ノ指示ヲ受クベシ、而シテ歩哨ノ命ズルトコロニ從ハザル者アラバ之ヲ殺スカ又ハ捕獲スベシ。

自動車ハ之ヲ停止セシメテ取調フベシ。
夜間歩哨ニ近ヅクモノアラバ銃ヲ構ヘ「誰カ」ト問フ、呼ブコト三回ニ至ルモ尙答ヘザルトキハ直ニ殺スベシ、凡テ其他ノ處置ハ晝間ノモノニ異ルコトナシ。

(c) 白旗ヲ翻ヘシ遠方ヨリ軍使タルコトヲ標シ來ル者又ハ降參人ハ敵トシ

テ取扱ハズ、之ヲ步哨線外ニ於テ敵方ニ面シ停止セシメ小哨長ニ報告スベシ、此際無用ノ談話ヲ避ケ又敵ニ欺カレザルコトニ注意スベシ、若降參人ニシテ武器ヲ携帶シアルトキハ先ヅ之ヲ放棄セシムベシ。

(d) 步哨ハ喫煙シ或ハ銃ヲ手ヨリ放スヲ許サズ。又命令アルニアラザレバ座臥スルヲ得ズ、而シテ晝間立銃ヲ爲スカ若ハ腕ニ銃(銃口ヲ前ニ略々水平ニ腕ニ托ス)ヲ爲スベキカハ其隨意トス。然レドモ夜間ハ通常擔銃、提銃又ハ腕ニ銃ヲ爲スモノトス、上官ヨリ質問アルモ監視ヲ中止スルコトナクシテ之ニ答フベシ。

(e) 步哨ハ我步哨線ヲ出發スル斥候ニ其任務、經路及歸來ノ時刻、場所等ノ概要ヲ聽キ自己ノ見聞セシ情況ヲ告ゲ又歸來スル斥候ヨリ其見聞セシ事件ヲ聽取スベシ。

(ハ) 特別守則 小哨長ハ步哨ノ特別守則ヲ定メ一般守則ヲ補足スルモノニシテ其示スベキ事項及順序概ネ左ノ如シ。

(a) 自己ニ就テ

其步哨ノ番號。

(b) 前方ニ就テ

敵情(敵情ノ變化スル毎ニ所要ノ修正ヲ行フヲ要ス)

前方ニ在ル我部隊及斥候ノ情況(連絡、協同、警戒等ノ爲詳細ニ示シ置クヲ要ス)

必要ナル道路、村落等ノ名稱(記憶ヲ便ニスル爲固有名詞ニ代フルニ適宜ノ名稱ヲ以テスルヲ可トスルコトアリ、例ヘバ青葉山、並木道路等ノ如シ)

特ニ監視スベキ要地。

(c) 右左ニ就テ

隣步哨ノ位置、番號及之トノ連絡法。

目視ニ依ル法。

動哨ニ依ル法。

前兩者ノ混合法。

第三者ヲ以テスル法。

(d) 後方ニ就テ

小哨並中隊ノ位置及此等各位置ニ通ズル經路。
敵襲ニ際シ取ルベキ處置。

(e) 其他特ニ注意スベキ件

敵ノ戰法ニ鑑ミ注意スベキ事項。
天候、季節、地形上特ニ監視方法ニ注意スベキ件。

6、下士哨長及步哨掛ノ動作

(1) 下士哨長及步哨掛ノ動作ノ概要左ノ如シ。

(a) 命令受領後ノ動作

小哨長ヨリ命令ヲ受クルヤ斥候出發時ニ於ケルガ如キ着意ヲ以テ復唱、人員及武裝等ノ検査ヲ行ヒタル後所要ノ警戒ヲ爲シツ、速ニ哨所ニ到リ遮蔽シテ敵方ノ監視ニ任ジ小哨長ノ來着ヲ待ツモノトス。
小哨長ヲ其位置ニ誘導スル爲要スレバ兵ヲ派遣ス。

(b) 特別守則ヲ受ケタル後ノ動作

小哨長ヨリ特別守則ヲ受クルヤ之ヲ復唱シ守則ヲ哨兵ニ十分理解セシメ步哨ノ位置ニ所命ノ設備ヲ施シ地形ヲ暗識セシメタル後下士哨ハ長以下其地ニ在リテ警戒ニ任ジ復哨ニ在リテハ交代兵ヲ率キテ小哨ノ位置ニ復歸ス。

(c) 步哨掛小哨歸著後ノ動作

步哨掛交代兵ヲ率キテ復歸スルヤ小哨長ニ之ヲ報告シ、小哨長ノ定メタル位置ニ交代區分毎ニ又銃又ハ銃ヲ銃架ニ托シ交代時刻迄小哨長ノ規定ニ基キ休憩セシムルモノトス。

7、銃前哨

任務 前哨中隊及小哨ハ之ガ直接警戒ノ爲銃前哨ヲ配置ス。

(ロ)(1) 人員及箇數 前哨中隊(小哨)ノ銃前哨ハ通常單哨トスルモ中隊(小哨)

若掩護下ニ在ルトキハ之ヲ複哨トシ、且地形甚シク蔭蔽セルトキハ要スレバ其箇數ヲ増ス。

(ハ) 動作及守則 銃前哨ノ動作及守則ハ步哨ニ準ズ、但シ報告ハ通常其位置ヲ離ル、コトナク之ヲ爲スモノトス。

(ニ) 特別ノ守則ヲ與フルニ方リ注意スベキ件左ノ如シ。

- (a) 前方ニ在ル哨所ノ位置ヲ暗識セシムルコト。
- (b) 步哨線内ノ監視ニ任ゼシムルコト。
- (c) 妄リニ哨所ノ位置ヲ離ル、モノナキヤニ注意スルコト。

五、前哨ニ於ケル斥候

1、目的ニ依ル斥候ノ種別(名稱)及警報

前哨各部隊ヨリ派遣スル斥候ハ任務ニ依リ搜索斥候、駐止斥候、潜伏斥候等ト稱ス。

(イ) 搜索斥候 敵情地形ヲ偵知シ警戒ノ萬全ヲ期スル爲小哨、前哨中隊、前哨本隊等ヨリ繼續的ニ派遣ス。

(ハ)(ロ) 駐止斥候 步哨線前ノ地域ヲ監視スル爲要點ニ駐止セシム。
潜伏斥候 敵兵ヲ捕獲スル目的ヲ以テ步哨線前ニ潜伏セシム、此斥候ハ

特ニ夜間ニ於テ有利ナリ。

而シテ此等ノ斥候ハ敵襲ヲ知りタルトキハ先ヅ急劇ナル射撃又ハ信號ヲ以テ警報スルモノトス。

2、斥候派遣ニ方リ注意スベキ件

(ハ)(ロ)(イ) 當時ノ形勢ニ從ヒ背囊ヲ卸サシメ或ハ馬裝ヲ輕便ナラシム。
斥候歸著ノ時刻ヲ概定スルヲ可トス。

(ハ)(ロ)(イ) 斥候ノ歸路往路ト異ナルトキハ之ヲ派遣シタル小哨長等ハ其歸路ヲ監視スル步哨ニ斥候ノ歸路概略ノ時刻等ヲ告知スルモノトス、夜間ニ在リテハ殊ニ必要ナリ。

3、斥候一般ノ動作 斥候ノ動作ハ其任務、敵情並地形ニ應ジテ異ルハ勿論ナ

ルモ一般ニ左ノ件ニ注意スルヲ緊要トス。

(ハ)(ロ)(イ) 進退動作ニ深く注意シ靜肅ニシテ喧噪ナルベカラズ。
屢々駐止シテ音響ヲ聽取シ速ニ敵ヲ發見スルコトヲ勉ムベシ。

(ハ)(ロ)(イ) 地形ニ就テノ解説ヲ爲シ且時宜ニ依リ嚮導ト爲リ得ンガ爲能ク地形ヲ暗

識スベシ。

(ニ) 往路ト異ナル歸路ヲ選ビ敵ニ中斷セラル、ノ危険ヲ避クベシ。

4、歩哨線通過ノ動作 凡テ斥候ハ歩哨線ヲ通過スルトキハ其近隣ノ歩哨ニ左

記ノ件ヲ傳告、聽取スルモノトス。

(イ) 自己ノ任務及往路ノ概要並歸來ノ時刻場所等ヲ傳告ス。

(ロ) 其歩哨ノ見聞セシ新情況ヲ聽取ス。

六、巡察

1、巡察ノ任務及人員 巡察ノ任務ハ歩哨線内ヲ巡視シ各哨所及歩哨ヲ監視シ

且歩哨ヲ配置セザル土地ヲ搜索シ隣接哨所トノ連絡ヲ通ズルニ在リ、而シテ

其人員ハ臨時ニ之ヲ定ムルモノトス。

歩哨線内ニ於テ射撃或ハ喧噪セシトキニ於テモ亦巡察ヲ派遣シ其事實ヲ究メ

且歩哨ヲ援助セシムルコトアリ。

2、派遣スル部隊及其動作 巡察ハ小哨ヨリ派遣スルヲ通常トスルモ前哨中隊

並前哨本隊ヨリ派遣スルコトアリ、而シテ其動作ハ任務ニ依リ差異アルモ概
ネ斥候ノ動作ニ準ジテ行動スルモノトス。

其四 戦闘間ノ警戒

1、戦闘間ニ於ケル歩哨、斥候ノ動作 戦闘間警戒ニ任ズル歩哨、斥候ノ動作

ハ駐軍並行軍間ニ於ケルモノニ比シ稍々趣ヲ異ニスルヲ以テ之ガ使用ニ方リ

テハ指揮官ハ其都度戦闘ノ特質並戰場ノ状態等ヲ考慮シ適切ナル任務ト守則

トヲ與ヘザルベカラズ。

2、歩兵部隊ノ警戒 歩兵部隊ハ危険ナル側方及後方ニ對シ斥候ヲ派遣シテ近

距離ノ搜索ヲ行ヒ、又要點ニ歩哨又ハ斥候等ヲ配置シテ警戒シ不意ノ敵襲ニ

對シ危険ヲ未然ニ防止スルコト緊要ナリ。

而シテ此等警戒ニ要スル兵力ハ概ネ各部隊毎ニ其豫備隊ヨリ之ヲ取ルモ決戦

ニ際シテハ戦闘遂行ニ使用スルヲ通常トス。

3、夜間ノ警戒 軍隊戦闘ノ爲展開スルモ未ダ戦闘實行ニ入ラズシテ日没トナ

リ、或ハ戦闘夜ニ入りタル爲中止セラレ、翌朝更ニ之ヲ繼續セントスルトキ

ニ於テハ全隊戰鬪配置ニ在リテ夜ヲ徹シ各部隊ハ歩哨、斥候ヲ派遣シテ直接警戒ニ任ズルノ外最前線ニ於ケルモノハ現在地ニ陣地ヲ構築シテ至嚴ナル警戒ヲ爲スモノトス。

其五 上空ニ對スル警戒

1、上空ニ對スル警戒部隊 上空ニ對スル警戒ハ通常對空射擊部隊及對空監視哨ヲ以テス。

2、對空射擊部隊 行軍間及戰鬪間ハ概ネ歩兵ノ大隊毎ニ駐軍間ハ前哨區又ハ舍營(露營)毎區ニ機關銃一中隊若ハ歩兵一小隊以上ノ兵力ヲ指定シテ對空射擊部隊ト爲ス。

對空射擊部隊ハ對空監視哨ト連絡シ敵ノ飛行機ノ行動ニ注意シ、敵機ノ我ニ危険ヲ與ヘントスルトキ又ハ低空ヲ飛行シ我射擊有効ナルトキハ通常對空射擊部隊長ノ命ニ依リ射擊スルモノトス。

凡テ射擊ハ直ニ其位置ヲ暴露シ敵飛行機ヲシテ搜索ノ端緒ヲ得シメ、又友軍ニ危害ヲ與フルコトアルヲ以テ射擊開始ニ方リテハ能ク全般ノ狀況ヲ顧慮ス

ルヲ要ス。

3、對空監視哨

(イ) 任務及位置 對空監視哨ノ任務ハ上空ニ對スル監視ニ在リ、而シテ其位置ハ地上ノ敵ニ對シ掩護セラレ且上空ニ對スル視界廣濶ニシテ附近ハ特ニ靜肅ナルヲ要ス。

(ロ) 兵力及部署 駐軍間ニ在リテハ前哨區又ハ舍營(露營)區毎ニ之ヲ設クルモノニシテ一哨所毎ニ下士官又ハ上等兵ヲ長トセル五名乃至八名(内一名ハ喇叭手)ヨリ成リ通常一名又ハ二名ヲ監視ニ任ゼシメ殘餘ハ交代兵トシテ適宜ノ位置ニ在ラシムルモノトス。

對空監視哨ハ小ナル部隊ニ在リテハ情況ニ依リ他ノ哨兵ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトヲ得。

(ハ) 交代 對空監視哨ハ時々交代セシムルモノトス、之ガ爲豫メ所要ノ人員ヲ準備スルヲ要ス。

4、一般守則 對空監視哨一般ノ守則左ノ如シ。

- (イ) 對空監視哨ハ常ニ四圍ノ上空ヲ監視シ、又ハ音響ニ注意シ若飛行機、氣球等ヲ發見セバ監視ヲ中絶スルコトナク直ニ其情況ヲ指揮官ニ報告スベシ。
 - (ロ) 發見シタル飛行機敵ノモノナルカ或ハ疑ハシキモノニシテ我ニ近接シ來ルトキハ直ニ示サレタル防空部隊ニ通報スベシ。
 - (ハ) 敵飛行機全ク我視界ヲ去ラバ之ヲ指揮官ニ報告スベシ。
 - (ニ) 其他ハ概ネ歩哨ノ動作ニ準ズ。
 - 5、特別守則 對空監視哨ニ與フベキ特別守則ノ順序及事項概ネ左ノ如シ。
 - (イ) 監視哨ノ名稱。
 - (ロ) 彼我飛行機ノ識別法。
 - (ハ) 必要ナル道路地點等ノ名稱。
- (目視シ得ル道路村落ノ名稱ヲ教示スルヨリモ監視哨ノ目視シ得ザルモ飛行ノ基準ト爲ルベキ鐵道線路、河川、市街地ノ名稱等ヲ知ラシムルヲ必要トス)

- (ニ) 要スレバ特ニ監視スベキ方向。
- (ホ) 連絡スベキ防空部隊ノ位置。
- (ヘ) 報告又ハ通報ノ手段。

其六 瓦斯ニ對スル警戒

一、要旨

瓦斯ハ之ニ對スル處置ヲ講ズルトキハ必ズシモ恐ル、ニ足ラザルヲ以テ瓦斯攻撃ヲ受クルカ或ハ撤毒地域ニ遭遇スルモ其効果ヲ過信スルコトナク沈著シテ防護ノ處置ヲ講ズルヲ要ス、而シテ之ガ搜索警戒ノ爲ニハ通常瓦斯斥候、瓦斯哨ヲ以テス。

二、瓦斯斥候

- 1、人員及携行品 瓦斯兵ノ人員ハ通常五名トシ已ムヲ得ザレバ三名トシ、所要ニ應ジ嗅覺鋭敏ナル一般兵ヲ加フ。
- 防毒衣、防毒面、標示及消毒ノ材料爲シ得レバ試験紙、驗知器等ヲ携行シ必要ニ應ジ掩護ノ兵力ヲ附ス。

2、行動 瓦斯ノ驗知ハ主トシテ嗅覺及視覺ニ依リ爲シ得レバ試驗紙、驗知器等ヲ使用ス、而シテ一度瓦斯ヲ嗅ギタル者ハ其後嗅覺ノ敏感性ヲ失フヲ常トスルヲ以テ逐次交代シテ服務スルヲ可トス。

撒毒ヲ發見シ或ハ其疑ヲ抱キタルトキハ直ニ之ヲ報告シ、要スレバ附近ノ部隊ニ通報スルト共ニ現地ニ其旨ヲ標示ス。

標示ハ撒毒地域及安全通路ヲ明瞭ナラシムルヲ可トス。

三、瓦斯哨

各部隊ハ瓦斯警戒ノ爲一般警戒兵ヲシテ之ヲ兼ネシムルカ或ハ之ニ瓦斯兵ヲ加フ、而シテ尙確實ヲ期シ難キトキハ特ニ瓦斯哨ヲ設ク。

1、人員及携行品 一般下士哨ニ準ズベキモ之ニ含ムベキ瓦斯兵ノ數ハ少クモ絶エズ一名ハ監視ニ任ジ得ル如ク定メ瓦斯警報器ヲ携行ス。

2、位置 選定上注意スベキ件左ノ如シ。

- (イ) 展望良好ニシテ速ニ瓦斯ヲ發見シ得ルコト。
- (ロ) 風上ヨリ來ル瓦斯ヲ速ニ發見スル爲警戒スベキ部隊ノ風上ナルコト。

(ハ) 瓦斯、谷地、凹地ニ沿ヒ襲ヒ來ル虞アルトキハ其縁端ニ近ク位置シ時々行動警戒ヲ爲シ得ルコト。

(ニ) 部隊トノ距離ハ警報ヲ受ケタル部隊ノ準備、警報ノ到達距離等ヲ考慮シテ定ムルコト。

3、一般守則 瓦斯哨一般ノ守則概ネ左ノ如シ

(イ) 瓦斯哨ハ絶エズ敵ノ瓦斯使用及之ガ徵候ニ注意シ此等ニ關シ發見セシコトアラバ直ニ報告スベシ。

(ロ) 瓦斯來流シテ猶豫セバ危殆ニ陥ルト認メシトキハ所定ノ警報ヲ爲ス。比隣部隊或ハ隣哨所ニ警報ヲ聞クトキハ直ニ之ヲ報告シ、且之ト連絡ス

4、特別守則 一般歩哨ノモノニ準ズル外左ノ事項ヲ附加ス。
豫想スル敵ノ瓦斯使用法。

(ハ)(ロ)(イ) 警報ニ關スル事項。

(ハ)(ロ)(イ) 行動警戒ニ關スル事項。

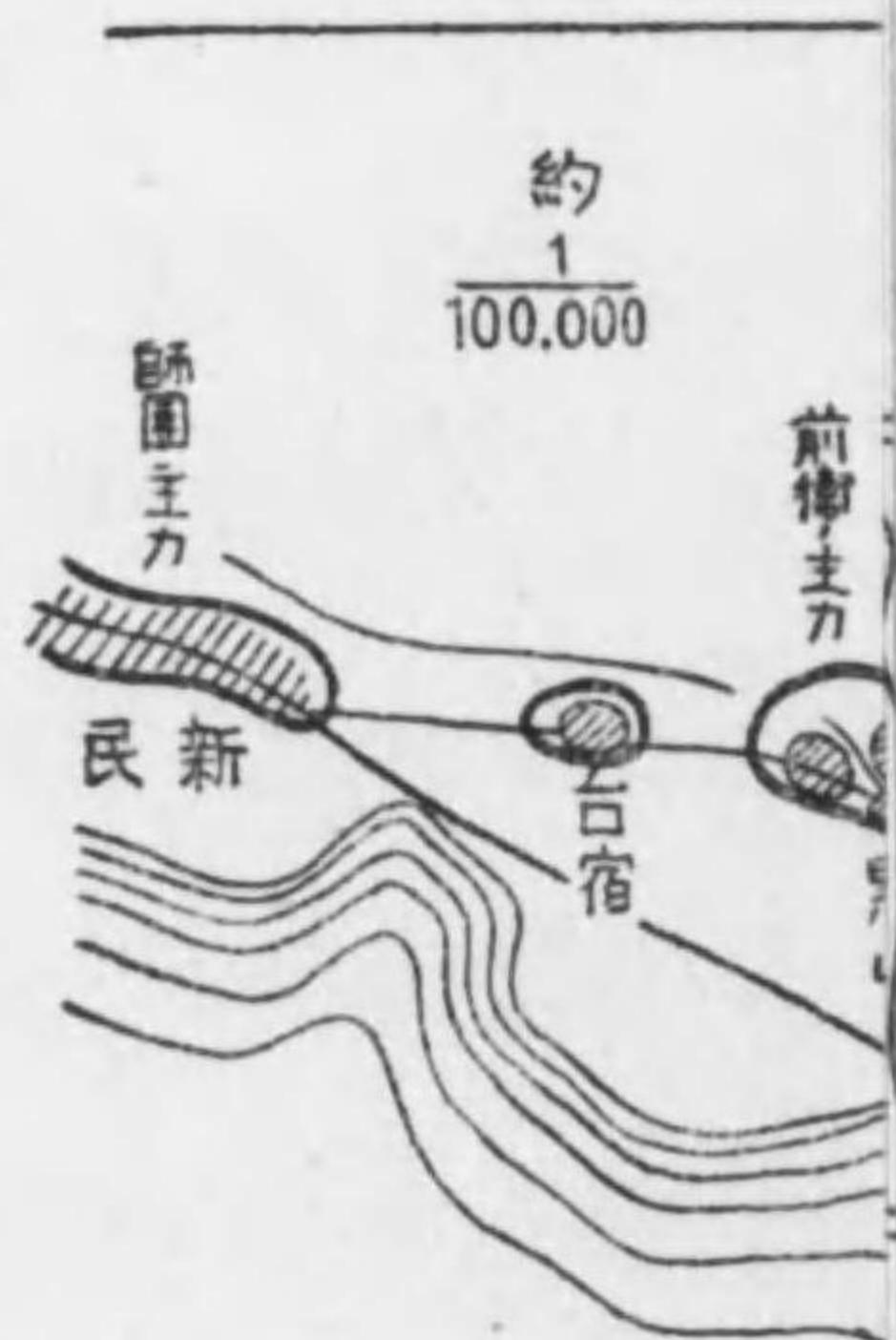
陣中勤務

—(二八二)—

其七 前哨配備要圖竝小哨命令及小哨長報告ノ一例

- 1 前哨配置ノ一般並前哨中隊配備ノ要領第五十七圖及第五十八圖ノ如シ。
- 2 小哨命令ノ一例左ノ如シ
 - 第一小哨命令 九月十九日午後五時
於錦州東端
 - 第二小哨命令 九月十九日午後五時
於錦州東端
- 一、敵ニ就テハ其後新報ヲ得ズ
- 二、小隊ハ第二小哨ト爲リ現在地ニ位置シ古山ヨリ義州東南約百二十米ノ地點
ニ亘ル間ヲ山海關方向ニ對シ警戒セントス
- 第一小哨ハ林西北端ニ位置シ古山以南ノ地區ヲ山海關方向ニ對シ警戒ス
- 三、某上等兵ハ兵六名ヲ以テ第一複哨ト爲リ古山東北端附近ニ位置シ前方ヲ警戒スベシ
- 四、某軍曹ハ兵六名ヲ以テ第二下士哨ト爲リ本道上標高25.0西方約七十米凹地附近ニ位置シ前方ヲ警戒スベシ
- 五、某伍長ハ兵九名ヲ以テ第三複哨ト爲リ義州東南方約百二十米ノ地點(凹地西側)ニ位置シ前方ヲ警戒スベシ

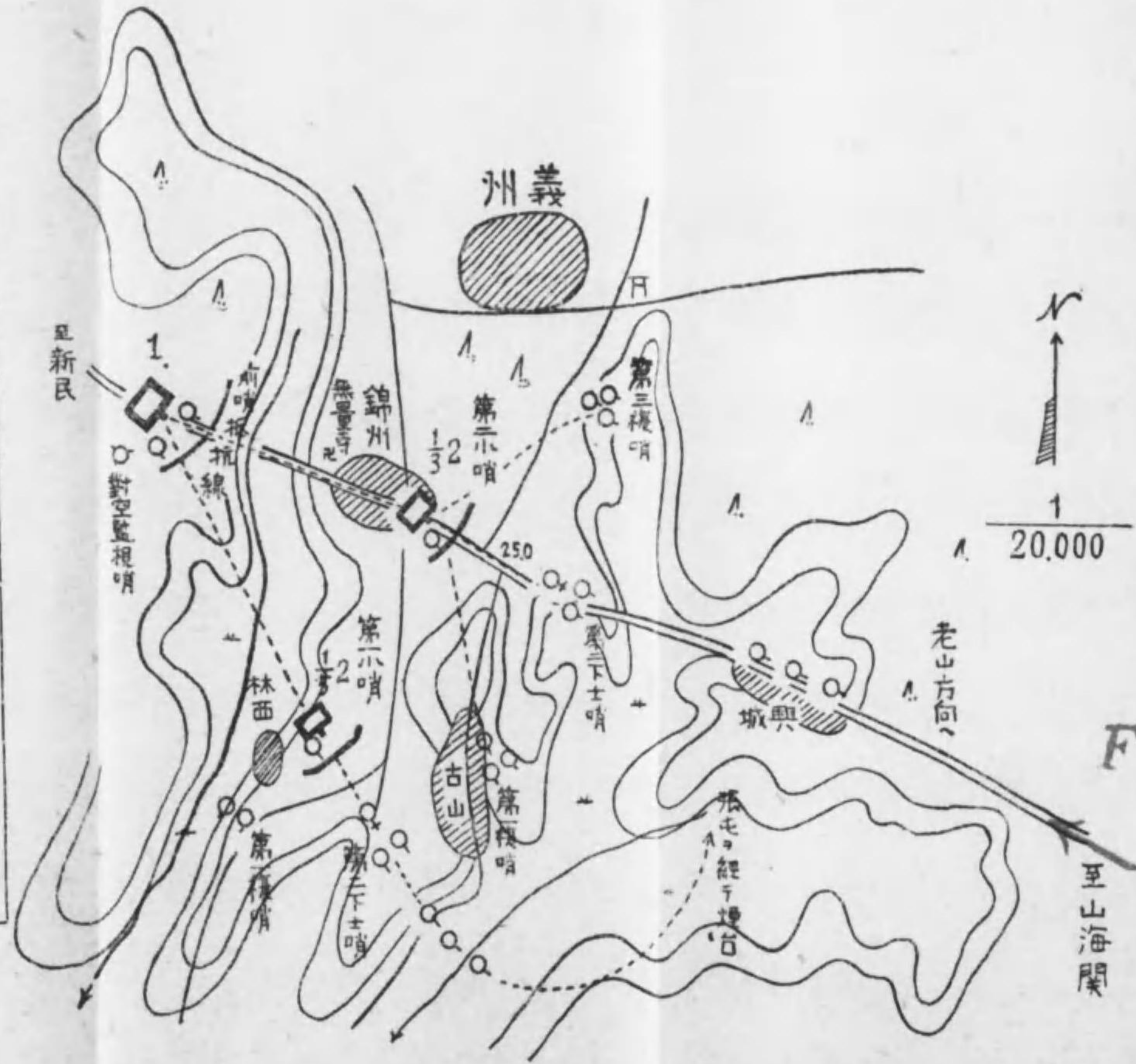
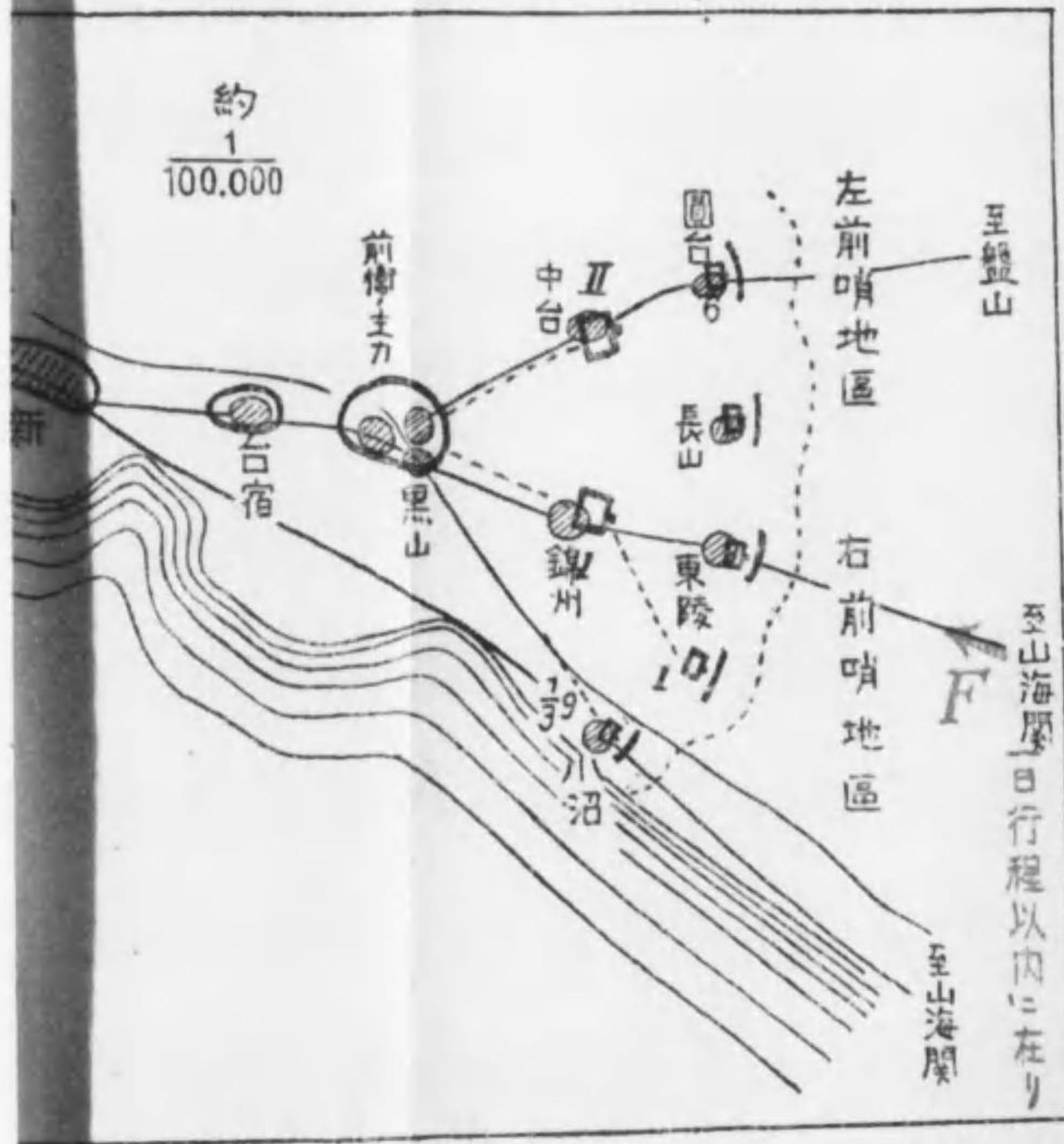
圖七 一般



第五十七圖

圖八十五第
 圖要備配隊中一第哨前近附村州錦
 ルケ於ニ夜日八十月九

圖七十五第
 圖般一哨前



四、某軍曹ハ兵六名ヲ以テ第二下士哨ト爲リ本道上標高25.0西方約七十米凹地附近ニ位置シ前方ヲ警戒スベシ
 五、某伍長ハ兵九名ヲ以テ第三機哨ト爲リ義州東南方約百二十米ノ地點(凹地西側)ニ位置シ前方ヲ警戒スベシ

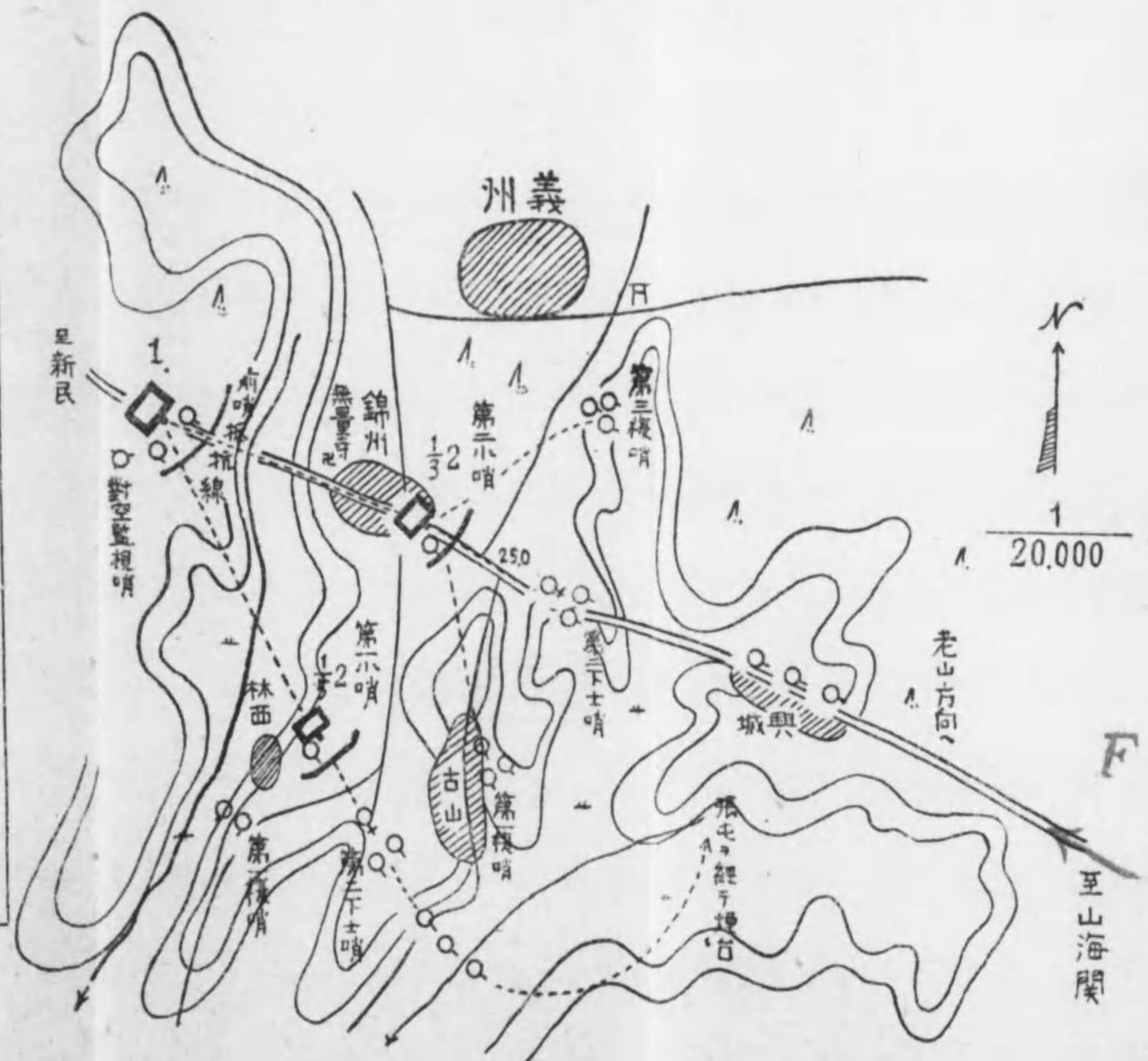
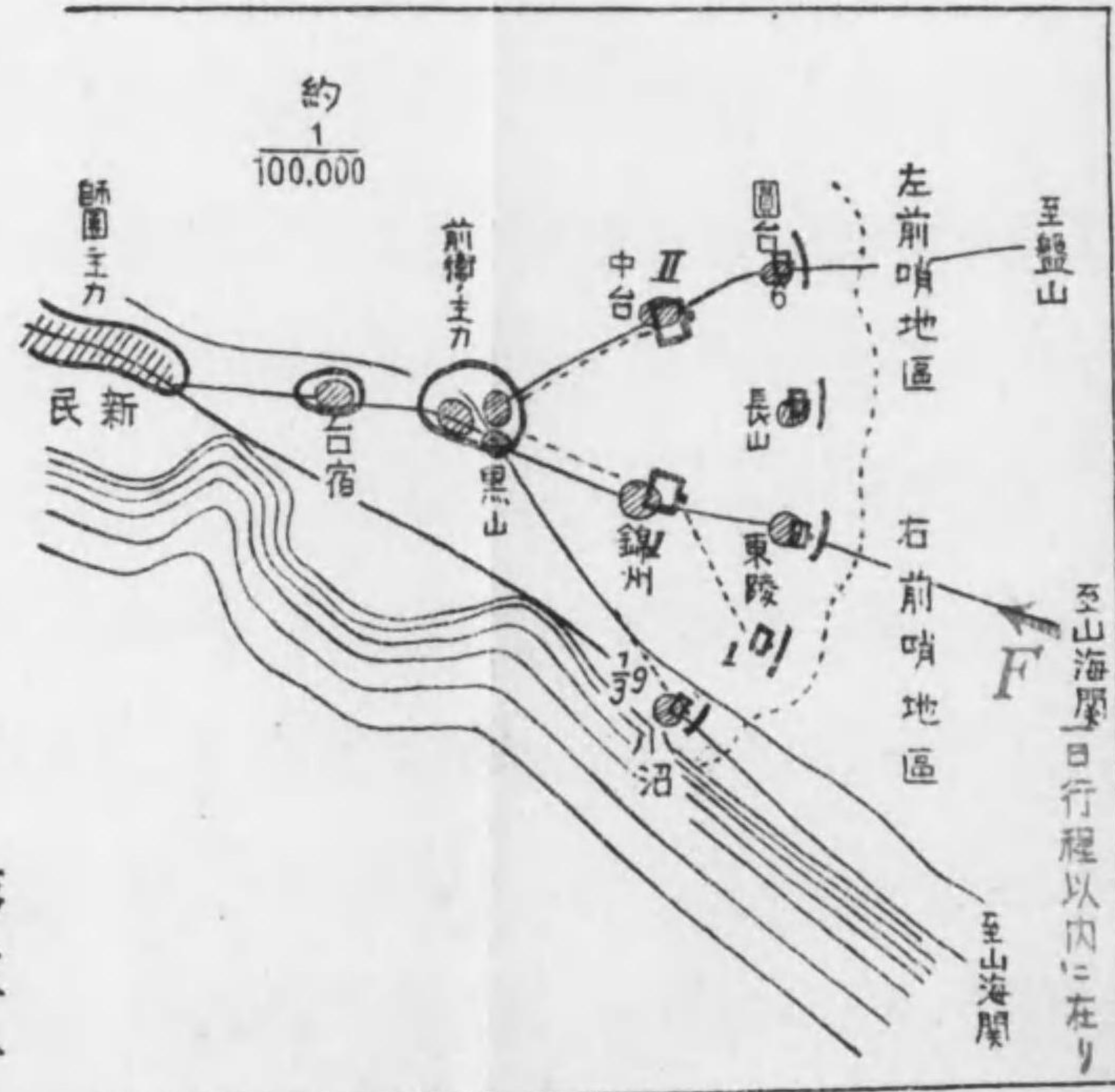
圖八十五第

圖要備配隊中一第哨前近附村州錦

ルケ於ニ夜日八十月九

圖七十五第

圖般一哨前



第五十八圖

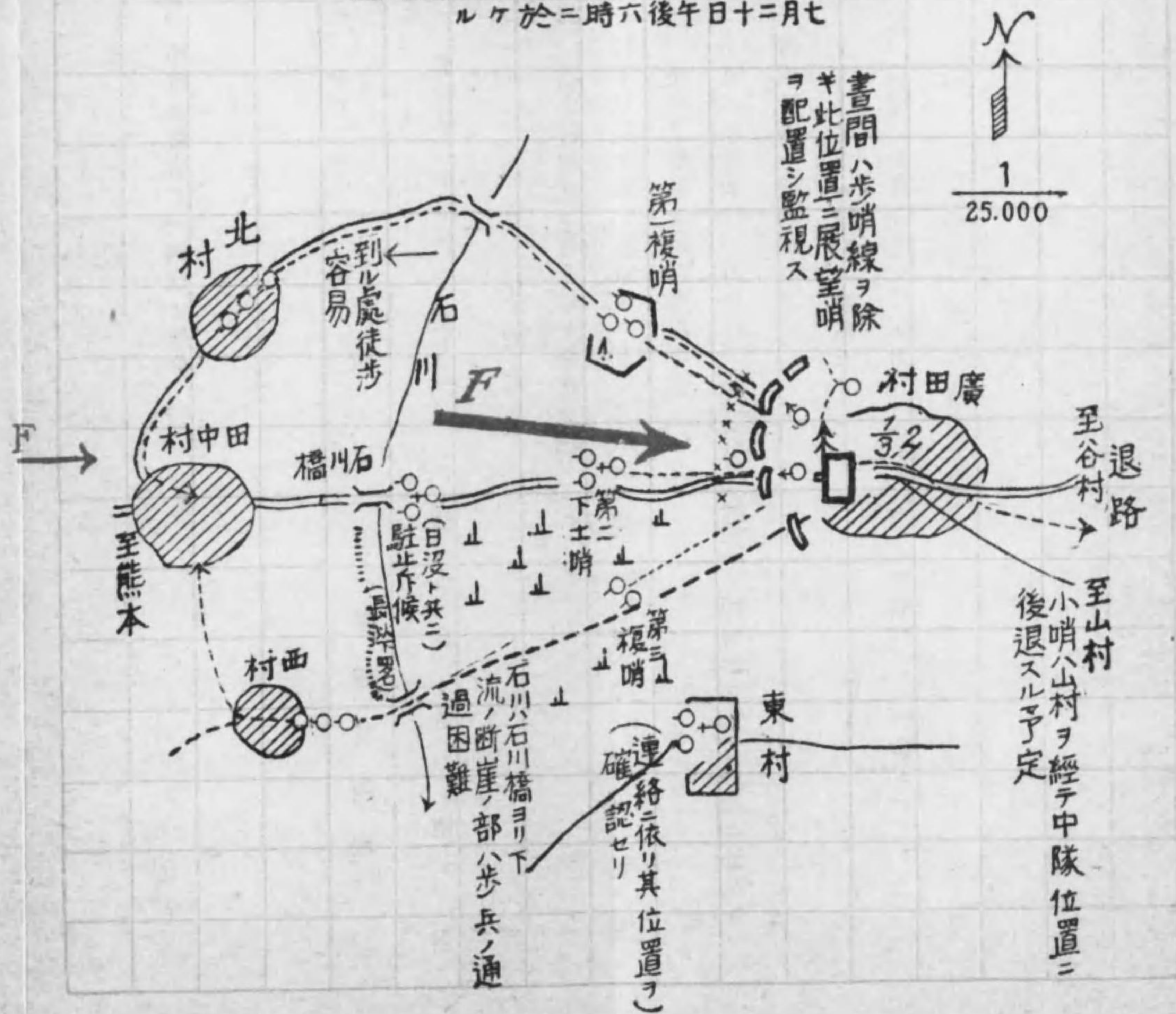
3、小哨長報告ノ一例左ノ如シ

七 二十 日 午後六 時 〇 分	廣 田 村 西 端
前哨第二中隊長 某大尉	第一小哨長 某中尉
第一號 第一小哨報告	
一、田中村附近ニ方リ時々銃聲ヲ聽ク 目下斥候ヲ以テ搜索中ナリ其他敵情ニ關シテ新報ヲ得ス	
二、小哨ノ配備及地形裏面要圖ノ如シ 小哨ハ本夜北村、田中村、西村以內ノ地區ヲ搜索セントス終夜ニ於ケル 搜索計畫ハ後刻報告ス	
又左小哨トハ確實ニ連絡セリ	
三、小哨ノ人員將校一、下士四、兵卒六〇（内喇叭手一ヲ含ム） （小銃四分隊、輕機二分隊）	

小哨長報告例

廣田村附近第一小哨配置要圖

七月二十日午後六時ニ於ケル



六、某軍曹ハ現在地ニ展望哨ヲ配置シアノ附近ニ抵抗線ヲ偵察シ且斥候及巡察各三組ヲ區分シ置クベシ

七、某々ハ傳令ト爲リ小哨長ノ許ニ來ン

八、小哨長ハ第一復哨第三復哨ノ順ヲニ特別監視ヲ付與ス

- 六、某軍曹ハ現在地ニ展望哨ヲ配置シアノ附近ニ抵抗線ヲ偵察シ且斥候及巡察各三組ヲ區分シ置クベシ
- 七、某々ハ傳令ト爲リ小哨長ノ許ニ來レ
- 八、小哨長ハ第二下士哨第一複哨第三複哨ノ順序ニ特別守則ヲ附與ス

第二小哨長 某 中 尉

備考

- 一、前哨中隊ノ位置出發ニ方リ步哨配布ノ掩護斥候ヲ派遣シアルモノトス
- 二、敵狀ニ就テハ前哨中隊ノ位置出發ノ際下達シアルモノトス。

第六節 行 軍

其一 通 則

- 1、行軍ノ要旨 行軍ハ凡テ作戰ノ基礎ヲ爲スモノニシテ其計畫ノ適切、實施ノ確實ナルハ諸般ノ企圖ニ好果ヲ得ルノ要素ナリ。
- 2、行軍ノ種類 行軍ハ戰備ヲ主トスルヤ否ヤニ依リ戰備行軍、旅次行軍ニ分チ行軍ノ行程及速度ノ大小ニ應ジテ強行軍、急行軍ニ分チ特ニ夜行スルモノヲ夜行軍ト謂フ。

陣 中 動 務

- (イ) 戦備行軍 戦備行軍トハ敵ニ接觸スベキ虞アルトキ行フモノニシテ戦闘準備ヲ主トシテ軍隊區分及縦隊ノ進路ヲ定メ且所要ノ警戒法ヲ定ムルモノトス。
 - (ロ) 旅次行軍 敵ニ接觸スベキ虞ナキトキ行フモノニシテ主トシテ軍隊ヲ休養セシムルコトニ顧慮スルモノトス。
 - ハ) 強行軍 旅次行軍ト戦備行軍トテ間ハズ日々ノ行程ヲ増大シテ行フモノヲ謂フ即チ行軍間ノ休日ヲ廢シ或ハ休宿ノ時間ヲ減少シ要スレバ晝夜ヲ通ジテ行軍ヲ繼續スルモノトス。
 - (ニ) 急行軍 短時間ニ所望ノ地點ニ到着スル如ク行軍スルモノヲ謂フ。即チ歩度ヲ増加シ或ハ休憩ノ回数及時間ヲ減少短縮シテ行進スルモノトス。此際服装ヲ輕易ニシ鐵道自動車又ハ他ノ車輛ヲ利用シ得レバ大ニ有利ナリ。
 - ホ) 夜行軍 敵ニ對シ特ニ我行動及企圖ヲ秘匿スルノ要アルカ又ハ軍隊ノ移動急ヲ要スル爲拂曉ヲ待ツノ違ナキガ如キ場合ニ於テハ夜行軍ヲ行ヒ、又往々夏季炎熱ヲ避クル爲或ハ強行軍ノ爲夜行軍ヲ行フコトアルモノトス。
- 3、行軍ノ隊形及幹部ノ位置
- (イ) 隊形 歩兵ノ行軍隊形ハ側面縦隊トス。

行軍中下士官(分隊長タル上等兵ヲ含ム) 缺伍ノ兵、喇叭手、看護兵等モ皆列中ニ入り伍ヲ作ルモノトス。

喇叭手ノ位置ハ大隊長之ヲ定ムルモ大隊ノ後尾中隊ハ喇叭手一人ヲ其後尾ニ行進セシムルモノトス。道路ノ景況特ニ良好ニシテ長距離ニ亘リ路幅大ナルトキハ軍隊ハ

右ノ規定ニ關セズ猶一層横廣ノ隊形ヲ以テ行進スルヲ得ベシ。情況ニ依リ上空ニ對シ遮蔽スルコト必要ナルトキハ不規ノ隊形ヲ取ラザルベカラザルコトアリ。

- (ロ) 幹部ノ位置 各兵種ヲ通ジテ中隊長、小隊長、分隊長及之ニ準ズル者ハ其中(小) (分) 隊ヲ監視スルニ便ナル位置ニ在リテ行進スルヲ得ベキモ、通常將校ノ一人ハ中隊ノ後尾ニ在リテ行進スルヲ要ス。又「速歩」(徒歩兵種) 又ハ「氣ヲ付ケ」(乘馬兵種) ヲ以テ行進スルトキハ通常各人ハ操典ニ定メアル位置ヲ占メ中隊長ハ其先頭ニ在ルモノトス。

- 4、行軍ノ速度 行軍ノ速度ハ部隊ノ大小、種類及狀態、道路ノ景況、天候、明暗ノ度、季節並ニ戰術上ノ要求ニ依リ差異アルモノトス。

而シテ諸兵連合ノ部隊ニ在リテハ速度ノ遲キ部隊ヲ基準トスルモノニシテ部隊ノ大

ナルニ從ヒ自ラ遲緩スルモノトス、故ニ休憩ヲ合シテ一軒平均約十五分ヲ標準トス。然レドモ小部隊ニシテ情況之ヲ要スレバ一層大ナル速度ヲ以テ行進スルヲ得ベシ。

5、行軍力保持増進ノ方法

行軍力保持増進ノ爲最モ有効ナル方法左ノ如シ。

(イ) 行軍々紀ヲ嚴格ニシテ志氣ヲ振作スルコト即チ各級幹部ハ歩度ヲ齊一ナラシメ且

行軍スル軍隊ノ遲止急進ヲ防遏シ人馬ノ疲勞ヲ輕減セシムルコト緊要ナリ。

行軍ニ關スル心得ノ履行ヲ確實ナラシムルコト

人馬ノ衛生ニ注意スルコト。

特ニ徒歩兵ノ靴傷、四肢ノ疾病ノ豫防及其處置ニ留意ス。

(ホ)(ニ) 人馬ノ給養ヲ良好ナラシムルコト。

諸材料ノ保護ニ勉ムルコト。

6、行軍ニ關スル中隊長ノ責務

兵ノ服裝ニ就テ絶エズ注意シ特ニ行軍間ノ休憩及宿營ニ於テ兵自ラ足部ノ保護、馬匹ノ愛護ニ關シ適當ノ注意ヲ爲スヤ否ヤヲ監察シ且此等ノコトヲ忽セニスル者ナカラシムルト共ニ諸材料ヲ整理ニ保持スルハ中隊長及之ニ準ズル部隊長ノ責任トス。

其二 行軍ノ實施

1、集合ニ關スル幹部ノ注意

(イ) 出發時刻ノ決定、過早ニ宿舍ヲ出テ、長ク集合所ニ駐止セシムルハ兵ヲ疲勞セシ

ムルコト大ニシテ之ニ反シ集合ニ遅ル、ハ全體ノ行軍ニ支障ヲ來スヲ以テ共ニ不可

ナリ。之ガ爲幹部ハ部下ノ集合並出發準備ニ注意スルト共ニ集合場所及之ニ到ル道

路ヲ偵察シ集合時刻及集合ニ要スル時間ヲ現地ニ就キ考察シ明確ニ之ヲ承知シアル

コト必要ナリ。

(ロ) 部下ノ點檢 幹部ハ出發前集合ノ際部下ノ著裝、武器、裝具等ヲ點檢シテ整正ナラ

シメ、且其健康狀態ヲ知悉シアルヲ必要トス 是行軍力ヲ保持増進セシムル上ニ於テ

緊要ナルヲ以テナリ。

2、遂步行進間一般ノ注意、軍隊出發後徒歩兵種ニ在リテハ「途歩」爾餘ノ兵種ニ在リ

テハ「休メ」ノ號令若ハ號音アレバ左記要領ニ從ヒ行進スルモノトス。

(イ) 歩法姿勢等 各人ハ正規ノ歩法ヲ守ルコトナク、又歩ヲ調フルヲ要セズ 又姿勢ヲ

自由ニシ特別ノ場合ノ外ハ談話シ唱歌スルヲ得。

(ロ) 刀及銃ニ就テ 刀ハ鞘ニ納メ銃ハ各兵ノ欲スル肩ニ擔フ (要スレバ中隊長之ヲ規

定ス。

(ハ) 道路一側ノ行進 軍隊ハ路上便利ナル側方ヲ選ビテ行進スベシ、若道路ノ兩側便利同シナルトキ及他部隊ニ遭遇セシトキハ行進方向ニ對シ道路ノ左側ヲ行進スベシ廣キ道路ニ於テハ常ニ其一側ヲ虛フシ他部隊ノ通過ニ供スベシ、狹キ道路ニ在リテモ單獨ノ乘馬又ハ自轉車ヲシテ縱隊ノ行進ヲ妨害スルコトナク疾走シ得シムルヲ要ス。此ノ如キ場合ニ於テハ要スレバ指揮官又ハ後尾ニ在ル幹部ハ速ニ指示ヲ與ヘテ道路ヲ讓ル如ク注意スルヲ要ス。

(ニ) 前後ノ重疊 行軍中背後ニ從フ諸部隊ハ皆先頭部隊ニ準ジ且兵ハ勉メテ前後ニ重疊シ以テ縱隊面ヲ擴張セシメザルヲ要ス。

(ホ) 道路ノ兩側通過 並木等ヲ利用シテ上空ニ遮蔽セントスルトキ又ハ道路ノ景況ニ依リ或ハ炎熱ノ時等ニ在リテハ行軍縱隊ヲ兩側ニ分チ中央ヲ虛フスルヲ可トスルニコトアリ。

(ヘ) 服裝 各人慾ニ服裝ヲ亂スヲ禁ズ、然レ共中隊長及之ニ準ズル者ハ常ニ許シ得ベキ事項ニ就テ適時之ヲ指示セザルベカラズ。

(ト) 難列者 列兵中若已ムテ得ズ隊列ヲ離ル、ヲ要スルトキハ分隊長(又ハ之ニ準

ズル長)以上ノ幹部ノ許可ヲ受クベシ。

(チ) 其他 道路不良ナルカ或ハ炎熱、積雪、砂塵等甚シキトキ又ハ強風ノトキニ在リテハ先頭部隊又ハ一側ヲ行進スル兵ヲ時々交代セシムルヲ可トス。

3、撞著ノ預防

(イ) 歩度ノ齊一 縱隊中ノ一部ニ生ズル行軍長徑ノ變化ハ縱ヒ小ナルモ漸次他ノ諸部隊ニ關係ヲ及ボスコト大ナルヲ以テ兵ハ勉メテ歩度ヲ齊一ニシ以テ伍間ノ距離ヲ伸縮セザルコトニ注意スベシ。

(ロ) 隊間距離 行軍長徑ノ變化ヲ調節スル爲各部隊間ニ隊間距離ヲ置クモノトス、故ニ行軍長徑ノ愈々大ナルニ從ヒ先頭部隊ハ益々歩度ヲ齊一ナラシムルコトニ注意シ後方部隊ハ隊間距離ヲ絶エズ墨守セズ又絶エズ伸縮シテ容易ニ他部隊ニ波及セシメザルヲ要ス、而シテ歩兵中(大)隊間ノ隊間距離左ノ如シ。

歩兵中隊後ニ 八米
歩兵大隊後ニ 十五米

4、休憩

(イ) 要旨 休憩ヲ規定スルニハ成ルベク迅速ニ休憩ニ移リ休憩時間ヲ減セザル如クス

ルヲ要ス。之ガ爲豫メ乗馬者又ハ自轉車兵ヲ先行セシメ所要ノ準備ヲ爲サシムルヲ要ス。而シテ休憩ノ際ニハ豫メ休憩時間ヲ一般ニ知ラシムルヲ可トス。

(ロ) 休憩ノ度数及時間

(a) 旅次行軍

第一回ノ休憩 行軍發程後約一時間ヲ經ルヤ服裝馬裝ノ改裝及兩便ニ要スル適當ナル短時間ノ休憩ヲ行フ。
其後ノ休憩 其後行程ノ遠近ト天候、季節、地形等ニ應ジテ人馬ノ休憩、兩便、飲食、給水等ノ爲適宜ノ休憩ヲ爲スヲ要ス。
長キ行軍ニ在リテハ特別ノ場合ヲ除キ概ネ一時間毎ニ其内十分乃至十五分宛休憩ニ充當シ、又食餌及飼與ノ爲ニハ通常少クモ三十分ノ餘裕ヲ與フルヲ要ス。

(b) 戰備行軍

戰備行軍ニアリテハ休憩ノ度数及時間ハ情況ニ應ジ規定スルモノナルモ、情況之ヲ許ストキハ前項ノ規定ヲ準用スルヲ可トス。

(ハ) 休憩地 敵ニ關スル顧慮少ナク且道路ヲ閉塞スル虞ナキトキハ、行軍隊形ノ儘直ニ路傍若ハ路上ノ一側ニ又銃若ハ下馬(下車)シ休憩ニ移ラシムメシ、但シ之ガ爲

他部隊或ハ馬匹車輛ノ通行ヲ妨ゲザルヲ要ス。
然レドモ長時間ノ休憩ニ際シテハ、道路外適當ノ場所ヲ選ビ一地又ハ數地ニ開進ヲ行フヲ可トス。

尙休憩地ノ選定ニハ季節及天候ノ景況ニ從ヒ飲水、給水、兩便、蔭影及風雨ノ遮蔽、敵眼特ニ上空ニ對スル遮蔽ニ注意スルヲ要ス。

(ニ) 休憩間ノ警戒

休憩間各部隊ハ必要ニ應ジ駐軍間ニ於ケルガ如キ、對空防禦ノ方法ヲ講ジ又所要ノ直接警戒法ヲ設ケ要スレバ又銃、車輛、材料等ノ監視法ヲ規定スベシ又敵ノ近傍ニ於ケル戰團準備ヲ確實ニスル爲部隊毎ニ適宜縱長ヲ短縮スルヲ必要トスルコトアリ。

第七節 宿 營

其一 通 則

1、宿營ノ種類、利害及之ヲ適用スル場合

(イ) 種類 宿營法ヲ分ツテ舍營、露營及村落露營ノ三トス。
舍營トハ通常家屋内ニ宿營スルモノニシテ露營ハ之ニ反ス、又舍營露營ヲ混用スルモノヲ村落露營ト稱ス。

陣中勤務

- (ロ) 舍營 舍營ハ各家屋内ニ分宿スルヲ以テ部下ノ監視、掌握並命令ノ傳達不便ニシテ集合ニ多クノ時間ヲ要スル等戰鬪ノ準備容易ナル能ハザルノミナラズ敵ノ斥候間諜等ノ潜入ヲ容易ナラシム等ノ害アリト雖、風雨ヲ障礙シテ人馬ヲ休養シ需用品ノ補充、調理並裝具、被服ノ補修ニ便ナルヲ以テ惡シキ舍營モ猶人馬ノ休養露營ニ優レリトス、故ニ戰術上並衛生上妨ゲナケレバ宿營ハ舍營ヲ以テ最良トス。
- (ハ) 露營 露營ハ人馬ノ休養良好ナルヲ得ザルモ指揮官ノ許ニ集結シテ宿營シ戰鬪準備容易ナルノ利アルヲ以テ概ネ左ノ場合ニ行フモノトス。
 - (a)、敵ニ接觸シ戰術上ノ顧慮ヨリ一定ノ地域ニ位置セザルヲ得ザルトキ。
 - (b)、舍營スベキ住民地ニ乏シキトキ。
 - (c)、住民地ニ傳染病等アルガ爲之ヲ利用スル能ハズ且他ニ方法ナキトキ等
- (ニ) 村落露營 敵ニ近接シ戰術上若干部隊ノ迅速ナル戰鬪準備ヲ必要トスルカ或ハ一定地域ニ宿營スルヲ要スル軍隊ニシテ其地方ニ家屋ノ乏シキガ爲全隊舍營ヲ爲スコト能ハザルトキハ村落露營ヲ爲スモノトス、村落露營ハ戰鬪準備ヲ殆ンド露營ニ同シカラシメタル場合ニ於テモ猶軍隊ノ休養上ニ於テハ之ニ優ルモノトス。

其二 舍營

1、勤務員及其任務

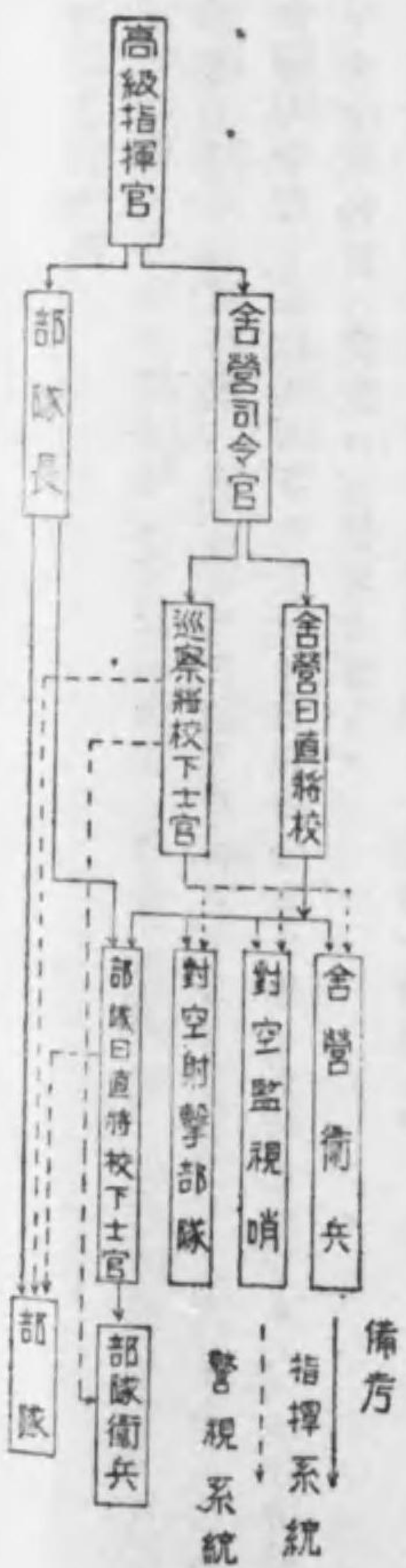
- (イ) 舍營勤務ノ爲各舍營區毎ニ舍營司令官、舍營日直將校、巡察將校(下士官)ヲ又各部隊ハ部隊日直將校(下士官)ヲ設クルモノトス。
- (ロ) 舍營司令官 高級指揮官ヨリ特ニ舍營司令官ヲ命セラレザルトキハ、各舍營區ニ於ケル上級先任ノ將校ハ舍營司令官トス。舍營司令官ハ舍營區ノ内務及警備ニ關スル事項ヲ統轄ス。
- (ハ) 舍營日直將校 各舍營區ニ舍營日直將校一人ヲ置ク。舍營日直將校ハ舍營司令官ノ業務ヲ補助シ其指示事項ヲ部隊日直將校、下士官ニ傳へ且舍營衛兵、對空監視哨及對空射擊部隊ヲ指揮スルモノトス。
- (ニ) 巡察將校(下士官) 必要ニ應ジ各舍營區ニ巡察將校(下士官)若干人ヲ置ク。巡察將校(下士官)ハ直チニ舍營司令官ニ届告シ舍營ノ内務及警備ニ關シ指示ヲ受ケ其舍營區ノ警視ニ任ズルモノトス。
- (ホ) 部隊日直將校(下士官) 各兵種ノ大隊(大隊ヲ成サザル隊ハ聯隊、輜重兵ニ在リテハ中隊)ハ小隊長一人ヲ各獨立中隊若ハ之ニ準ズル部隊(輜重ニ在リテハ小隊)

陣中勤務

陣中勤務

—(二九四)—

- ハ下士官一人ヲ以テ部隊日直ト爲シ舍營日直將校ノ業務ヲ輔佐シ其舍營區内ノ監視ニ任セシム。
- 部隊日直將校、下士官ハ直ニ舍營日直將校ニ届告シ舍營ノ内務及警備ニ關シ必要ノ指示ヲ受ケ之ヲ所屬部隊長ニ報告シ之ニ基ク部隊長ノ命令ノ實行セラレアルヤ否ヤヲ監視シ且部隊衛兵ヲ指揮スルモノトス。
- (ヘ) 一舍營區ノ兵員寡少ナルトキハ別ニ舍營日直將校ヲ置カズ舍營司令官自ラ之ヲ兼ネ或ハ部隊日直將校ヲシテ之ヲ兼ネシムルコトアリ。
- (ト) 舍營勤務員ノ系統軍隊指揮官トノ關係ヲ圖示セバ左ノ如シ。



2、警備

- (イ) 要旨 舍營スル軍隊ハ當時ノ狀況ニ適應スル如ク警戒法ヲ定メ、以テ諸種ノ事變ニ際シ對應ノ處置ヲ講ジ得ルコト緊要ナリ。而シテ舍營ニ於ケル戰備ノ度及警報ニ際シ取ルベキ處置ニ關シテハ舍營司令官ノ指示スルモノノ外ハ各部隊長之ヲ規定スルモノトス。
- (ロ) 警急集合場 歩兵ハ大隊(輜重兵ハ小隊其他ノ兵種ハ中隊) 毎ニ其舍營地區内ニ常ニ一ノ警急集合場ヲ定メ之ヲ舍營司令官ニ報告スベシ(警急集合場トハ敵情ニ依リ或ハ天災地變ニ際シ各戸ニ分散シアル軍隊ヲ機ヲ失セズ適切ナル行動ニ出デシメシガ爲ニ集合セシムル場所ヲ謂フ)
- (ハ) 舍營衛兵及部隊衛兵 各舍營區毎ニ一又ハ數個ノ舍營衛兵ヲ設ケ又各部隊ノ舍營地區毎ニ部隊衛兵ヲ設ケ直接ノ警戒並監視ニ任セシム。
- (ニ) 對空監視哨及對空射擊部隊 各舍營地防空ノ爲ニハ各舍營區毎ニ一若ハ數個ノ對空監視哨ヲ備ヘ舍營日直將校指揮ノ下ニ上空ノ監視ニ任セシムルノ外、要スレバ對空射擊部隊ヲ指定シ敵航空機ノ來襲ニ備フ。
- (ホ) 各人ノ警戒 舍營ニ於テハ各人ハ特ニ武器及裝具ヲ整頓シ、繼ヒ暗黒中ト雖速ニ

陣中勤務

—(二九五)—

武装ヲ整ヘテ出發シ得ル如ク注意シアルヲ要ス、又警戒ヲ必要トスルトキハ燈火ハ勉メテ上空ニ對シ火光ノ洩レザル如ク掩覆スルヲ要ス、此ノ如キ場合ニ於テハ警報及之ガ解除ノ外一切號音ヲ用ヒザルモノトス。

3、警報

(イ) 種類 舍營間ニ於ケル警報ヲ分チテ非常警報、飛行機警報及瓦斯警報ノ三トシ各號音ヲ吹奏シ、或ハ信號ヲ爲ス。

又一部隊ヲ速ニ使用シ得シガ爲、號音或ハ信號ヲ用フルコトナク、警急集合ヲ爲サシムルコトアリ。

(ロ) 警報ノ責任者 非常警報ハ上級先任ノ將校或ハ舍營司令官、飛行機警報及瓦斯警報ハ舍營司令官、或ハ舍營日直將校之ヲ命ズルモノトス、若事件突發シ猶豫セバ不利、危殆ニ陥ルベキ場合ニハ舍營衛兵、對空監視哨及各將校ハ身ヲ以テ責ニ任ジ速ニ此ノ號音ヲ吹奏シ或ハ信號セシムルノ義務ヲ有ス。

(ハ) 非常警報ノ際ニ於ケル動作 非常警報アルトキ下士官、兵ハ武装ヲ整備シ先ヅ小隊(分隊)砲車、彈藥車毎ニ集合シ然ル後歩兵ハ速ニ其中隊ノ集合所ニ集合シ更ニ其警急集合場ニ行クカ、若ハ各隊速ニ豫メ指示セラレタル地點ヲ守備ス。

舍營衛兵、部隊衛兵及對空監視哨ハ舍營日直將校或ハ部隊日直將校、下士官ヨリ受ケタル命令ニ從ヒテ動作ス。

(ニ) 飛行機警報ノ際ニ於ケル動作 飛行機警報アルトキハ特別任務ニ在ルモノノ外ハ直ニ所在ノ掩蔽物ヲ利用シ夜間ハ特ニ火光ノ漏洩ニ注意シテ上空ニ對シ遮蔽シ、別命アル迄之ヲ繼續シアルモノトス。

(ホ) 瓦斯警報ノ際ニ於ケル動作 瓦斯警報アルトキハ直ニ防毒覆面ヲ裝シ別命アル迄之ヲ繼續スルモノトス。

其三 露 營

1、露營地ノ選定

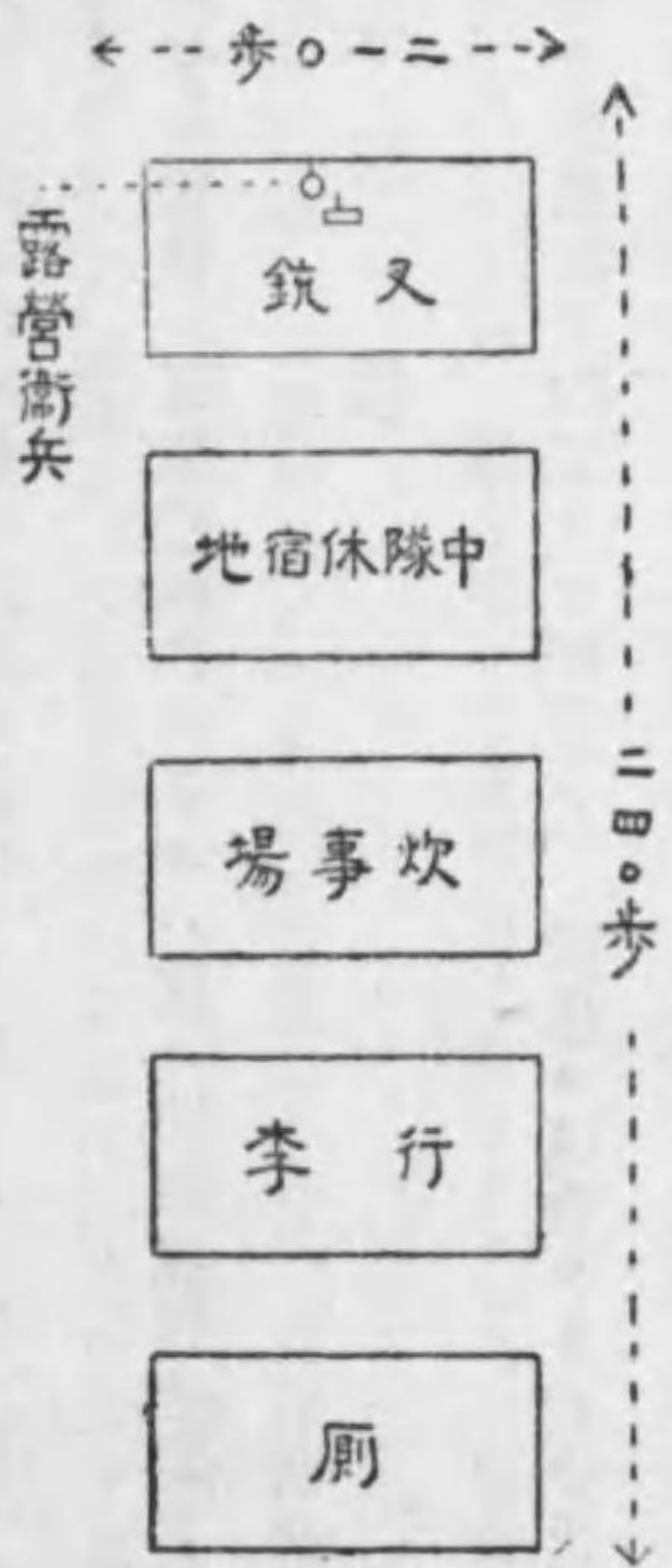
露營地ハ戰術上ノ要旨ト休養上ノ利便トヲ顧慮シ、狀況ニ適合スル如ク之ヲ選定セザルベカラズ。

(イ) 戰術上 敵方並ニ上空ニ遮蔽シ敵ノ飛行機又ハ長射程砲ノ攻撃目標トナリ易キ土地ヲ避ケ且速ニ集合若ハ出發シ得或ハ豫定陣地ヲ占領スルニ便ナル如ク露營ノ位置ト形狀トヲ選定スルニ在リ。

(ロ) 休養上 露營地ニ必須ノ條件ハ良水ヲ得ルコト、容易且十分ナルコト、其地乾燥

セルト、風雨ノ障礙ヲ得ルコト等ニシテ爲シ得レバ其近傍ニ於テ各種需要品ヲ調達シ得ルヲ可トス、凡テ健康ニ害アル地ノ露營ハ其人馬ヲ損耗スルコト戰鬪ニ於ケルヨリモ甚シキモノトス。

2、歩兵大隊露營配備ノ例左ノ如シ。



3、其他

露營ニ於ケル勤務員 警備ノ要領等ハ概ネ舍營ニ準ジテ行フモノトス。但シ警急集合場ハ特ニ之ヲ設クルコトナク通常其休息地ヲ以テ之ニ充ツルモノトス。

其四 村落露營

凡テ村落露營ノ爲指揮官及軍隊ノ行動ハ概ネ舍營及露營ニ準ズ。而シテ村落内ニ宿營スル部隊ハ其警戒法、對空處置及内部勤務ヲ舍營ニ準ジテ規定シ村落外ニ宿營スル部隊ハ露營ノ爲定メタル方法ニ從フモノトス。

第八節 飯盒炊事

一、飯盒各部ノ名稱及用途

軍用新式飯盒ハ蓋、外盒、内盒、掛盒ノ四部ヨリ成リ舊式飯盒ハ蓋、外盒、掛盒ノ三部ヨリ成ル、蓋ハ炊事ニ際シ蓋トシテ使用ノ外、汁、湯等ヲ入ル、ニ用ヒ掛盒ハ副食物ヲ入ル、ノ外之ヲ煮ルニ使用ス、又約三百瓦ノ容積アルヲ以テ米等ヲ量ルニ使用スルコトアリ。外盒及内盒ハ共ニ飯ヲ入レ又ハ飯米其他ノ食品ヲ炊クニ使用スルモノニシテ體ノ内側面ニハ二條ノ刻線アリ之ヲ水量線ト謂ヒ下方ハ約三百瓦、上方ハ約六百瓦ノ飯ヲ炊クニ際シ必要ナル水量ヲ示スモノニシテ體ハ約一、五瓩ノ容積ヲ有ス。

二、炊事班ノ編成

1、炊事ノ爲使用スル人員ハ何レノ場合ヲ問ハズ、最少限ナルヲ要ス、人員多キトキハ徒ラニ混雜ヲ來シ却テ靜肅迅速ヲ缺クニ至ル虞アルヲ以テナリ。

2、今中隊ノ人員百二十名トシ炊事班部署ノ一例ヲ示セバ左ノ如シ。

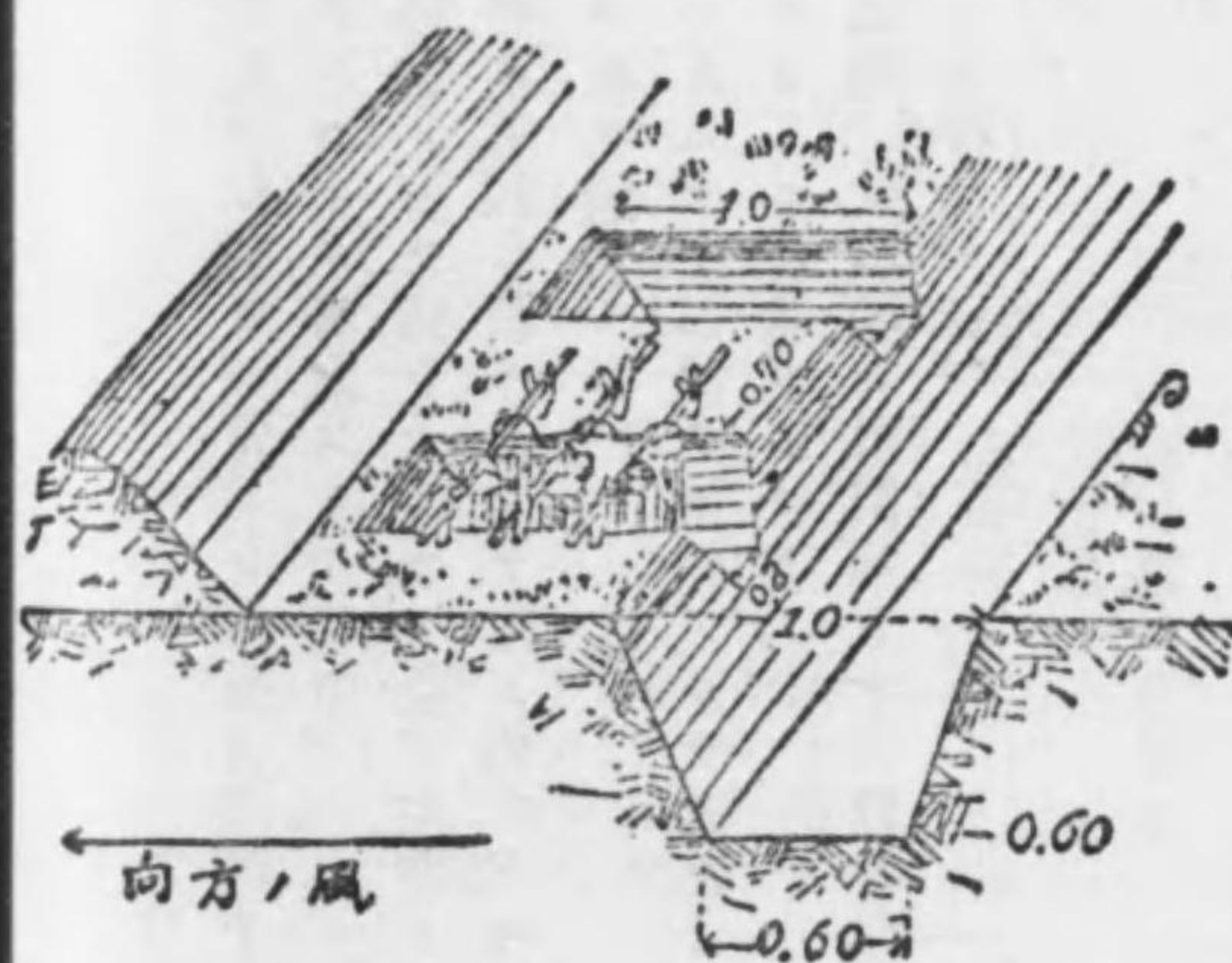
長	將	校	又	ハ	准	士	官	備	考
糧秣	受領班	洗米班	煮沸班	兵	下士官一	兵	六	一、各飯盒二食分ヲ炊爨スルモノトス 二、服裝ハ長以下當時ノ狀況ニ依リ適宜之ヲ定ム 三、水筒ニ依リ煮沸セル湯茶ヲ供給スル場合及副食物ヲ煮沸スル場合ニハ適宜人員ヲ増加スルコトアリ	一、糧秣分配所トノ距離遠キトキハ尙所要ノ人員ヲ増加スルコトアリ 二、下士官ハ通常給養掛下士官之ニ任ズ 一、洗米班ノ人員ハ最少限六名ニ減ズルコトヲ得 二、算定基準ハ一人ニテ携行シ得ル飯盒ノ最大限ヲ以テス 一、土質之ヲ要スレバ人員ヲ増加スルコトアリ兵各人小圓匙小十字鏝若干ヲ携行セシムルコトアリ 二、壕ニ掛ケル棒又ハ焚付材料ノ蒐集ノ爲尙若干増員ヲ要スルコトアリ 三、炊事ノ實施ニ當リテハ一壕ニ付二名トス但シ小隊毎ニ一壕ヲ設ケタル場合ト假定ス
班別人員	兵 六	下士官一 上等兵一 兵 八	下士官一	兵 六	下士官一	兵 六	計 二四	同上差出區分及計	同上差出區分及計
摘要	各小隊ヨリ概ネ 下士官 上等兵 兵 一 將校又ハ准士官ハ 下士官ヲ以テ下士 官ハ上等兵ヲ以テ 充ツルコトヲ得	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

三、炊事ノ實施

- 1、洗米
 - (イ) 給水 班長ハ區署ヲ適當ニシ迅速且混雜ヲ來サザル如クシ特ニ水ヲ節約スルノ習慣ヲ養成スルコトニ着意スルヲ要ス。
 - (ロ) 洗米ハ飯盒ノ蓋ヲ爲シタルマ、上下左右ニ強く振動ス。
 - (ハ) 水加減ハ水量線ニ依リテ之ヲ定ム然レドモ米麥混合ノ場合ニハ精米ニ比シ約十分ノ一増加スルヲ適當トス。
 - (ニ) 飯盒ハ一人ニテ十二個ヲ運搬スルヲ通常トス、而シテ何レノ場合ニ在リテモ水ヲ洩ラサザルコトニ注意スルヲ要ス。
- 2、炊事壕ノ構築 炊事壕ハ附圖第五十九圖ニ示ス要領ニ依ルヲ適當トスルモ應用ノ壕ヲ利用スルコト少カラズ。

陣中勤務

圖九十五第
(一 其)



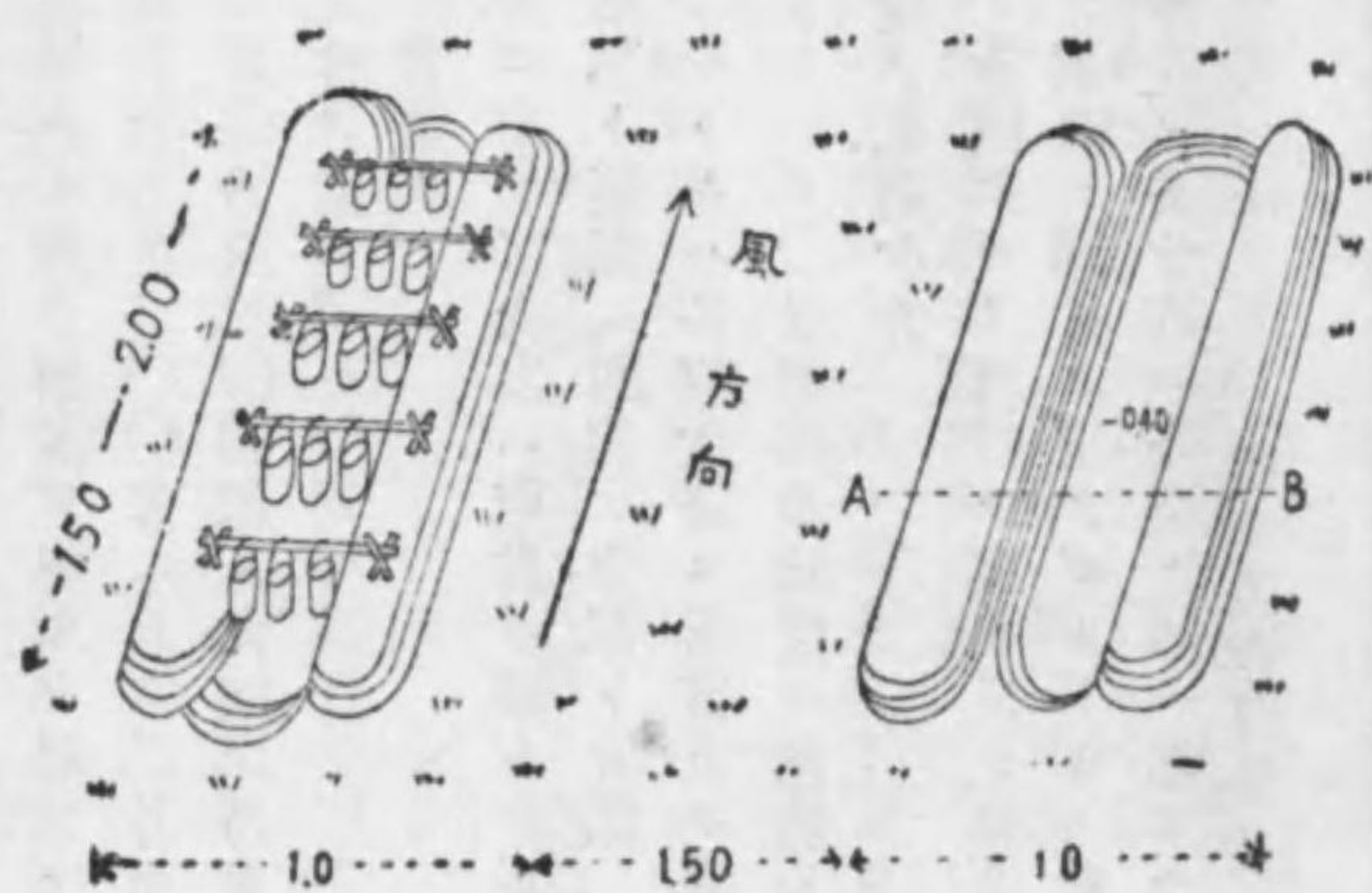
—(11011)—

備考

- 1、上空地上ヨリスル敵ノ視察ニ對シ遮蔽シアルコト
- 2、炊壕ノ中間間隔ハ最少限一米五〇種ナルコト

(二 其)

陣中勤務



面斷、A B



(強風時)
風方向

備考

- 飯盒ヲ懸クベキ材料ハ通常長サ一米中徑四種以上ノ生木ヲ適當トス

—(11011)—

3、燃料 燃料ハ木炭及薪炭ヲ使用シ而シテ三食分ノ燃料ノ標準概ネ左ノ如シ。
 木炭 一五〇乃至二〇〇匁(五六二乃至七五〇瓦)
 薪炭 二五〇乃至三〇〇匁(九四二乃至一一二五瓦)
 尙若干ノ焚付ヲ要ス。

4、焚キ方

燃料ノ如何ニ拘ラズ火力ハ相當ニ盛トナルニ至ラザレバ飯盒ヲ懸ケザルヲ可トス。
 飯盒ハ其腹部ト腹部(凹部)背部ト背部(凸部)互ニ向キ合フ如ク懸クルヲ適當トス
 此ノ如クスルトキハ各飯盒間ニ適當ナル空隙ヲ存シ火力ヲ平等ナラシメ煮ヘ方ニ運速
 ヲ生ズルコトナク、又燃料及時間ヲ節約シ得ルノ利アリ。

5、煮沸程度ノ見別ケ方

(イ) 飯盒ノ接隙部ヨリ泡汁ヲ吹き出シ終リタルトキハ概ネ煮沸セルトキナリ。
 (ロ) 飯盒ヲ顛倒シ糊汁ノ出デザルトキハ煮ヘタルノ證ナリ。
 (ハ) 細キ木片(長サ約一米突)ノ一端ニテ飯盒蓋ノ上部ヲ叩キ其音ニヨリ煮熟ノ判定
 ヲ爲スモ其一法ナリ、即チ其音響最初ハ憂々タルモ煮熟スルニ從ヒ音響重ク低下シ
 「ボン、ボン」ト云フ音ヲ發スルニ至ルモノナリ。

6、煮沸ニ要スル概略ノ時間
 薪ヲ使用スルトキ 一食分 約十分乃至十五分
 二食分 約二十分

木炭ヲ使用スルトキ 一食分 約二十分
 二食分 約三十分

7、煮沸終リタル飯盒ニ對スル注意

(イ) 焚火上ヨリ取り上ゲタル後蓋ヲ下方ニシ、地上ニ約十分間顛倒シ置クトキハ善味
 ナリ。
 (ロ) 飯盒ノ熱氣アル際ニ青草ニテ外部ヲ拭淨スルトキハ、燻燒セル部分ノ除去容易ナリ。

第九節 携帶天幕ノ使用法

一、携帶法及着裝法

I、兵員一人ノ携帶スベキ材料ハ幕布一、支柱二節、控杭二個及張綱一トス、而シテ支
 柱ト控杭トヲ揃ヘテ之ヲ張綱ニテ結束シテ蕊ト爲シ幕布ニテ卷キ之ヲ背囊、背負袋、
 鞍等ニ附着携帶ス。

携帶天幕ヲ雨覆代用ニ着裝スルニハ第六十圖ニ示ス如ク着用ス。

第十六圖

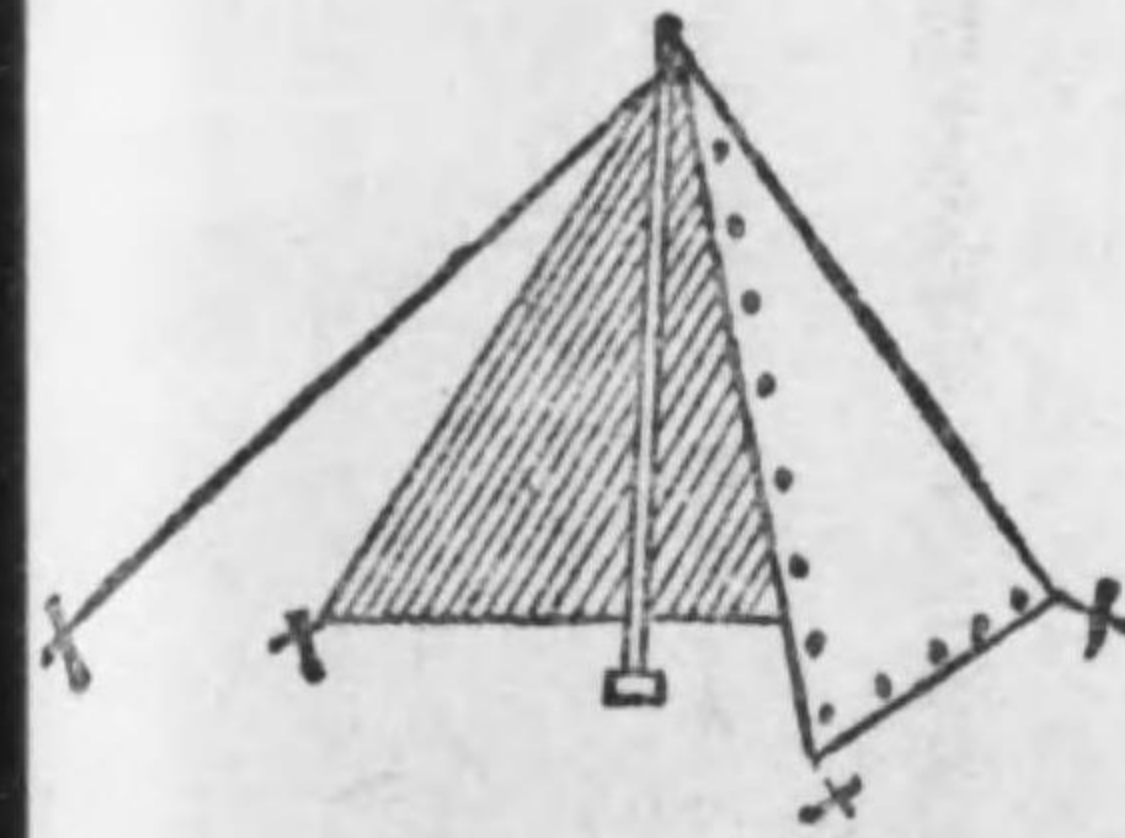


二、幕舎ノ構築法

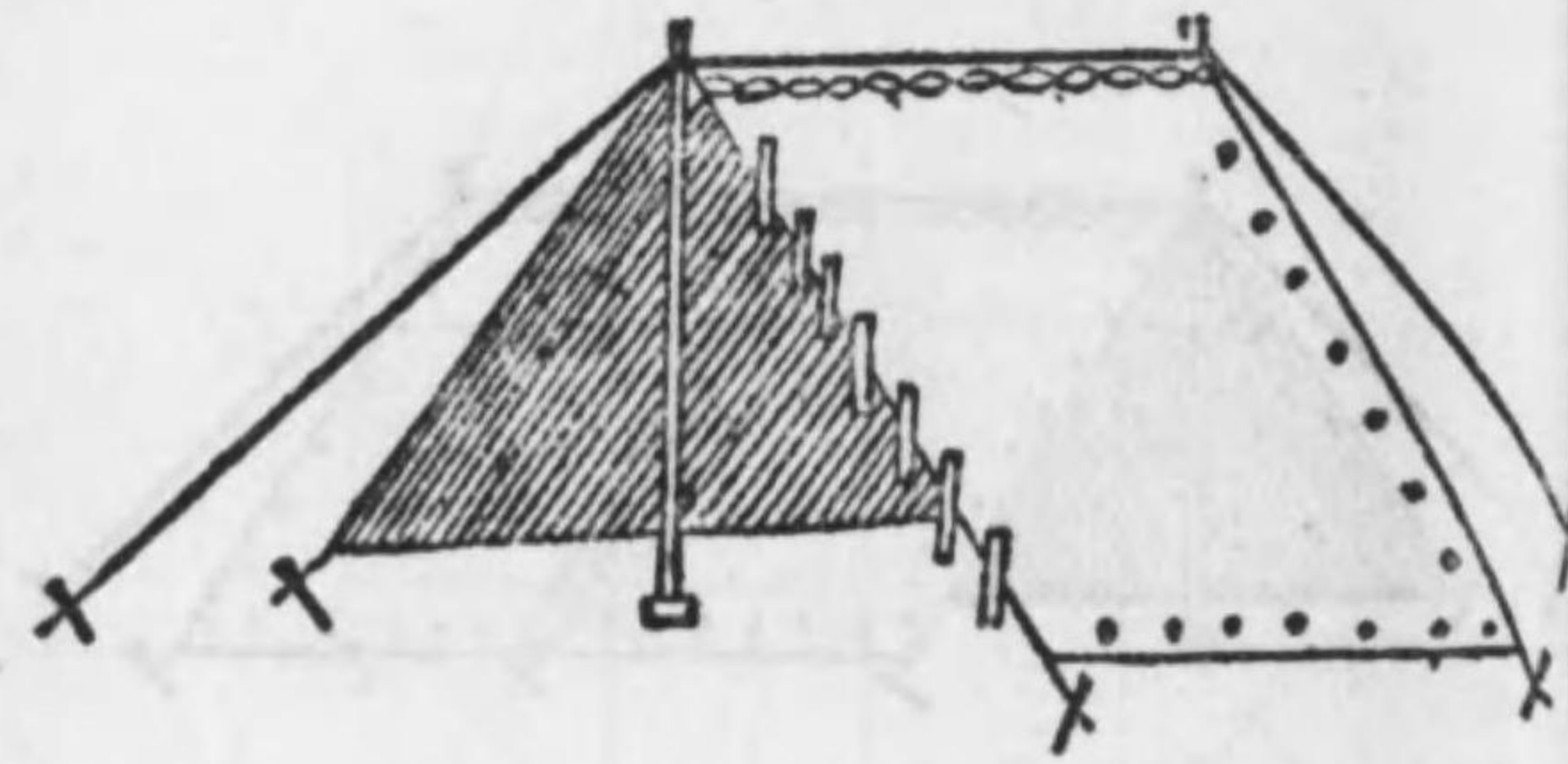
1、幕舎ノ構築ハ使用シ得ベキ幕布數及收容スベキ人員等ニ依リ種々ノ形狀アリ、其例第六十一圖ノ如シ。

第十六圖

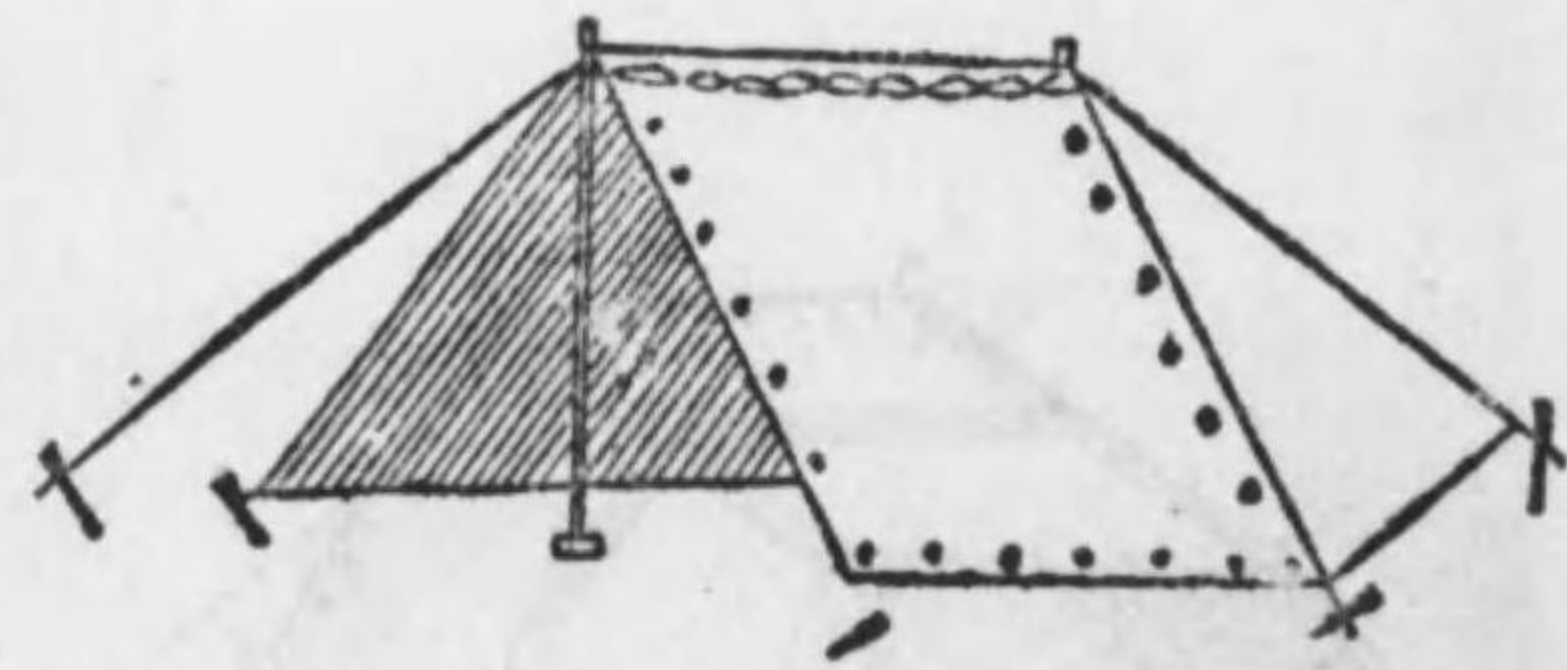
幕舎一枚 (一其)



幕舎二枚 (二其)

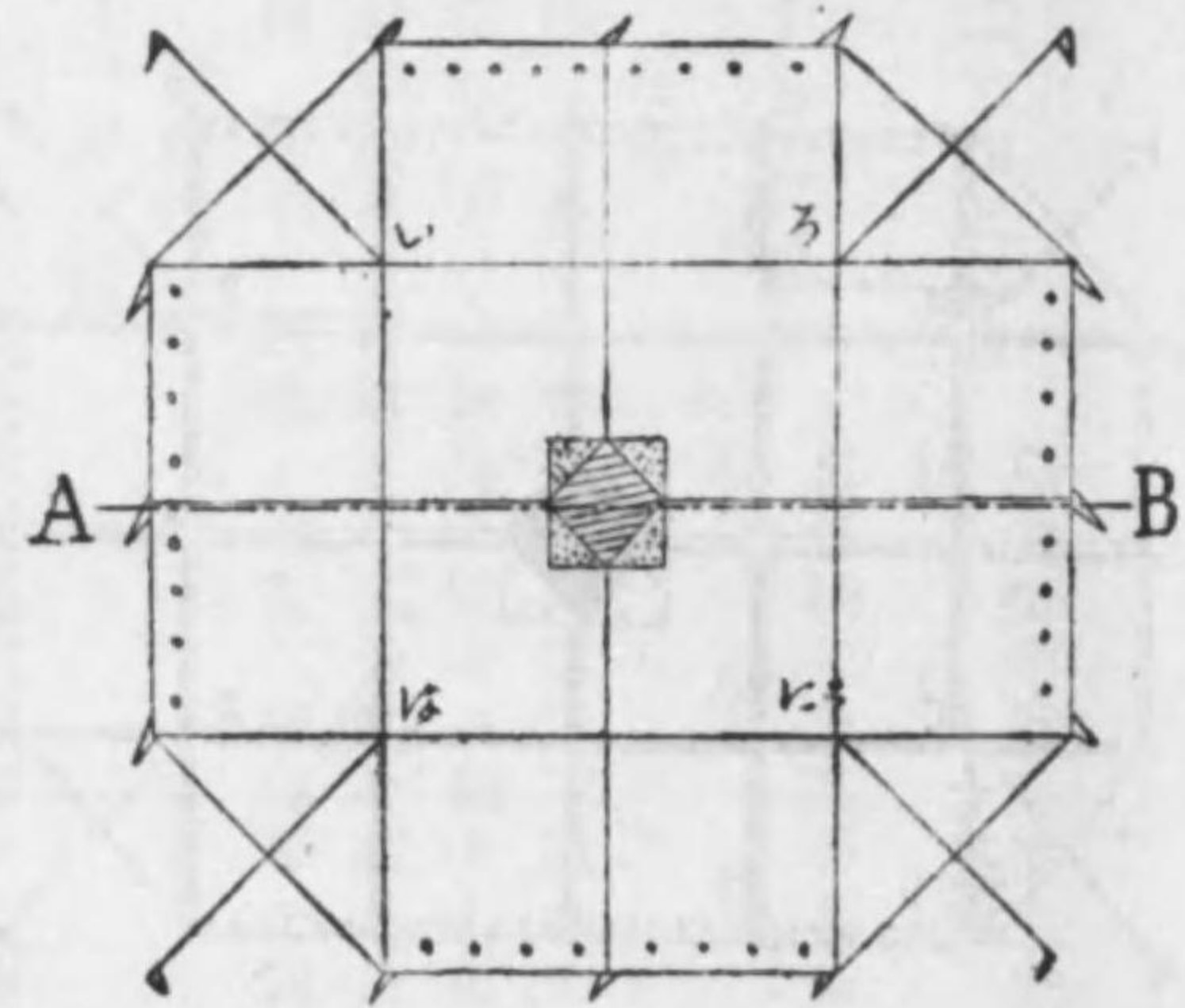


幕舎三枚 (三其)

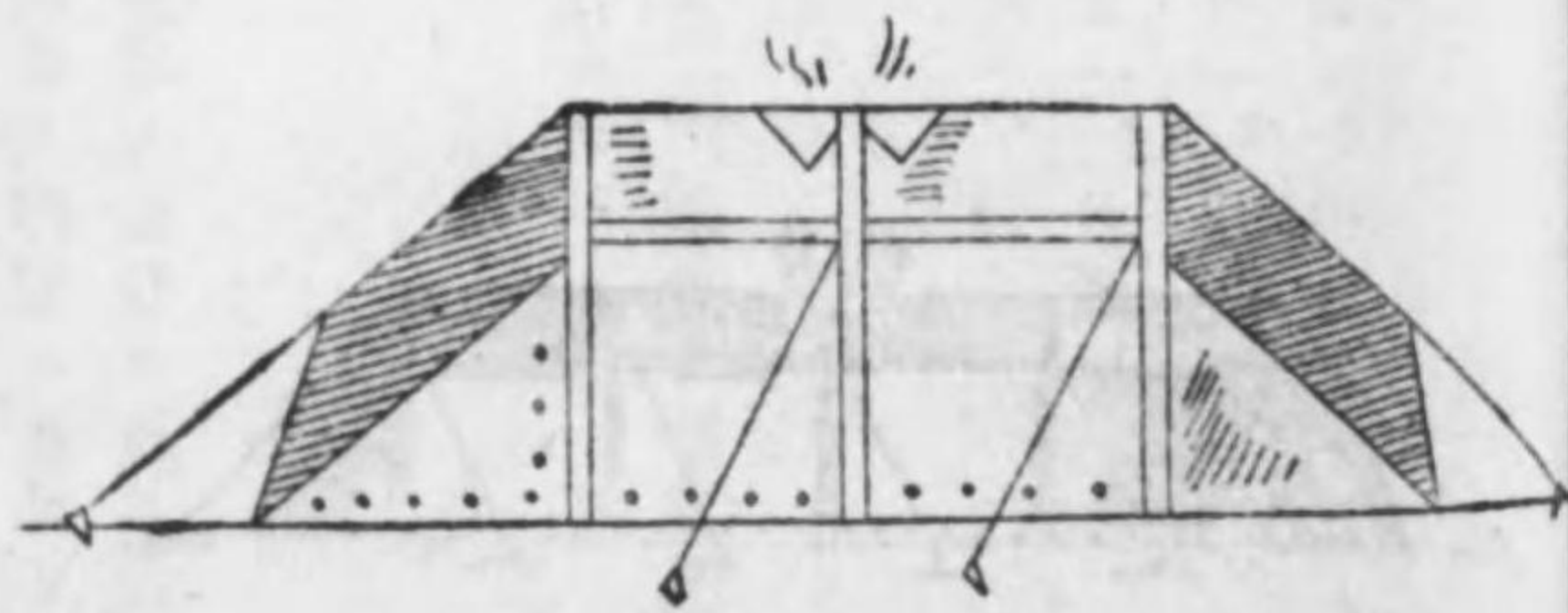


鋭角トナシ風ノ來ルベキ方向ニ對セシム

舍幕枚六十 (六其)



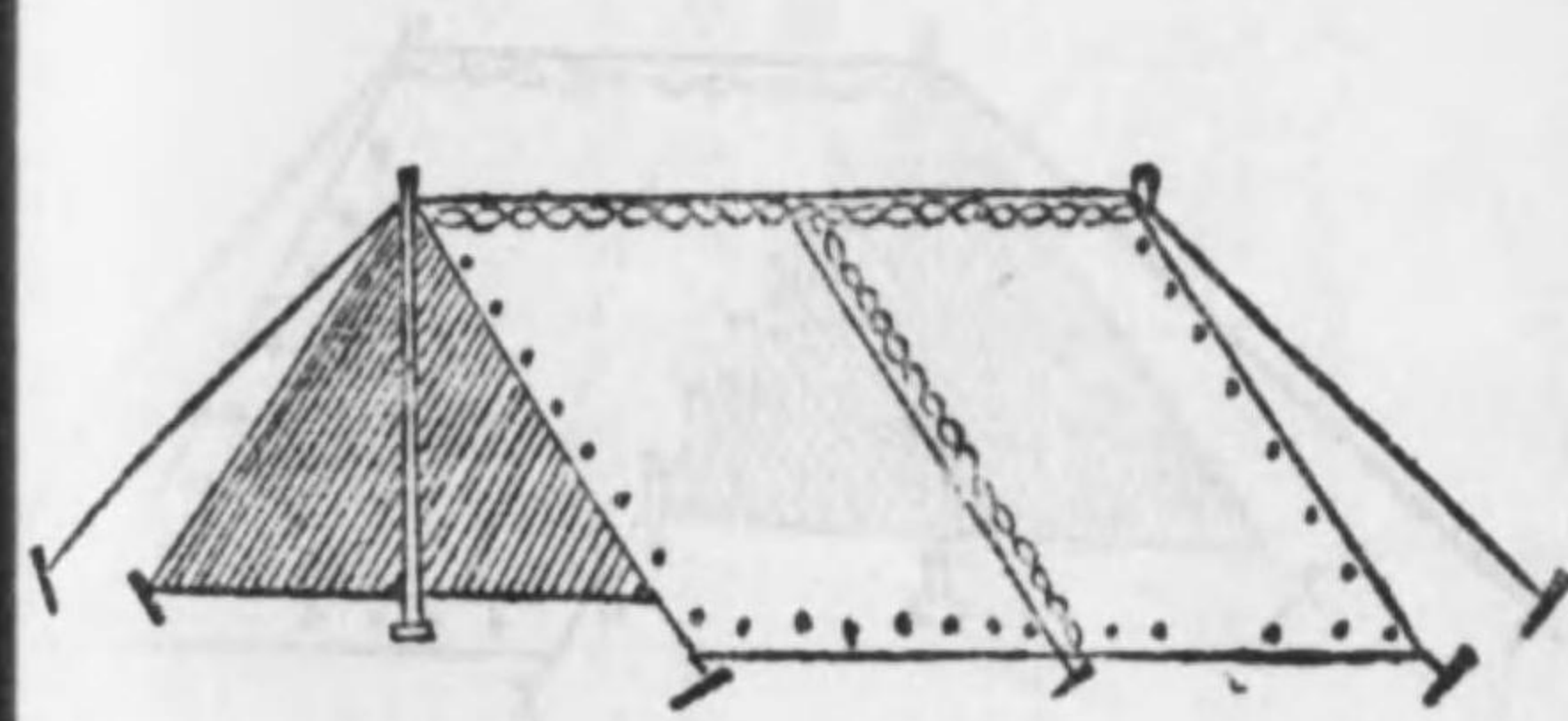
上 同
圖 面 斷 A B



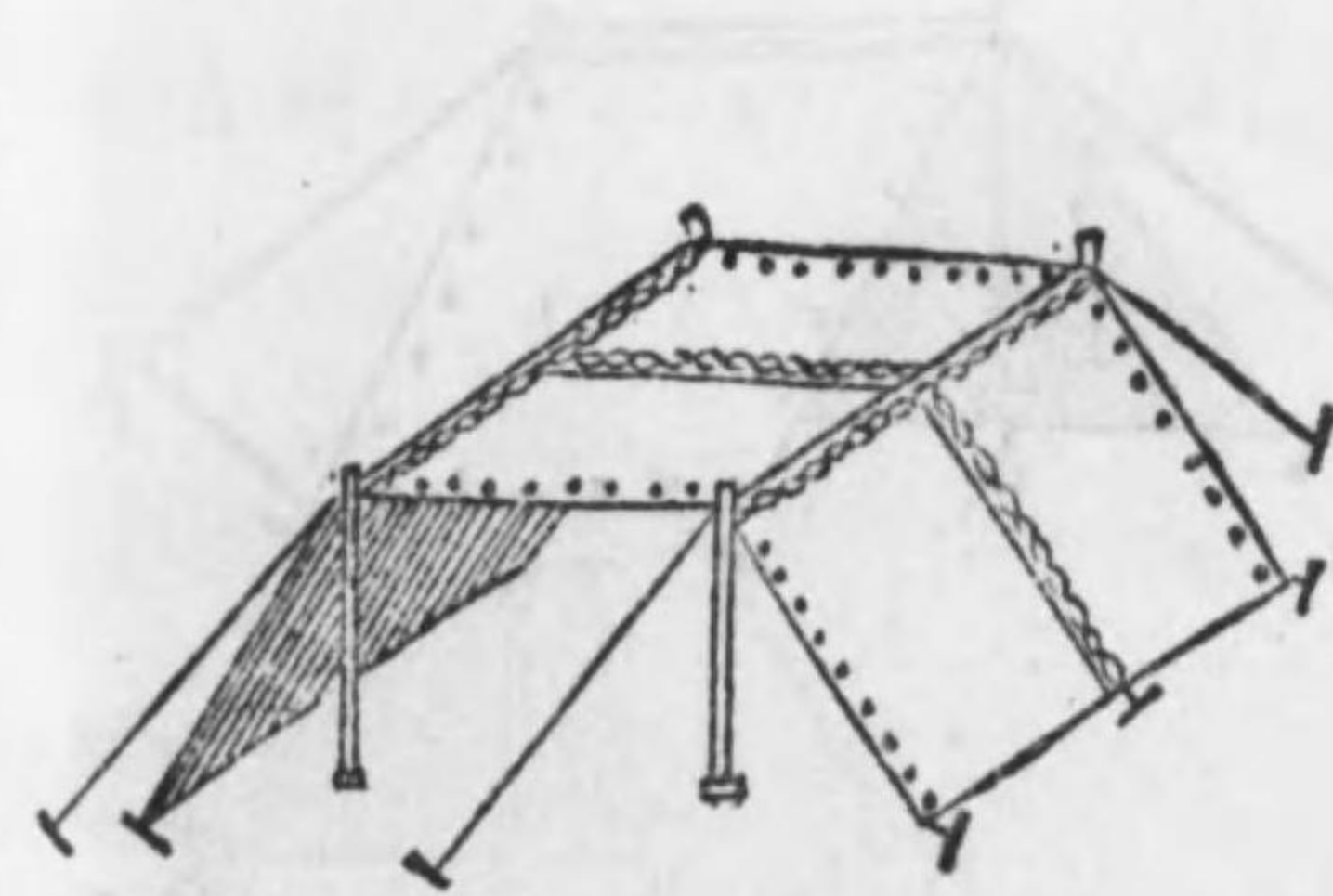
—(三〇九)—

陣中勤務

舍幕枚四 (四其)



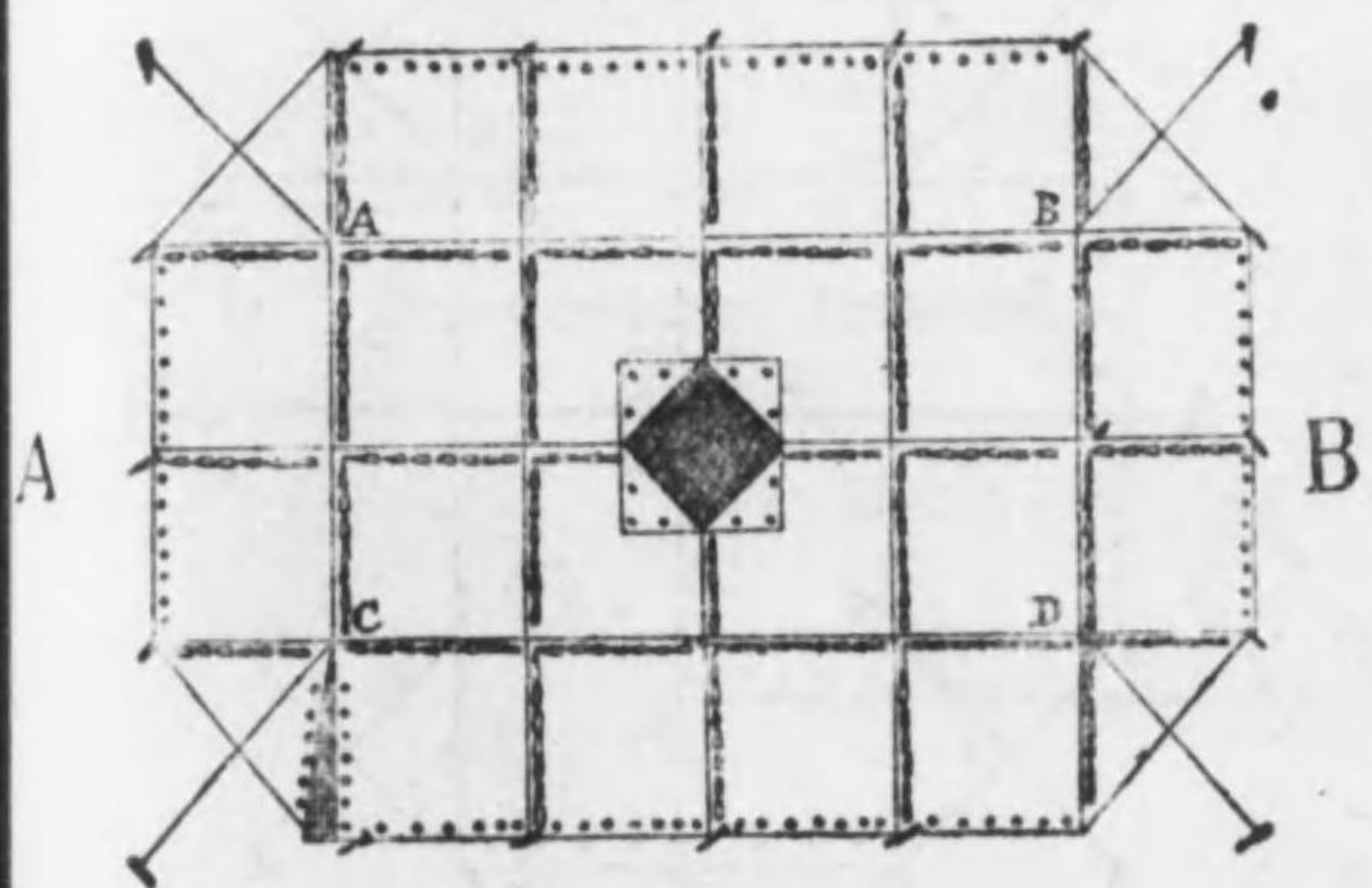
舍幕枚六 (五其)



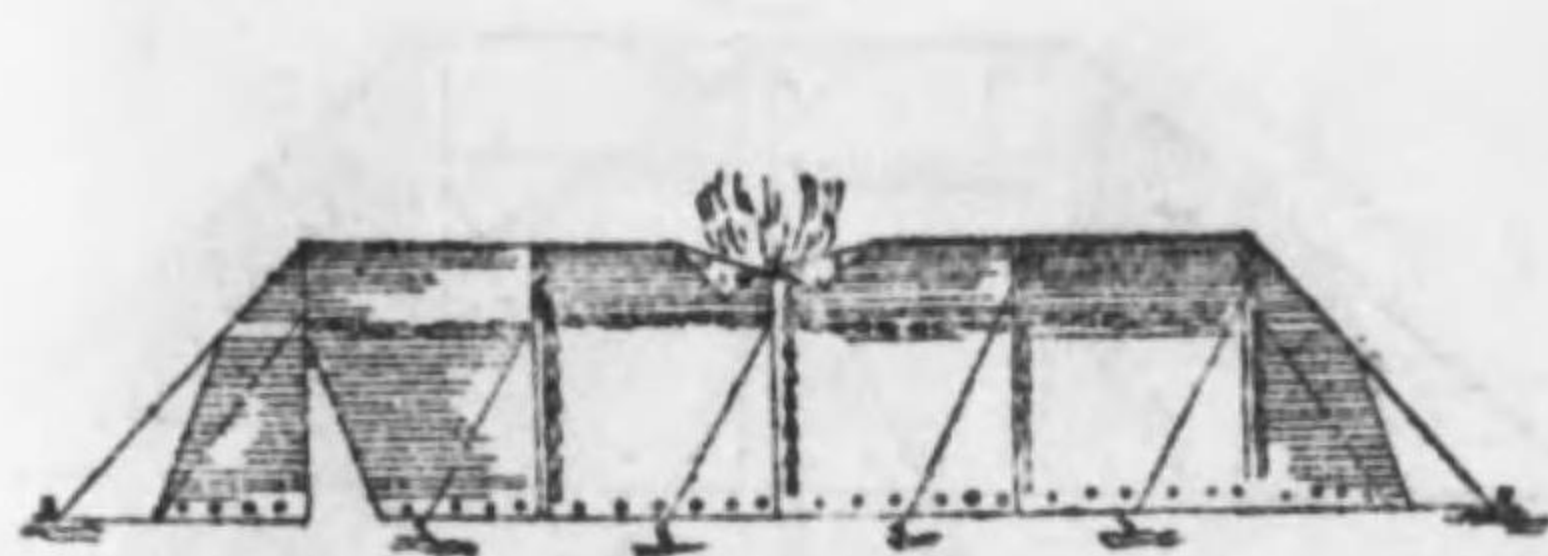
—(三〇八)—

陣中勤務

舍幕枚四十二 (七具)



上 同
圖 面 斷 A B



—(三二〇)—

3、幕舎構築及撤收ニ關スル指揮ノ一例左ノ如シ。

(イ) 人員

二十四枚幕舎

幕舎掛作業長兼幕舎掛長
材 料 掛 長

下士官一、作業手一二

十六枚幕舎

幕舎掛作業長兼幕舎掛長
材 料 掛 長

下士官一、作業手八
上等兵一、助手二

(ロ) 任務

作業長 兵ヲ指揮シ構築、撤收ヲ確實迅速ニ實施セシム。

作業手 作業長ノ號令ニ依リ天幕ノ接合、張幕、張綱、撤收ヲ確實迅速ニ實施ス。

材料掛長 材料ノ受領分配ヲ掌リ取扱及保管ヲ確實ニス。

同 助手 屬品ノ運搬、接合等ヲ爲ス。

(ハ) 構築法

1、準備

(a) 各作業手ニ天幕二組宛ヲ携帶セシメ幕舎構築等ノ位置ニ風ノ方向ヲ顧慮シテ

作業手ヲ右翼ニ材料掛助手ヲ其左翼トシ距離四歩ノ構隊ニ集合セシム。

陣中勤務

—(三二一)—

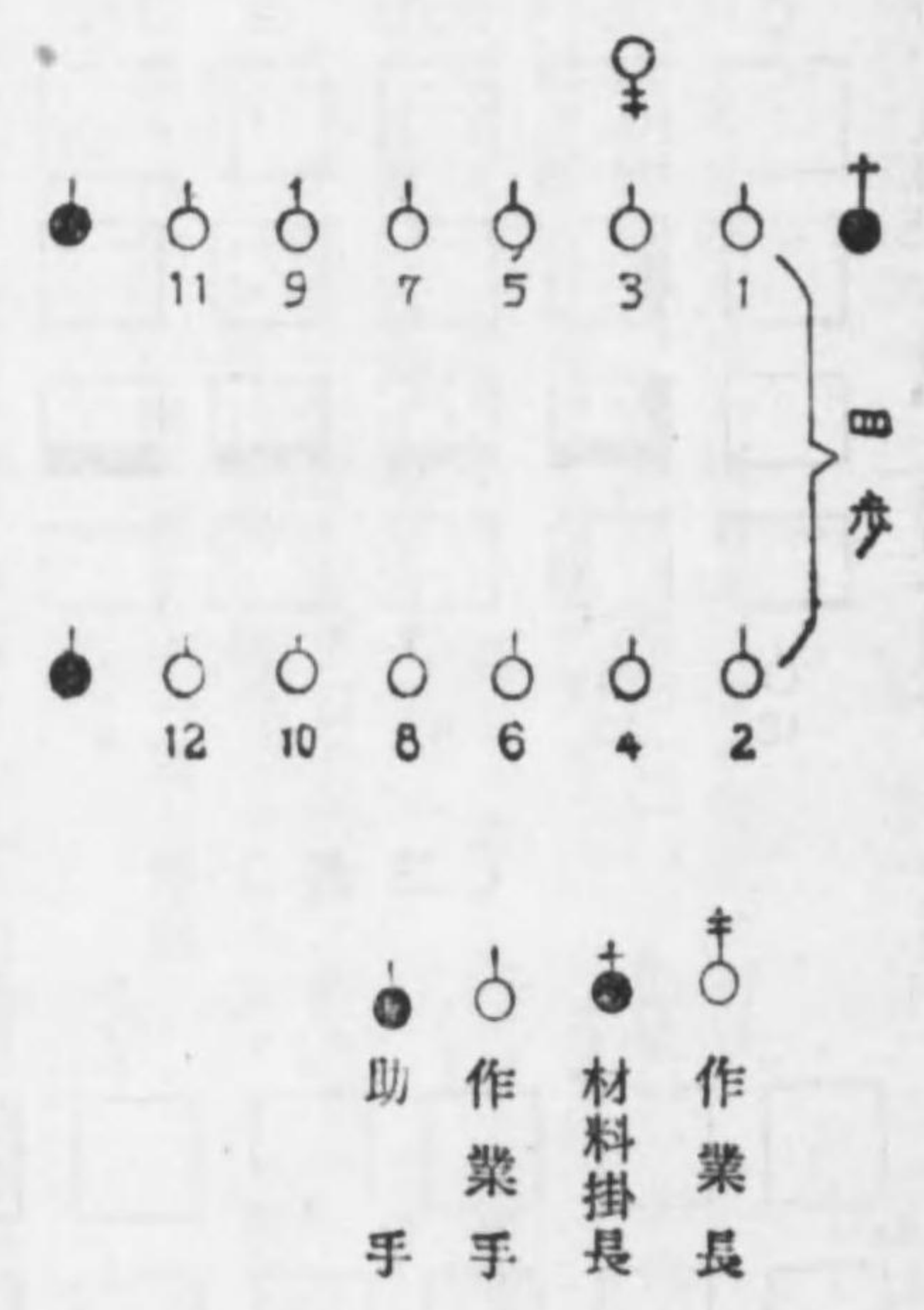
(c)(b) 天幕ヲ解カシメ屬品ヲ材料掛助手ニ渡シ準備ヲ爲ス。
材料掛ハ屬品ヲ左翼ヨリ逐次集メテ隊ノ右翼五歩ニ集積之ガ分配及杭打用、
支柱用石ノ準備ヲ爲ス。

即チ四節柱 三本、三節柱 十二本、控杭 十八本、杭打石 十二個、支柱用
石 十五個

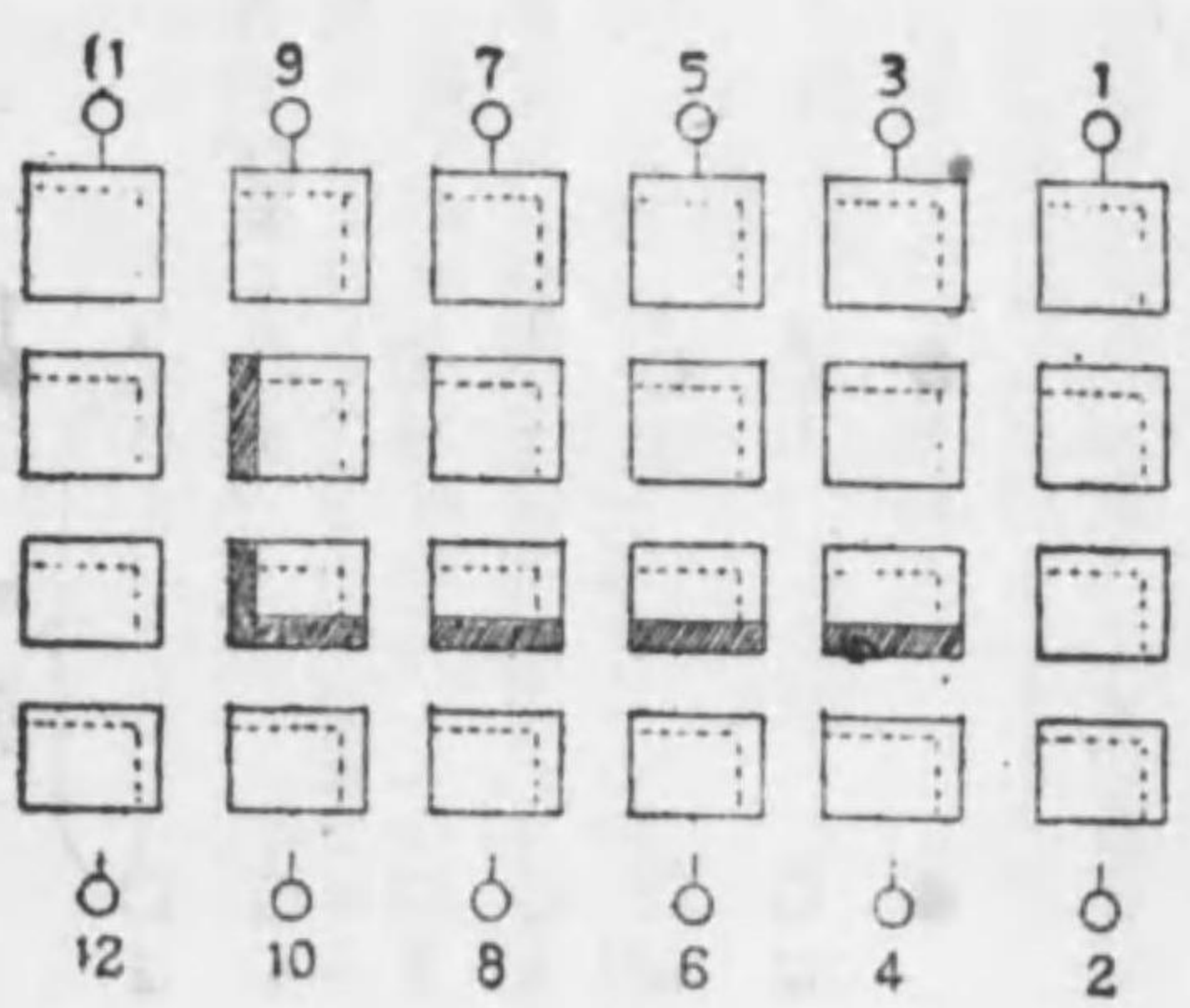
II、實施(作業長ノ下ス號令ノ一例、第六十二圖參照)

(d)(c)(b)(a) 前後列ノ順序ニ番號(第六十二圖其一)
一番基準間隔二步開ケ
表チ上ニ鳩目ヲ前方ト右側トニ在ル如ク天幕ヲ敷ケ
前列四歩前へ廻レ右

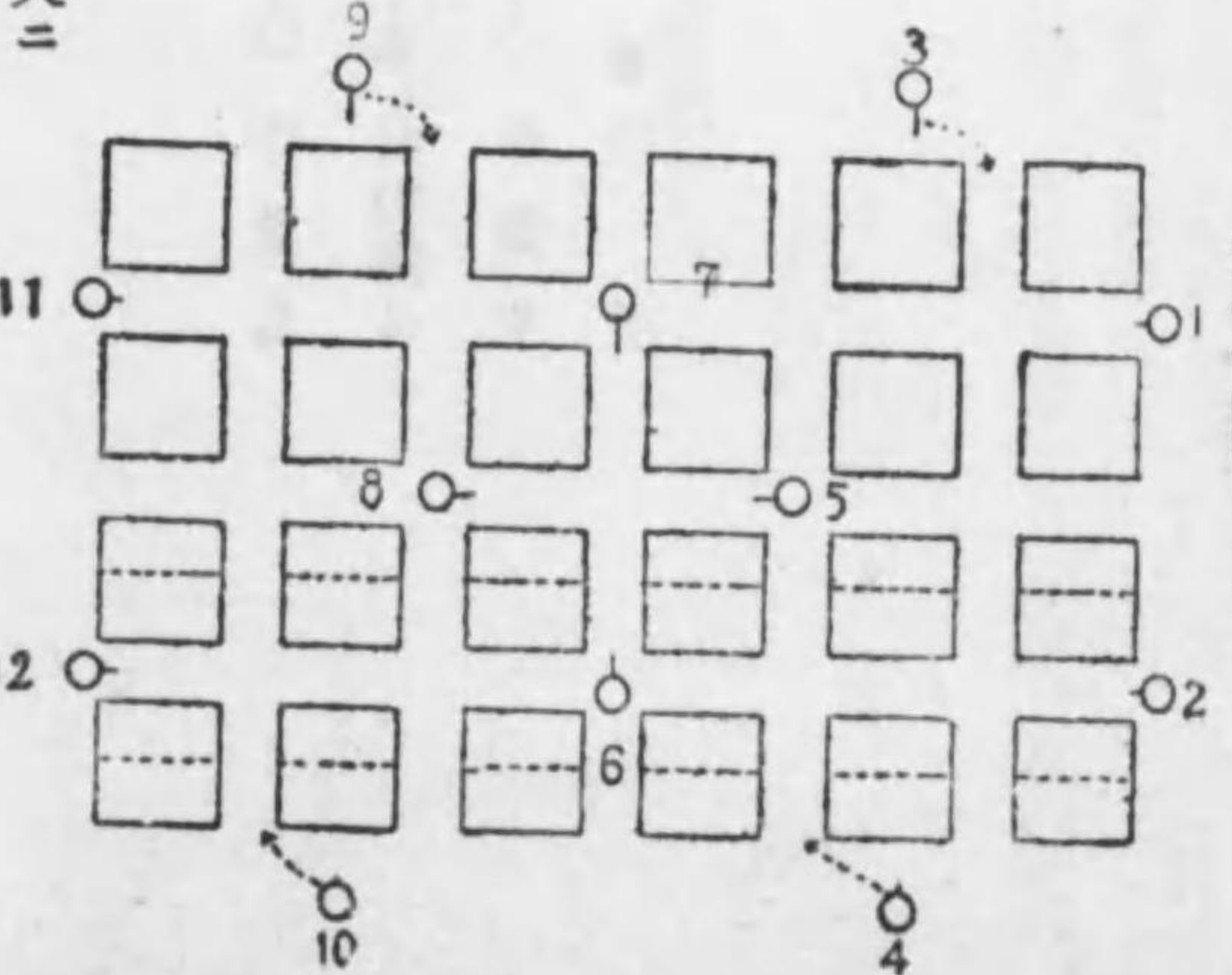
圖 二 十 六 第
(一 其)



(二 其)



(三 其)



(f) 五番、八番、六番、七番各向合ヒテ中央ニ
 一番、十一番、二番、十二番各向合ヒテ外側ニ集レ (第六十二圖其三)
 天幕テ繼ゲ (此ノ際作業長ハ出入口ノ位置、要スレバ排氣孔ノ位置大キサ等

ニ關シ所要ノ指示ヲ與フ)

繼ギ終レバ天幕ノ位置、形狀ヲ正シタル後天幕ノ外側ニ位置

(g) 材料掛ハ控杭チ一、二、三、四、十一、十二番ニ二本其他ニ一本宛及杭打石
 ナ配レ

四角ハ其位置其他ハ鳩目ノ三ツニ控杭ヲ打テ

材料掛ハ四、六、八番ニ。四節柱一、三節柱一、其他ニハ三節柱一ヲ配レ

材料掛ハ兩入口ニ到リ天幕ヲ掲ゲ

六番迄其入口 (指示シテ) 其他ハ他ノ入口ヨリ支柱及敷石ヲ以テ幕舎ニ入レ

支柱ヲ三節、四節ノ順序ニ立テ

一、二、十二番ハ支柱ノ線ヲ直セ其他ハ外ニ出ヨ

三、四、九、十番ハ張綱ト控杭トヲ以テ要スレバ幕舎ノ強度ヲ増ス。

材料掛ハ殘餘ノ材料ヲ幕舎ノ一隅ニ整頓

陣中勤務

撤收法

(b)(a) 六番迄ハ右入口ヨリ、七番ヨリハ左入口ヨリ幕舎ニ入レ
 三節、四節ノ順序ニ支柱ヲ脱セ

(j) X (i) X (h) X (g) X (f) X (e) X (d) X (c)

支柱ヲ材料掛ニ渡シ幕舎ノ外側ニ位置セヨ
 控杭ヲ抜き張網ヲ解ケ
 控杭ト張網ヲ持テ
 材料掛ハ受領セヨ
 天幕ヲ解ケ
 天幕ヲ二枚宛持ツテ距離四歩ノ横隊ニ集レ
 材料掛ハ屬品ヲ分配セヨ
 天幕ヲ巻ケ

三、幕舎構築上ノ注意

- 1、作業ハ最モ解雇迅速ナルヲ要ス
- 2、作業軍紀ヲ嚴肅ニシ物品ノ紛失破損等ノ無キ様殊ニ使用セザル天幕屬品等ノ整頓ヲ忘却スベカラズ。
- 3、凡テ幕舎ハ風ノ方向ヲ顧慮シ、且天蓋布ノ接合部ハ雨雪風等ノ浸入ヲ防ギ得ルヲ要ス。
- 4、天幕携行ノ際ハ検査ヲ行ヒ組網ノ不足、連絡部ノ具合、支柱甲乙ノ割合(一ト二ノ

比)及組合等ノ點檢ヲ行フヲ要ス。

5、支柱ノ下端ニハ地中ニ埋没セザル如ク石、瓦等ヲ置クヲ可トス。

6、張網ハ交通ヲ妨害セザル如ク注意シ、殊ニ夜間ニ於テ躓キ轉倒スル者ナキ様標識ヲ爲スヲ可トス。

7、天幕ノ材料ハ燃燒シ易キヲ以テ火氣ニ對シ十分ニ注意スルヲ要ス。

第十節 鐵道輸送

其一通則

一、要旨

鐵道ハ船舶ト共ニ用兵上必須ノ要素ニシテ軍ノ集中、移動、軍需品ノ輸送等皆主トシテ之ニ依ラザルベカラズ。殊ニ現今大軍ノ運用ハ此等ノ運輸機關ヲ離レテ之ヲ遂行スルコト殆ト不可能ナリ。

二、輸送機關ニ對スル注意

輸送機關ノ組織及業務ハ極メテ複雑ニシテ一局部ノ故障モ累ヲ全局ニ及ボスコト多シ、故ニ被輸送部隊ハ常ニ豫定ノ計畫及規定ニ依リ整正ニ動作シ決シテ發車ヲ遲延セシムルノ原因ヲ惹起シ或ハ遲延セシムルガ如キ請求ヲ爲スベカラズ。

三、列車ノ種類

軍隊輸送ハ通常軍用列車ニ依ルモ時宜ニ依リ、普通列車ノ一部ヲ利用シ又ハ一般乗客ト混乗スルコトアリ。

四、輸送指揮官

各列車ニ於ケル被輸送部隊ノ上級先任ノ將校ハ之ヲ輸送指揮官トス。輸送指揮官ハ乗下車及輸送途中ノ取締ニ任ジ且給養ニ關スル事項ヲ區署ス。

五、停車場司令官

重要停車場ノ整理、軍機ノ保護及搭載卸下ニ關スル業務並ニ之ガ實施ノ監督等ニ任セシムル爲停車場司令官ヲ設クルモノトス。

六、各隊長ノ責任

列車内ニ於ケル各部隊ノ軍紀風紀ノ維持、諸法則ノ實施等ハ各隊長ノ責任トス。

其二 乗下車

一、乗車

1、軍隊ハ停車場司令官ノ規定並ニ同官ト協議決定シタル所ニ從ヒ、自ラ乗下車ヲ行フ

モノニシテ輸送指揮官ハ將校若ハ下士官ヲ以テ通常人員、馬匹、材料毎ニ搭載(卸下)掛テ設ケ之ガ實施ニ任セシムルモノトス。

2、下士官、兵ハ輸送指揮官若ハ搭載掛ノ下ス「乗車」ノ號令若ハ「前へ」ノ號音ニ(停車場内ニ於テハ小笛ヲ用フルコトヲ禁ズ)ニ依リ靜肅迅速ニ且順序正シク乗車スルモノトス。

3、乗車前通常背囊(背負袋)ヲ脱シ且混雜ヲ避クル爲搭載掛ハ車輛ノ種類及設備ニ應ジ各兵ノ占位順序及裝具ノ整頓法ヲ乗車前豫メ示シ置クヲ必要トス。

4、武器及脱シタル裝具ハ車輛ノ種類、入口ノ大小及車内設備ノ如何ニ應ジ各人携帶乗車シ或ハ使役兵ヲ用ヒテ豫メ之ヲ搭載ス。

二、輸送中ノ心得

1、輸送指揮官ハ列車中ノ各車輛ヲ各將校ニ配當シ、輸送中之ガ監視ニ任セシム此將校ハ配當セラレタル、各車若ハ其車中ノ各室ニ於ケル上級先任者ニ其取締ヲ命ジ又下士官、兵ニ各自ノ乗車スル車輛ヲ記憶セシム。

2、輸送指揮官ハ停車場中將校、下士官ヲシテ監視兵ノ勤務ヲ監督セシメ又列車ヲ巡檢シテ車内ノ整頓、積載物品ノ固定、人馬ノ狀態特ニ馬匹保護ノ適否等ニ注意セシムベシ。

陣中勤務

—(三二〇)—

- 3、列車進行中ハ一般鐵道ノ規則ヲ守リ濫リニ其位置ヲ離レ又車輛ノ戸口或ハ側板上ニ踏スルヲ禁ズ。
 - 4、車窓外ニ赤布或ハ赤旗類ヲ出シ又ハ手、腕ヲ振ルガ如キ動作ハ危害ノ信號ト誤認セラレ、虞アルヲ以テ濫ニ行フベカラズ。
 - 5、頭首及手胸等ヲ車窓外ニ出スハ危險ナルヲ以テ特ニ注意ヲ要ス。
 - 6、非常ノ危害(車軸ノ折損、火災、列車分離、脱線等)ニ際シテハ先ヅ之ヲ發見シタル者ハ何人ヲ論セズ鐵道係員ノ注意ヲ喚起スルノ手段ヲ採ルベシ。
 - 7、軍用列車ニ於テ兵員全般ニ途中下車ヲ許スハ十分間以上停車スル停車場ニ限ルモノトス。但シ十分間以内停車ノ場合ニ於テモ輸送指揮官ハ必要已ムヲ得ザル者ニ限り下車ヲ許スコトヲ得。
 - 8、普通列車ニ依ル輸送ニ於テハ一般旅客ノ下車シ得ル停車場ニ於テ下車スルコトヲ得。
- 三、下車
- 1、輸送指揮官ハ通常下車停車場ノ前ニ於ケル最後ノ停車場ニ於テ下車準備ニ關スル事項ヲ命令ス。
 - 2、軍用列車、下車停車場ニ到着セバ輸送指揮官ハ停車場司令官ノ規定スルトコロニ基キ

下車ニ關スル命令ヲ下ス各部下掛チシテ其擔任業務ヲ實施セシム

下車ハ「下車」ノ號令又ハ「前ハ」ノ號音ニ依リ行フモノトス。

- 3、輸送指揮官ハ濫滞ナク下車シ且停車場ヲ速ニ退去スル爲、百般ノ手段ヲ採ルベシ殊ニ大ナル輸送ニ於テハ此ノ注意ヲ緊要トス。

第十一節 渡河及水上通過

其一 渡河

一、要領

軍隊橋梁又ハ舟筏ニ依リ渡河スルニ方リテハ之ヲ主管スル橋梁哨長又ハ通常渡河ヲ掌ル工兵將校ノ指定、區署ニ從フモノトス、故ニ部隊長ハ橋梁又ハ渡場ニ達スル前豫メ其規定ヲ知得スルコト必要ナリ。

二、軍橋ノ渡過

制規ノ材料ヲ以テ架設セル軍橋渡過ノ要領左ノ如シ。

- 1、部隊ハ通常前行軍ニ掲グル行軍ノ隊形ヲ以テシ且橋梁ノ中央部ヲ行進スルモノトス
- 2、人馬及車輛等ハ縱ヒ其前方ノ距離ヲ失フコトアルモ決シテ軍橋上ニ於テ之ヲ回復スルコトヲ圖ルベカラズ。

陣中勤務

—(三二一)—

3、中隊長及之ニ準スル者ハ當該部隊ノ軍橋入口ヲ通過シ終ル迄同所ニ在リ、又其出口ニモ監視者ヲ配置シテ部下ノ渡河ヲ監視スベキモノトス、此注意ハ凡テ軍隊ノ危険ナル場所又ハ行軍滯留シ易キ場所通過ノトキニモ亦適用ス。
 應用材料ヲ以テ架設セル橋梁又ハ在來ノ橋梁通過ニ際シテモ其強度ニ應ジ前記ノ要領ニヨリ渡河スルヲ要ス。

三、舟筏ニ依ル渡過要領左ノ如シ

- 1、指揮官ハ乗船前舟筏ノ搭載量ニ應ジ部隊ヲ區分シ且指示セラレタル規定ニ從ヒ所要ノ準備ヲ整フルヲ要ス。
- 2、順序ニ從ヒ乗船シ又上陸ニ際シテハ速ニ上陸點ヲ離レ以テ混雜ヲ豫防ス。
- 3、航行中ハ何人ト雖其位置ヲ離レ若ハ姿勢ヲ變ズルヲ許サズ、又特ニ漕手ノ動作ヲ妨害セザルコトニ注意スベシ。

四、徒歩場通過要領左ノ如シ

- 1、情況之ヲ許セバ徒歩兵ヲ先ニシ乘馬兵及車輛ヲ後ニス。
- 2、徒歩場ノ位置、幅員ヲ標示シ要スレバ救護ニ關スル處置ヲ講ズ。
- 3、流速大ナルトキハ部隊ヲ幅廣キ密集セル小群ニ分チ每群間ニ若干ノ距離ヲ存シテ通過セシムルヲ可トス。

過セシメ各兵ヲシテ水面ヲ諳視セシムベカラズ、又徒歩兵ハ手又ハ腕ヲ以テ互ニ相連結セシムルヲ可トス。

4、彈藥ノ濕潤ヲ避クル爲ニハ豫メ之ヲ背囊ニ收メシムルカ又ハ舟筏等ニ積載シテ渡過セシムルヲ可トス。

其二 水上通過

水上ヲ通過スルニハ成ルベク灰、木屑、土砂、藁等ヲ撒布シ或ハ十字鐵等ヲ以テ水面ヲ粗ニシ或ハ靴及踏鐵ニ所要ノ加工ヲ爲シ以テ人馬ノ滑走ヲ豫防スベシ、若シ抗力十分ナラザルトキハ氷厚ノ増加ヲ圖リ或ハ板、梯子等ヲ敷キ若ハ各兵ノ距離間隔ヲ疎開スルヲ要ス。

第八章 旗信號

第一節 要則

旗信號教育ノ目的ハ興味ノ間ニ記憶力及推理判斷力ヲ練磨シ空間知覺ヲ正確ナラシメ且信號ニ關スル技能ヲ附與スルニ在リ。

第二節 手旗通信

其一 要 旨

一、手旗ノ構造 手旗ハ通常縦四十三種、横四十六種ノ赤布又ハ白布ヲ木桿ニ附着シタルモノニシテ其各一本ヲ以テ一組トス。

二、通信距離 手旗通信ハ肉眼ニテ約七百米双眼鏡ヲ用フルトキハ其約二倍ノ距離ニ通信スルコトヲ得。

三、手旗ノ代用 手旗ナキトキハ帽子、手巾等ヲ以テ代用スルコトヲ得。

四、姿勢 手旗信號ハ通常立姿ヲ以テ行フモノトス、然レドモ情況地形等ニ依リ其ノ他ノ姿勢ニテ行フコトアリ。

其二 現示法及片假名信號作爲法

一、手旗通信ハ通常右手ニ赤旗、左手ニ白旗ヲ持チ片假名信號ヲ現示シ、或ハ其一方ノ旗ヲ以テ「モールス」符號ヲ現示シテ通信スルモノトス、此際旗ノ柄ニ卷キ附カザル如ク注意スルコト肝要ナリ。

二、手旗信號ヲ爲ス爲手旗ヲ持ツニハ食指ヲ伸バシ、柄ニ沿ヒテ其下部ヲ握リ之ヲ前臂ノ方向ニ一致セシムル如クシテ兩脚ノ外側ニ接スルモノトス。

手旗信號ノ現示法、片假名信號ノ作爲法ハ第八、九表ノ如シ。

原劃ノ現示正確ナルハ手旗信號ヲ確實ナラシムルノ基礎ナリ、故ニ原劃ハ十分嚴正ニ現示シ如何ナル場合ニ在リテモ其正確ヲ失ハザルコト肝要ナリ。

四、旗ヲ振ルニハ特ニ必要ナルモノ、外凡テ臂ヲ伸バシタル儘肩ヲ軸トシテ操作スルヲ要ス、而シテ信號ハ旗ヲ停止セシメタル瞬間ノミナラズ操作シツ、アル間モ亦併セテ讀解スルモノナルヲ以テ過急ニ之ヲ操作スベカラズ。

五、同一文字内ノ各原劃ハ瞬間停止セシムルノミニテ直ニ次ノ原劃ニ移リ一文字ノ作爲ヲ終レバ原姿ニ復ス、又文字ノ間隔ハ一文字間ノ各原劃ノ間隔ニ比シテ稍々長カラシメ以テ受信ヲ容易ナラシムベシ。

其三 手旗現字通信送受信ノ要領

一、送受信ノ要領左ノ如シ

1、送信、受信

送信者ハ起信符號ヲ送り、受信者ノ應信符號ヲ待ツテ所要ノ通信ヲ爲シ、通信終ラバ終信符號ヲ送ル。

受信者ハ應信符號ヲ送り受信シ、了解セバ解信符號ヲ送ル。
 2、誤送信、不明

旗 信 號

—(三二六)—

- 送信者 送信中誤字ヲ送りシトキハ直ニ誤謬訂正符號ヲ送り、受信者之レニ對シ誤謬訂正符號ヲ以テ應ズルヲ見、其誤リタル文字ヲ更ニ送信ス
- 受信者 受信中不明ノ文字等アルトキハ直ニ誤謬訂正符號ヲ送ル、此ノ際送信者ハ誤謬訂正符號ヲ以テ之ニ應ジ不明ノ部分又ハ其二、三字前ヨリ更メテ送信ス
- 3、區切點、段落、括弧、數字、符號、略號符號
- 送信者區切點、段落、數字符號若ハ略號符號ヲ送信セシトキハ受信者ハ之レト同一ノ符號ヲ送りテ應答ス。
- 4、區切點、段落、括弧、數字符號、略號符號以下ノ訂正。
- 區切點、段落、括弧、數字符號若ハ略號符號ヲ送信セシ後其符號以下ヲ訂正スルヲ要スル場合ニハ、誤謬訂正符號ニ續イテ當該符號ヲ送り、受信者ガ之ニ對シ同一ノ符號ヲ以テ應ズルヲ見其ノ誤リヲ訂正シテ更ニ送信ス
- 右ノ場合 受信者ガ送り直シヲ要求セントスルトキハ、誤謬訂正符號ニ續キテ當該符號ヲ表示ス。
- 此場合送信者ハ同様ノ符號ヲ以テ之レニ應答シ續イテ通信文ヲ再送ス。
- 5、全文訂正

送信者 現ニ送信シツ、在ル通信文ヲ悉ク取消シ再送セントスル場合ニハ誤謬訂正符號ニ續イテ起符號ヲ送り受信者ノ誤謬訂正符號ニ續イテ應符號ヲ以テ之ニ應答シタルヲ見、再送ス。

6、中途取消

送信者 送信中途ニ於テ其送信ノ全部ヲ取消サントスル場合ニハ、誤謬訂正符號ヲ送り、受信者ノ誤謬訂正符號ヲ以テ之レニ應答シタルヲ見、終符號ヲ送ル、然ルトキハ受信者モ亦終符號ヲ以テ之ニ應答ス。

7、受信者ヨリノ再送要求

受信者 受信中途若クハ終信後ニ於テ其通信文全部ノ再送ヲ要求セントスルトキハ、誤謬訂正符號ニ續イテ應符號ヲ送信ス、此時送信者ハ誤謬訂正符號ニ續イテ起符號ヲ送り更ニ通信文ヲ再送ス。

8、略號ノ送受

略號符號ヲ送信スル場合ニハ其前後ニ略號符號ヲ附スルヲ通常トス、然レドモ其ノ略號ナルコト明瞭ナル場合又ハ臨時ノ規定アル場合ニ於テハ略號符號ヲ省略スルコトアリ。

旗 信 號

—(三二七)—

常用略符號ハ第十表、臨時定ムル略符號ノ一例第十一表ノ如シ。

9、濁音半濁音ノ送付

濁音及半濁音ハ清音ヲ送信シ原姿ニ復シタル後濁點又ハ半濁點ヲ現示ス、之ヲ讀ムニハ先ヅ清音ヲ讀ミ次ニ濁點又ハ半濁點ヲ讀ム。

10、長キ通信文ノ送受

稍長キ通信文ハ之ヲ數句ニ分チ區切點ヲ附シテ送信スルヲ可トス。

11、通信所呼出符號ニ依ル呼出

對應通信所多キ場合ニハ各通信所毎ニ呼出符號ヲ定ムルモノトス、此ノ如キ場合ノ通信ハ、送信者ハ起信符號ヲ送ル前、先ヅ呼出符號ヲ連送シテ對者ヲ呼出スモノトス、受信通信所モ亦呼出符號ヲ連送シテ應答シタル後一般通信ノ方法ニ依リ通信ヲ開始スルモノトス。

第三節 單旗通信

其 一 要 旨

一、通信距離 單旗通信ハ肉眼ニテ約千二百米、雙眼鏡ヲ用フルトキハ其約二倍ノ距離

ニ通信スルコトヲ得。

二、單旗ノ代用 字號通信ハ單旗ヲ以テ實施スルヲ通常トスルモ手旗ヲ以テ之ヲ代用シ又夜間懐中電燈、隱顯燈等ヲ以テスル火光現示ニヨリ之ヲ實施スルコトヲ得ルモノトス。

其 二 單旗字號通信ノ概要

一、單旗ヲ以テスル字號通信ハ單旗ヲ以テ點ト線トヲ組合セタル符號ニ依リ「イ、ロ、ハ」文字ヲ現示スル通信法ニシテ此符號ヲ「モールス」符號ト稱ス。
「モールス」符號ハ廣ク有線、無線ノ通信ニ應用セララル。

二、單旗通信ヲ行フニハ右(左)手ヲ上、左(右)手ヲ下ニシ體ノ中央ヨリ左(右)約三十度ノ傾キヲ以テ單旗ヲ持チ。

點ヲ現スニハ右(左)斜約十五度マテ傾ケタル後原位ニ復シ線ヲ現スニハ右(左)方水平下約十五度マテ傾ケタル後原位ニ復スルモノトス。此際旗布ノ竿ニ卷キ附カザル如ク注意スルコト肝要ナリ。

三、字號ヲ現示スルニハ點ト線トノ區別ヲ明瞭ニシ、又作字間隔ヲ常ニ齊一ニスルコト特ニ肝要ナリ、火光ヲ使用スル場合ニハ特ニ線ノ現示ヲ稍々大ナラシムルヲ可トス。




四、和文用字號表ハ第十二表ノ如シ。

第四節 通信所勤務

- 一、通信所間ノ距離 通信所間ノ距離ハ地形、天候、氣象特ニ明暗ノ度及視力等ニ依リ大差アルモ良好ノ場合ニ於テハ概ネ左ノ如シ。
手旗信號 約七百米（双眼鏡ヲ用フルトキハ約千三百米）
單旗信號 約千二百米（双眼鏡ヲ用フルトキハ約二千米）
- 二、通信所位置ノ選定 通信所ノ位置ハ概ネ左ノ諸件ヲ顧慮シテ選定スルモノトス。
 - 1、連絡スベキ指揮官ノ所在地若ハ電話通信所ニ近接シアルコト。
 - 2、展望自在ニシテ且其位置ノ認知容易ナルコト及其後方ニ在ル投影物又ハ其附近ニ在ル地區、地物等ハ信號ノ認知ヲ妨ゲザルコト。
 - 3、敵眼、敵火ニ對シ掩蔽シアルコト。
 - 4、通信距離適度ナルコト。視號認識ノ難易ハ大ニ通信距離及速度ヲ増減ス、故ニ通信者ハ通信ニ方リ適當ナル位置ノ選定ヲ必要トス。
肉眼ヲ以テ明瞭ニ視號ヲ認識シ能ハザルトキハ双眼鏡ヲ用フルヲ可トス。

欠

欠

考	備	讀	括
三	一 信號中ニ數字ヲ挿入セントスルトキハ數字符號ヲ以テ其前後ヲ區別スルモノトス數字符號ノ後受信スル零ヨリ第九ニ至ル各原劃ハ其原劃番號ニ相當スヘキ數字ヲ示ス但テ十ヲ現スニハ第十原劃ニ依ラスシテ第一原劃ト零原劃トヲ以テ現スモノトス若シ數字中ニ諸點ヲ挿入シタルトキハ其後ニ現ス數字ハ奇數以下ニ讀解スルモノトス	點	弧
二	二 數字ヲ示ス原劃ハ最モ正確ニ現示シ且各原劃間ノ區別ヲ明瞭アラシムルコトニ特ニ注意スヘシ		
三	三 狀況ニ依リ立姿以外ノ姿勢ヲ以テ行フコトヲ得	左手ヲ垂レ右手ヲ右方四十五度下ニ出ス	シ受信者ノ應答ヲ見ハ直ニ之ヲ下口ス
			

旗信號用第八表

旗信號用第八表

手旗現字通信原劃等ノ現示法		名稱	現示	說明及圖例
原姿		原姿		兩手ヲ垂直ニ重ル
零原劃		零原劃		右手ヲ以テ重下ノ位置ヨリ左方ニ廻ハシテ圓ヲ畫ク
第一原劃		第一原劃		兩手ヲ左右水平ニ出ス
第二原劃		第二原劃		左手ヲ垂レ右手ヲ直ニ舉ク但テ及エテノ第二動ヲ畫クトキニ限リ右手ヲ垂レ左手ヲ垂直ニ舉ク
第三原劃		第三原劃		左手ヲ左四十五度上、右手ヲ右四十五度下ニ出ス
第四原劃		第四原劃		右手ヲ右四十五度上、左手ヲ左四十五度下ニ出ス
第五原劃		第五原劃		兩手ヲ兩足尖ノ方向ヨリ擧ケ頭上ニ交叉ス
第六原劃		第六原劃		右手ヲ右方水平ニ左手ヲ捷路ヨリ左方水平ニ出ス
第七原劃		第七原劃		右手ヲ垂直ニ舉ヘ左手ヲ左方水平ニ出ス
第八原劃		第八原劃		左手ヲ垂レ右手ヲ右方水平ニ出ス
第九原劃		第九原劃		右手ヲ右方水平ニ左手ヲ右手ノ下約三十五度ノ俯角ニ出ス